

資料

系列別主要劇場

劇場名	席数	仕様	劇場名	席数	仕様
伝統演劇系列					
国立劇場(大)	1,616	【大】	東京グローブ座	595～713	【中】
国立劇場(小)	526	【中】	スペース・ゼロ	575	【中】
国立文楽劇場	731～751	【中】	新神戸オリエンタル劇場	639	【中】
国立能楽堂	627	【中】	シアター・ドラマシティ	898	【中】
国立劇場おきなわ	578～632	【中】	現代演劇系列Ⅲ		
歌舞伎座	1,808	【大】	紀伊國屋ホール	416	【小】
大劇場演劇系列			紀伊國屋サザンシアター	468	【小】
新橋演舞場	1,428	【大】	バルコ劇場	458	【小】
明治座	1,368	【大】	博品館劇場	381	【小】
中日劇場	1,444	【大】	俳優座劇場	300	【小】
京都南座	1,086	【大】	両国シアターX	172～300	【小】
大阪松竹座	1,090	【大】	本多劇場	386	【小】
大阪新歌舞伎座	1,453～1,529	【大】	ザ・スズナリ	200	【小】
梅田芸術劇場 メインホール	1,905	【大】	下北沢駅前劇場	200	【小】
博多座	1,392～1,474	【大】	OFF・OFFシアター	100	【小】
現代演劇系列Ⅰ(国公立系)			下北沢「劇」小劇場	130	【小】
新国立劇場(中)	1,010～1,038	【大】	相鉄本多劇場	184	【小】
新国立劇場(小)	416～468	【小】	シアター・モリエール	186	【小】
東京芸術劇場 プレイハウス	834	【中】	シアター・サンモール	294	【小】
東京芸術劇場 シアターイースト	286	【小】	こまばアゴラ劇場	60～130	【小】
東京芸術劇場 シアターウエスト	259	【小】	ミュージカル演劇系列		
世田谷パブリックシアター	600	【中】	赤坂ACTシアター	1,324	【大】
シアタートラム	240	【小】	日生劇場	1,330	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(大)	776	【中】	帝国劇場	1,826	【大】
彩の国さいたま芸術劇場(小)	346	【小】	宝塚大劇場	2,550	【大】
ビッコシアター	396	【小】	東京宝塚劇場	2,069	【大】
兵庫県立芸術文化センター(中)	800	【中】	宝塚バウホール	500	【中】
あうるすぽっと	301	【小】	四季劇場「春」	1,255	【大】
座・高円寺1	238	【小】	四季劇場「秋」	907	【大】
座・高円寺2	256～298	【小】	電通四季劇場「海」	1,216	【大】
神奈川芸術劇場 ホール	1,300	【大】	四季劇場「夏」	1,200	【大】
現代演劇系列Ⅱ			自由劇場	500	【中】
シアタークリエ	611	【中】	大阪四季劇場	1,119	【大】
三越劇場	543	【中】	キャナルシティ劇場	1,144	【大】
サンシャイン劇場	832	【中】	名古屋四季劇場	約1,200	【大】
シアターコクーン	747	【中】	北海道四季劇場	994	【大】
天王洲銀河劇場	746	【中】			

上の内、大劇場は900席以上、中劇場は899～500席、小劇場は499席以下という基準で規定した。各流能楽堂、新国立劇場(大)、東京芸術劇場(大)、オーチャードホール、日本青年館は除いた。

※(公社)日本演劇興行協会所属劇場：歌舞伎座 新橋演舞場 明治座 中日劇場 南座 松竹座

新歌舞伎座 梅田芸術劇場 博多座 シアタークリエ サンシャイン劇場 帝国劇場

※中劇場協議会所属劇場：三越劇場 サンシャイン劇場 シアターコクーン 天王洲銀河劇場

紀伊國屋ホール 紀伊國屋サザンシアター バルコ劇場 博品館劇場 俳優座劇場 両国シアターX

本多劇場 シアターサンモール

2016年松竹株式会社主催公演

*は松竹を含めたスーパー歌舞伎Ⅱ『ワンビース』パートナーズの主催

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
歌舞伎座	「壽初春大歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	50
歌舞伎座	「二月大歌舞伎」	2/ 2～ 2/26	50
歌舞伎座	「中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露三月大歌舞伎」	3/ 3～ 3/27	50
歌舞伎座	「四月大歌舞伎」	4/ 2～ 4/26	50
歌舞伎座	「團菊祭五月大歌舞伎」	5/ 2～ 5/26	50
歌舞伎座	「六月大歌舞伎」	6/ 2～ 6/26	75
歌舞伎座	「七月大歌舞伎」	7/ 2～ 7/26	50
歌舞伎座	「八月納涼歌舞伎」	8/ 9～ 8/28	60
歌舞伎座	「秀山祭九月大歌舞伎」	9/ 1～ 9/25	50
歌舞伎座	「芸術祭十月大歌舞伎」 ※	10/ 2～10/26	50
歌舞伎座	「吉例顔見世大歌舞伎」 ※	11/ 1～11/25	50
歌舞伎座	「十二月大歌舞伎」	12/ 2～12/26	75
新橋演舞場	「初春花形歌舞伎」	1/ 3～ 1/24	39
新橋演舞場	「二月喜劇名作公演」	2/ 1～ 2/25	40
新橋演舞場	2016劇団☆新感線春興行「乱鶯」	3/ 5～ 4/ 1	32
新橋演舞場	「滝沢歌舞伎2016」	4/10～ 5/15	49
新橋演舞場	「寝盗られ宗介」	5/24～ 5/29	9
新橋演舞場	熱海五郎一座「熱闘老舗旅館 ヒミツの仲居と曲者たち」	6/ 3～ 6/27	37
新橋演舞場	「レビュー夏のおどり」	7/ 2～ 7/ 4	6
新橋演舞場	「松竹新喜劇爆笑七夕公演」	7/ 9～ 7/24	32
新橋演舞場	「舟木一夫シアターコンサート in 新橋演舞場」	7/25	2
新橋演舞場	「ミュージカル狸御殿」	8/ 1～ 8/27	37
新橋演舞場	「市川月乃助改め二代目喜多村緑郎襲名披露九月新派特別公演」	9/ 1～ 9/11	22
新橋演舞場	「ガラスの仮面～惹かれあう魂～」	9/16～ 9/26	16
新橋演舞場	「十月花形歌舞伎GOEMON石川五右衛門」	10/ 3～10/27	42
新橋演舞場	「三婆」	11/ 1～11/27	37
新橋演舞場	「舟木一夫特別公演」	12/ 2～12/24	36
新橋演舞場	「舟木一夫サンクスコンサート」	12/25	1
浅草公会堂	「新春浅草歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	49
三越劇場	「初春新派公演」	1/ 2～ 1/25	38
三越劇場	「おぼこ」	2/ 4～ 2/22	29
三越劇場	「六月新派特別公演」	6/ 2～ 6/25	37
三越劇場	「花形新派公演銀座復興」	6/19	1
三越劇場	「六月花形新派公演深川の鈴」	6/25	1
シアターコクーン	「四谷怪談」	6/ 6～ 6/29	38
日生劇場	「少年たち」	9/ 4～ 9/28	30
日生劇場	松竹創業120周年「春風亭小朝独演会 in 日生劇場」	5/28	2
日生劇場	松竹創業120周年「少年たち」	9/ 4～ 9/28	33
サンシャイン劇場	「グレイト・ギャツビー」	7/ 2～ 7/10	11
大阪松竹座	「壽初春大歌舞伎」	1/ 2～ 1/26	50
大阪松竹座	「桂米朝追善芝居地獄百景亡者戯」	2/ 6～ 2/22	30
大阪松竹座	スーパー歌舞伎Ⅱ「ワンビース」 *	3/ 1～ 3/25	40
大阪松竹座	「関西ジャニーズJr.春休みスペシャルshow2016」	3/31～ 4/11	16
大阪松竹座	「寝盗られ宗介」	4/16～ 4/24	9

※中村橋之助改め八代目中村芝翫、中村国生改め四代目中村橋之助、
中村宗生改め三代目中村福之助、中村宜生改め四代目中村歌之助襲名披露興行

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
大阪松竹座	「レビュー春のおどり」	5/ 1～ 5/ 8	16
大阪松竹座	「藤山寛美二十七回忌追善松竹新喜劇」	5/13～ 5/ 4	22
大阪松竹座	「ねずみ小僧捕物帳」	6/ 1～ 6/19	31
大阪松竹座	「中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露七月大歌舞伎」	7/ 3～ 7/27	50
大阪松竹座	「ANOTHER & SummerShow」	8/ 2～ 8/26	34
大阪松竹座	「ガラスの仮面～惹かれあう魂～」	9/ 1～ 9/11	17
大阪松竹座	「市川月乃助改め二代目喜多村緑郎襲名披露九月新派特別公演」	9/17～ 9/25	18
大阪松竹座	「桜花昇るファーストコンサート in 大阪松竹座」	10/16	2
大阪松竹座	西本智実プロデュース「座オペラ in 大阪松竹座」	10/26～10/27	2
大阪松竹座	「第七回三喬三味」	10/29	1
大阪松竹座	「笑う門には福来る～女興行師 吉本せい～」	11/ 4～11/25	36
大阪松竹座	「関西ジャニーズ Jr.X'mas show2016」	11/30～12/25	35
京都南座	「松竹新喜劇新春お年玉公演」	1/ 1～ 1/ 7	13
京都劇場	「鼓童35周年特別企画 鼓童プレミアムコンサート 坂東玉三郎がいにぎなう鼓童の世界」	6/ 1～ 6/ 3	5
ロームシアター京都	「グレイト・ギャツビー」	7/15～ 7/17	5
新神戸オリエンタル劇場	「グレイト・ギャツビー」	7/23～ 7/ 4	4
先斗町歌舞練場	當る西蔵「吉例顔見世興行」五代目中村雀右衛門襲名披露	11/30～12/25	78

2016年東宝株式会社主催公演

会場・劇場	上演作品	公演期間	回数
帝国劇場	JOHNNYS' WORLD	1/ 1～ 1/27	42
帝国劇場	Endless SHOCK	2/ 4～ 3/31	75
帝国劇場	1789～バスティーユの恋人たち～	4/ 9～ 5/15	48
帝国劇場	天使にラブ・ソングを シスター・アクト	5/22～ 6/20	39
帝国劇場	エリザベート	6/28～ 7/26	38
帝国劇場	王家の紋章	8/ 3～ 8/27	33
帝国劇場	DREAM BOYS	9/ 3～ 9/30	38
帝国劇場	ミス・サイゴン	10/15～11/23	58
帝国劇場	JOHNNYS' ALLSTARS ISLAND	12/ 3～12/30	35
シアタークリエ	花より男子 The Musical	1/ 5～ 1/24	25
シアタークリエ	The Sparkling Voice	1/28～ 2/ 1	8
シアタークリエ	ピアフ	2/ 7～ 3/13	41
シアタークリエ	GEM CLUB	3/19～ 4/ 1	19
シアタークリエ	エドウィン・ドルードの謎	4/ 4～ 4/25	29
シアタークリエ	ジャニーズ銀座 2016	4/29～ 5/31	51
シアタークリエ	ラディアント・ベイビー	6/ 6～ 6/22	23
シアタークリエ	ジャージー・ボーイズ	6/29～ 7/31	40
シアタークリエ	頭痛肩こり樋口一葉	8/ 5～ 8/25	27
シアタークリエ	VOICARION	8/27～ 9/ 5	15
シアタークリエ	縁～むかしなじみ～	9/11～ 9/25	21
シアタークリエ	雪まろげ	9/28～10/19	28
シアタークリエ	一人♡二役～殺したいほどジュテーム～	10/22～11/08	19
シアタークリエ	貴婦人の訪問	11/12～12/ 4	31
シアタークリエ	ナイスガイ IN ニューヨーク	12/ 7～12/27	25
日生劇場	ABC座2016 株式会社応援屋!!	10/ 5～10/27	35
日生劇場	プリシラ	12/ 8～12/29	30
東京国際フォーラムホールC	ジギル&ハイド	3/ 5～ 3/20	21
東京芸術劇場プレイハウス	マイ・フェア・レディ	7/10～ 8/ 7	37
シアター1010	雪まろげ	9/24～ 9/25	3
シアター1010	一人♡二役～殺したいほどジュテーム～	10/ 7～10/10	5

2016年宝塚歌劇団主催公演

会場	組	演目	期間	回数
宝塚大劇場	宙組	Shakespeare～空に満つるは、尽きせぬ言の葉～/HOT EYES!!	1/ 1～ 2/ 1	45
宝塚大劇場	雪組	るろうに剣心	2/ 5～ 3/14	54
宝塚大劇場	星組	こうもり／THE ENTERTAINER!	3/18～ 4/25	54
宝塚大劇場	花組	ME AND MY GIRL	4/29～ 6/ 6	55
宝塚大劇場	月組	NOBUNAGA (信長) 一下天の夢—/Forever LOVE!!	6/10～ 7/18	54
宝塚大劇場	宙組	エリザベート—愛と死の輪舞(ロンド) —	7/22～ 8/22	45
宝塚大劇場	星組	桜華に舞え／ロマンス!!	8/26～10/ 3	54
宝塚大劇場	雪組	私立探偵ケイレブ・ハント／Greatest HITS!	10/ 7～11/ 7	45
宝塚大劇場	花組	雪華抄/金色の砂漠	11/11～12/13	45
東京宝塚劇場	月組	舞音-MANON-/GOLDEN JAZZ	1/ 3～ 2/14	62
東京宝塚劇場	宙組	Shakespeare～空に満つるは、尽きせぬ言の葉～/HOT EYES!!	2/19～ 3/27	54
東京宝塚劇場	雪組	るろうに剣心	4/ 1～ 5/ 8	55
東京宝塚劇場	星組	こうもり／THE ENTERTAINER!	5/13～ 6/19	54
東京宝塚劇場	花組	ME AND MY GIRL	6/24～ 7/31	55
東京宝塚劇場	月組	NOBUNAGA (信長) 一下天の夢—/Forever LOVE!!	8/ 5～ 9/ 4	44
東京宝塚劇場	宙組	エリザベート—愛と死の輪舞(ロンド) —	9/ 9～10/16	55
東京宝塚劇場	星組	桜華に舞え／ロマンス!!	10/21～11/20	44
東京宝塚劇場	雪組	私立探偵ケイレブ・ハント／Greatest HITS!	11/25～12/25	44
宝塚バウホール	星組	鈴蘭(ル・ミュゲ) —思い出の淵から見えるものは—	1/21～ 1/31	17
宝塚バウホール	宙組	Bow Singing Workshop～宙～	6/ 2～ 6/ 4	5
宝塚バウホール	星組	Bow Singing Workshop～星～	6/26～ 6/28	5
宝塚バウホール	星組	One Voice	7/ 3～ 7/12	15
宝塚バウホール	雪組	Bow Singing Workshop～雪～	7/28～ 7/30	5
宝塚バウホール	花組	Bow Singing Workshop～花～	8/11～ 8/13	5
宝塚バウホール	花組	アイラブインシュタイン	9/15～ 9/25	17
宝塚バウホール	月組	FALSTAFF	10/10～10/21	17
宝塚バウホール	月組	Bow Singing Workshop～月～	10/30～11/ 1	5
宝塚バウホール	宙組	双頭の鷲	11/22～12/ 3	17
梅田芸術劇場 メインホール	星組	LOVE & DREAM	1/23～ 1/28	8
梅田芸術劇場 メインホール	花組	Ernest in Love	2/ 3～ 2/14	18
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	花組	For the people—リンカーン 自由を求めた男—	2/13～ 2/23	16
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	月組	Voice	4/ 8～ 4/20	20
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	宙組	ヴァンパイア・サクセッション	5/ 3～ 5/11	14
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	雪組	ドン・ジュアン	7/ 2～ 7/12	16
梅田芸術劇場 メインホール	雪組	ローマの休日	7/30～ 8/15	25
梅田芸術劇場 シアター・ドラマシティ	月組	アーサー王伝説	10/28～11/ 9	20
梅田芸術劇場 メインホール	—	タカラヅカスペシャル2016～Music Succession to Next～	12/22～12/23	4
全国ツアー	月組	激情／Apasionado (アパシヨナード) !! III	3/19～ 4/17	41
全国ツアー	花組	仮面のロマネスク／Melodia—熱く美しき旋律—	9/ 2～ 9/22	29
全国ツアー	宙組	バレンシアの熱い花／HOT EYES!!	11/18～12/11	31
KAAT神奈川芸術劇場	花組	For the people—リンカーン 自由を求めた男—	3/ 4～ 3/10	11
KAAT神奈川芸術劇場	宙組	ヴァンパイア・サクセッション	5/17～ 5/23	11
KAAT神奈川芸術劇場	雪組	ドン・ジュアン	6/18～ 6/26	13
KAAT神奈川芸術劇場	宙組	双頭の鷲	12/ 9～12/15	11
東京国際フォーラム	星組	LOVE & DREAM	1/ 6～ 1/17	19
赤坂ACTシアター	月組	Voice	3/26～ 3/31	10
赤坂ACTシアター	雪組	ローマの休日	6/25～ 7/10	24
文京シビックホール	月組	アーサー王伝説	10/14～10/19	10
中日劇場	花組	Ernest in Love	2/20～ 3/ 9	28
中日劇場	雪組	ローマの休日	6/14～ 6/19	9
博多座	宙組	王家に捧ぐ歌	5/ 5～ 5/28	36

2016年劇団四季主催公演

※貸切含む。

※台風・大雪による中止は除く。

会場	上演作品	公演期間 (上演作品は現時点での公演決定日まで)	公演回数 (16年回数/公演期間中の総回数)
四季劇場[春]	『ライオンキング』	98/12/20～17/ 5/28	328/6327
四季劇場[秋]	『サウンド・オブ・ミュージック』	15/ 8/ 9～16/ 1/31	29/163
四季劇場[秋]	『ウェストサイド物語』	16/ 2/14～16/ 5/ 8	80
四季劇場[秋]	『ガンバの大冒険』 ころの劇場	16/ 5/20～16/ 7/15	81
四季劇場[秋]	『マンマ・ミーア!』	16/ 8/ 2～16/10/23	80
四季劇場[秋]	『ノートルダムの鐘』	16/12/11～17/ 4/30	19/130
自由劇場	『エルコスの祈り』	15/12/20～16/ 1/11	13/24
自由劇場	『人間になりたがった猫』	16/ 3/27～16/ 4/10	19
自由劇場	『コーラスライン』	16/ 4/17～16/ 5/15	27
自由劇場	『エクウス(馬)』	16/ 6/26～16/ 7/10	15
自由劇場	『ガンバの大冒険』	16/ 7/23～16/ 8/21	34
自由劇場	『壁抜け男』	16/ 9/27～16/11/13	45
自由劇場	『嵐の中の子どもたち』	16/12/23～17/ 1/ 9	10/20
電通四季劇場[海]	『アラジン』	15/ 5/24～17/12/31	336/866
四季劇場[夏]	『リトルマーメイド』	13/ 4/ 7～17/ 4/ 9	336/1350
	小計		1452
大阪四季劇場	『ライオンキング』	12/10/28～16/ 5/15	121/1196
大阪四季劇場	『キャッツ』	16/ 7/16～17/ 8/31	157/382
	小計		278
京都劇場	『美女と野獣』	16/11/12～17/ 5/21	45/175
	小計		45
新名古屋ミュージカル劇場	『オペラ座の怪人』	15/ 9/20～16/ 8/21	217/312
名古屋四季劇場	『リトルマーメイド』	16/10/16～17/ 6/30	71/237
	小計		288
北海道四季劇場	『キャッツ』	15/ 1/18～16/ 3/21	72/388
北海道四季劇場	『ウィキッド』	16/ 5/ 3～16/11/ 6	175
	小計		247
東京エレクトロンホール宮城	『美女と野獣』	15/10/25～16/ 1/17	16/78
	小計		16
チャンネルシティ劇場	『美女と野獣』	16/ 3/13～16/ 8/28	158
	小計		158
1都市／通算52都市	『クレイジー・フォー・ユー』	15/ 8/29～16/ 1/ 3	3/90
28都市	『コーラスライン』	15/12/19～16/ 3/20	55/62
72都市	『ウェストサイド物語』	16/ 6/25～17/ 1/ 9	124/133
19都市／通算44都市	『人間になりたがった猫』ころの劇場	15/ 8/17～16/ 3/15	41/112
11都市／通算34都市	『人間になりたがった猫』全国公演	15/ 7/26～16/ 3/21	14/37
20都市／通算91都市	『むかしむかしゾウがきた』ころの劇場	15/ 4/28～16/ 3/10	39/212
12都市／通算37都市	『むかしむかしゾウがきた』全国公演	15/ 4/25～16/ 3/23	12/49
22都市／通算40都市	『王子とこじき』ころの劇場	16/ 8/19～17/ 3/14	66/110
19都市／通算33都市	『王子とこじき』全国公演	16/ 8/ 6～17/ 3/26	20/37
21都市	『王子とこじき』日産労連チャリティ公演	16/11/14～16/12/21	21
77都市／通算95都市	『エルコスの祈り』ころの劇場	16/ 4/27～17/ 3/ 3	149/185
32都市／通算37都市	『エルコスの祈り』全国公演	16/ 4/23～17/ 2/26	39/44
19都市	『ガンバの大冒険』ころの劇場	16/ 9/13～16/12/13	80
9都市	『ガンバの大冒険』全国公演	16/ 9/18～16/12/12	16
1都市	『ガンバの大冒険』日産労連チャリティ公演	16/12/ 6	1
	小計		680
	総合計		3164

平成28年 演劇賞 関係各賞受賞者

【平成28年度文化勲章】

▽平岩弓枝氏(84)作家

【平成28年度文化功労者】

▽杉良太郎氏(72)俳優・歌手

【平成28年度春の褒章】

◇紫綬褒章▽周防正行氏(59)映画監督

▽山本隆之氏(44)バレエダンサー

◇旭日綬章▽富司純子氏(70)俳優

北島三郎氏(79)歌手▽サルバトール・

アダモ氏(72)ベルギーの歌手

【平成28年度秋の褒章】

◇紫綬褒章▽部谷京子氏(61)映画美術監督▽五街道雲助氏(68)落語家

◇旭日綬章▽波乃久里子氏(70)新派女優

◇旭日双光章▽市川段四郎氏(70)歌舞伎俳優

◇黄綬褒章▽島田繁夫氏(78)歌舞伎大道具製作技術者

【第72回日本芸術院賞・恩賜賞】

◇恩賜賞・日本芸術院賞▽坂東玉三郎氏(歌舞伎俳優、歌舞伎女形を代表する活躍及び演技の成果)

◇芸術院賞▽高橋章氏(能楽家)シテ

方)能楽における優れた舞台成果と後進育成の業績▽中村歌六氏(歌舞伎俳優)歌舞伎脇役において深く掘り下げた芸風▽中村梅彌氏(日本舞踊家)日本舞踊における優れた作舞、後進育成の業績

【平成28年度重要無形文化財保持者】

7月15日、文化審議会は重要無形文化財保持者(人間国宝)を認定するよう答申した。うち演劇関係者は次の4名。

◇能シテ方 野村四郎氏

◇能シテ方 大槻文蔵氏

◇歌舞伎脇役 中村東蔵氏

◇琵琶奏者 奥村旭聖氏

【平成28年度第71回文化庁芸術祭賞】

◇演劇

◇大賞▽梅若万三郎氏 橘香会 能

◇朝長)における演技

◇優秀賞▽松竹株式会社 芸術祭十月大歌舞伎「熊谷陣屋」の舞台成果▽庭劇

団ベニノ 地獄谷温泉無明ノ宿の成果

◇新人賞▽木ノ下裕一氏 木ノ下歌舞伎 勧進帳の成果

◇優秀賞▽後藤早知子氏 スライス・

オブ・ライフの成果▽花柳園喜輔氏

拓の会別会「園喜輔創る躍る変化舞踊の魅力」の成果▽地主薫バレエ団 2016年 地主薫バレエ団公演「人魚姫」プロローグ付き全3幕の成果▽若柳吟采氏 若柳采利サイタルの成果

◇新人賞▽大沼由紀氏 Espontanea IV フラメンコ、自然発生的な成果▽きたまり氏 きたまり・KIKIKIKIKIKIKI 新作公演「夜の歌」Aプログラムの成果

◇大賞▽桂文之助氏 桂文之助独演会の成果

◇優秀賞▽熊澤南水氏 南水ひとり語りの成果▽古今亭菊之丞氏 鈴木余一会第十五回 古今亭菊之丞 独演会の成果▽ラッキー幸治氏 ラッキー幸治芸歴七十周年記念公演豊家一門会の成果

◇新人賞▽柳家東三様氏 柳家東三様の会秋の成果▽笑福亭鉄瓶氏 第七回笑福亭鉄瓶らくご会の成果

【第66回芸術選奨】

◇文部科学大臣賞(演劇)▽ケラリ・ノ・サンドロヴィッチ氏 劇作家・演出家「グッドバイ」▽濱田めぐみ氏(女優)「スコット&ゼルダ」(映画)▽芦澤

明子氏(カメラマン)「さようなら」▽高屋齋氏(映画照明)「龍三」と七人の子たち「音楽」▽児玉宏氏(指揮者)「大阪交響楽団第196回定期演奏会」▽中川善雄氏(邦楽囃子笛方)「中川善雄笛の会」(舞踊)▽中村祥子氏(バレエダンサー)Kバレエカンパニー秋公演「白鳥の湖」▽藤間蘭黄氏(日本舞踊家)バレエ・日本舞踊 夢の響宴「出会い」

◇大衆芸能)▽漫才師オール阪神氏(漫才師オール阪神・巨人)オール阪神・巨人40周年記念公演「ふたりのW成人式」▽松本隆氏(作詞家)コンサート「風街レジェンド2015」

◇芸術振興)▽日比野克彦氏(アーティスト)「六本木アートナイト2015」

◇新人賞(演劇)▽成田達志氏(能楽師)幸流小鼓方「鳥頭」(映画)▽濱口竜介氏(映画監督)「ハッピーアワー」(音楽)

▽中村恵理氏(音楽家)「中村恵理ソプラノ・リサイタル」(舞踊)▽山村光氏(日本舞踊家)「山村光リサイタル」(大衆芸能)▽柳家三三氏(落語家)「月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

9月例三三独演」(芸術振興)▽廣川麻子氏(NPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク理事長)シンポジウム「よい良い観劇システムの構築に向けて、今できること」

明子氏(カメラマン)「さようなら」▽高屋齋氏(映画照明)「龍三」と七人の子たち「音楽」▽児玉宏氏(指揮者)「大阪交響楽団第196回定期演奏会」▽中川善雄氏(邦楽囃子笛方)「中川善雄笛の会」(舞踊)▽中村祥子氏(バレエダンサー)Kバレエカンパニー秋公演「白鳥の湖」▽藤間蘭黄氏(日本舞踊家)バレエ・日本舞踊 夢の響宴「出会い」

【平成28年度文化庁長官表彰】

▽玄葉裕美氏（舞台照明家）▽常磐津美佐季氏（常磐津節太夫）▽親泊興照氏（組踊立方・琉球舞踊家）▽田中敏長氏（雅楽管楽器製作修理技術者）▽佃三恵子氏（邦楽器原系製造技術者）▽徳永二男氏（ヴァイオリン演奏家）▽藤舎名生氏（横笛奏者）▽松原千代繁氏（一般財団法人長野市文化芸術振興財団長野市芸術館総支配人）▽宮城幸子氏（琉球舞踊家）▽大月みやこ氏（歌手）

【第58回毎日芸術賞】

▽石井ふく子氏（テレビプロデューサー）▽黒沢清氏（映画監督）

【特別賞】

▽坂本冬美氏（歌手）
▽第19回千田是也賞
▽藤井こう氏（演出家・劇作家）

【第67回読売文学賞】

◇戯曲・シナリオ賞▽荒井晴彦氏（「この国の空」原作・高井有一）

【第24回読売演劇大賞】

◇大賞・最優秀スタッフ賞▽堀尾幸男氏（NODA・MAP「逆鱗」と、世田谷パブリックシアター、エッチビィ「遠野物語・奇っ怪 其ノ参」の美術）
◇最優秀作品賞▽東宝/WOWOW「ジャージ・ボーイズ」
◇最優秀男優賞▽中川晃教氏（ジャージ・ボーイズ）の演技

◇最優秀女優賞▽鈴木杏枝氏（「イニシユマン島のピリ」の演技）

◇最優秀演出家賞▽ケラリーノ・サンドロウィッチ氏（「8月の家族たち」の演出）

◇杉村春子賞（新人賞）▽三浦春馬氏（「キンキーブーツ」の演技）

◇芸術栄誉賞▽吉井澄雄氏

◇選考委員特別賞▽三浦基氏（「ヘッダ・ガブラー」桜の園」の演出）

【第67回NHK放送文化賞】

▽尾上菊五郎氏（歌舞伎俳優）▽高畑文雄氏（早稲田大学教授）▽竹内誠氏（俳優）▽ヘルベルト・ブロムシュテット氏（NHK交響楽団名誉指揮者）▽由紀さおり氏（歌手）

◇第42回放送文化基金賞

番組部門

◇演技賞▽佐藤健氏（TBSテレビ60周年特別企画日曜劇場 天皇の料理番）▽樹木希林氏（福岡発地域ドラマ「いの森の家」）

◇企画賞▽小山田文泰氏（しあわせ食堂笑顔と孤独と優しさ）

◇演出賞▽羽根井信英氏（1000分de平和論）

◇脚本賞▽瀬戸山美咲氏（FMシアターあいちやんは幻）

◇最優秀賞▽青森放送（第30回民教協スペシャルしあわせ食堂笑顔と孤独と優しさ）▽TBSテレビ（年末ドラ

マ特別企画 赤めだか）▽東海テレビ放送（人生フルーツ ある建築家と雑木林のものがたり）▽CBCラジオ（賛の森）

◇優秀賞▽NHK（NHKスペシャル 原発メルトダウン危機の88時間）▽TBSテレビ（TBSテレビ60周年特別企画日曜劇場 天皇の料理番）▽テレビ朝日（NHK、NHKエデュケーション1000分de平和論）▽NHK名古屋放送局（FMシアターあいちやんは幻）

◇奨励賞▽北日本放送（KNBふるさとスペシャル沈黙の70年 富山空襲と孤児たちの戦後）▽NHK大阪放送局、NHK神戸放送局（NHKスペシャル 震度7 何が生死を分けたのか）埋もれたデータ 21年目の真実）▽テムジン、NHK、NHKエンタープライズ（NHKスペシャル 女たちの太平洋戦争 従軍看護婦 激戦地の記録）▽BS朝日 開局15周年記念番組 大江戸事件帖 美味でせうろう）▽NHK福岡放送局（福岡発地域ドラマ いとの森の家）▽NHK（プラタモリ）▽山陰放送（水木しげるの93歳の探検記）妖怪と暮らした出雲国）▽西宮コミュニティ放送（さくらFMスペシャル）▽福山雅治「被爆クスノキ」へのメッセージ）

【平成28年度第45回大谷竹次郎賞】
▽該当作品なし

【平成28年度第41回菊田一夫演劇賞】
◇大賞▽花總まり氏（「エリザベート」におけるエリザベート役の演技）

◇演劇賞▽梅沢昌代氏（「ピアフ」のトワヌ役の演技）▽駒田一氏（「ラ・マンチャの男」のサンチョ、レ・ミゼラブル」のテナルディエの演技）▽小川絵梨子（「夜想曲集」RED」の演出）

◇特別賞▽竜真知子氏（永年のミュージカルにおける訳詞の功績）

【第51回紀伊國屋演劇賞】

◇団体賞▽シエティティブロデューズ（「End of the RAINBOW」や「クレシダ」などの年間の活動）
◇個人賞▽佐藤晋氏（「inside」の演技）
▽ケラリーノ・サンドロウィッチ氏（「キネマと恋人」の台本・演出）
▽詩森ろば氏（「残花」の作・演出）
▽高田聖子氏（「とどめ雪」の演技）
▽市川猿之助氏（「元禄港歌」千年の恋の森」の演技）

【第61回岸田國士戯曲賞】

▽「来ててつかるべき新世界」作・上田誠氏

【第22回ニッセイバックステージ賞】

▽山中正夫氏（箏の製作 調整 舞台設営）
▽下斗米雪子氏（オペラ衣裳製作）

【第20回鶴屋南北戯曲賞】

▽逢菜竜太氏「母と惑星について、および自転する女たちの記録」

【第38回松尾芸能賞】

◇大賞▽林英哲氏(邦楽・太鼓)

◇優秀賞▽沢電二氏(大衆演劇)▽西川左近氏(舞踊)▽堀内孝雄氏(歌謡)▽中村錦之助氏(演劇)

◇新人賞▽鶴澤津賀花氏(邦楽)▽遠藤千晶氏(邦楽)

◇特別賞▽澤登翠氏(映画)

【第33回浅草芸能大賞】

◇大賞▽加山雄三氏(俳優・歌手)

◇奨励賞▽ナイツ(漫才師)

◇新人賞▽尾上松也氏(歌舞伎俳優)

【第49回長谷川伸賞】

◇山折哲雄氏(宗教学者・評論家)

【平成27年度第35回日本照明家協会賞】

【舞台部門】

◇文部科学大臣賞・大賞▽渡部良一氏

オールド・ホール名作ミュージカル「ショウ・ボート」富山市芸術文化ホール

◇舞台部門 スタッフ賞▽渡部佳子氏、吉田仁美氏(公財)富山市民文化事業団、吉田一氏・中林隆太郎氏(株)セツトアップ、澤田圭孝氏(株)アートエレクトロン、成久克也氏、田上貴子氏、砂川仁美氏、西村俊二氏、中村吉成氏(吉栄電気)

◇優秀賞▽大迫浩二氏 SPAC製作「マハーバーラタ」ナラ王の冒険」駿府城公園▽榎木実氏「AN, A'KH(宿命)」ノートルダム・ド・パリより八尾市文化会館ブリズムホール

高田政義氏 ダンス・スペース平山素子 演出・振付「POISON」シェイクスピアを喰らう」穂の国とよはし芸術劇場PLAT▽柚木健志氏 はじめてのオペラ カルメン 総社市民会館

◇新人賞▽武野郁也氏 R dance company 15周年記念公演「ZERO FESTIVAL 2015」STORY」清水町文化センター大ホール▽野村剛氏 鹿角市文化の社交流開館記念事業Moriのフアンタジー」ふしぎの杜の妖精たちへ

鹿角市文化の社交流文化ホール▽影山雄一氏 JDI旗揚げ記念公演「プレミアム・ダンス・ガラ」メルパルクホール東京▽紀大輔氏「孤島の鬼」赤坂レッドシアター▽古川博氏 ハラプロジェクトATURTEL ISLANDプロジェクト歌舞台「ハラ版 天守物語」名古屋能楽堂▽酒見輝久氏 表現倶楽部うどい「新龍神伝説」風の声

がきこえる」武雄市文化会館大ホール◇奨励賞▽照井農氏 アーリドラテ歌劇団公演「ドンカルロ」オペラ全4幕 昭和音楽大学▽松本大介氏「悲しみを聴く石」シアター風姿花伝▽杉

浦清数氏 ミュージカル「The Light in the Piazza」名古屋市青少年文化センターアートピアホール▽鮫島強志氏「日はまた昇る」ぼんブラザホール

◇努力賞▽児山徹氏 第5回帯広市民オペラ 喜歌劇「こもり」帯広市民文化ホール大ホール▽高橋研氏「土に叫ぶ人 義農 松田甚次郎」新庄市民文化会館大ホール▽大川昌宏氏 Kai a final LIVE TOUR 2015」2016「far on the water」東京国際フォーラムホールA▽村瀬満佐夫氏 別馬演劇設計社PLANET 7「モンスタとしての私」名古屋市千種文化小劇場▽葛西健一氏 下鴨車窓公演「漂着」八尾市文化会館ブリズムホール小ホール

◇特別賞▽林部幸一氏 祭り in 大町・北安曇2015 Aganinふたたび大町市文化会館▽沖田考文氏 ミュージカル「金色のステッチ」アルファあなぶきホール

◇技術賞▽長谷川晃氏 照明器具固定装置(呼称「NZハンガー」)の発案・製作 PRG(株)

【テレビ部門】

◇文部科学大臣賞・大賞▽打越裕次氏 NHK総合テレビ 放送90年ドラマ経世済民の男「鬼とよばれた男」松永安左エ門

◇テレビ部門 スタッフ賞

▽酒井隆行(株)Light Groove、前岡泰彦、斎藤綾子(株)G-Take、寺田吉宏、林良樹(株)若尾総合舞台

◇優秀賞▽久慈和好氏 NHK総合テレビ 放送90年ドラマ「紅白が生まれた日」▽風間大介氏 TBSテレビ 金曜ドラマ「コウノドリ」第10話▽宮脇正樹氏 WOWOW 日曜オリジナルドラマ連続ドラマW「石の繭(第一話)▽川口徹氏 NHK総合テレビ「SONGS 井上陽水」UNITE DCOVER」

◇最優秀新人賞▽植松勇至氏 フジテレビ「MUSIC FAIR」

優秀新人賞▽上野涼氏 NHK総合テレビ「第18回熱血!オヤジバトル」

新人賞▽児玉黎峰氏 フジテレビ「問題のあるレストラン」第7話▽坂本心氏 フジテレビ「容疑者は8人の人気芸人」▽小口拓也氏 NHKBSPレミアム「新BS日本のうた」千葉泉君津市「#571」▽嶋原将太氏 BS1TBS「Seikopresents Sound Inn」#8

選考委員特別賞▽湊健太郎氏 テレビ朝日「報道ステーション」演奏企画中継

◇奨励賞▽鋤野雅彦氏 TBSテレビ 日曜劇場「下町ロケット」第1話▽牛尾裕一氏 NHK総合テレビ 放送90年ドラマ経世済民の男「小林一三」後編▽岩本真也氏 テレビ朝日 30周年目録

入！史上初の10時間SP「MUSIC STATION ウルトラFES」▽小倉康裕氏 テレビ朝日 報道ステーション「ライオンキング」

◇努力賞▽桜井利栄氏 NHK総合テレビ ドラマ10「美女と男子」第10回▽瀬野勝夫氏 NHKBSプレミアム北海道地域発ドラマ「農業女子はらべ娘」▽天野高将氏 日本テレビ 土曜ドラマ「DS 刑事」第7話▽木戸昭彦氏 BS-TBS 北島三郎 芸道スペシャル「愛と絆と歌人の軌跡」▽大野祐樹氏 NHKBSプレミアム ザ少年倶楽部 #454▽池谷祐介氏 テレビ朝日 関ジャム 完全燃SHOW

◇技術賞▽中村貴志氏 ユニット交換型LEDマルチレーションライトの開発 関西テレビ放送(株)

【第43回伊藤嘉明賞】
(日本舞台美術家協会)

◇伊藤嘉明賞▽柴田隆弘氏(つながる音楽劇「まふみクワツエ」)

◇新人賞▽長峰麻貴氏(「おばけリンゴ」)

◇奨励賞▽大島広子氏(「ユビュ王」)

◇特別賞▽村田正博氏(舞台美術家)

【第43回伊藤嘉明賞】
(テレビ日本美術家協会)

◇伊藤嘉明賞▽山口高志氏(日本放送協会「SONGS スペシャル 井上陽

水)

◇協会賞▽井領伸介、横井勝、小林尚弘、鹿内遙氏(テレビ朝日)加藤由紀子、小谷知輝氏(テレビ朝日クリエイト)(30年目突入！史上初の10時間SP「MUSIC STATION ウルトラFES」)

◇新人賞▽高橋太一氏(日本テレビアート)

◇特別賞▽廣谷鏡子氏(NHK放送文化研究所)

【第32回日本舞台芸術家組合賞】

▽石川君子氏(衣裳部・俳優座)

▽伊東史朗氏(俳優(人形遣い)・ひとみ座)

▽平野茂氏(照明・歌舞伎座)

▽藤間多寿氏(日本舞踊家・前進座)

【第24回橋田賞】

◇橋田賞Ⅱ▽天皇の料理番(TBS)▽連続テレビ小説「あさが来た」(NHK)▽大森美香氏(「あさが来た」の脚本)▽古沢良太氏(「デート」恋とはどんなものかしら)(フジテレビ)などの脚本(▽岸本加世子氏(居酒屋もへじ)(TBS)など)▽佐藤健氏(天皇の料理番)▽鈴木亮平氏(天皇の料理番)

◇新人賞▽吉田羊氏(「コウノドリ」(TBS)など)

◇特別賞▽三田佳子氏(女優)

【第34回向田邦子賞】

▽藤本有紀氏(「ちかえもん」(NHK))

【第40回全児演賞】

◇正賞▽藤英子氏(「レイシアターもぜ」)

◇奨励賞▽奥洞昇氏(人形劇団クララルテ)

【日本児童青少年演劇協会賞】

▽後藤圭氏(劇団かし座代表)

【第26回O夫人児童青少年演劇賞】

▽新田めぐみ氏(劇団如月舎)

【第72回読売映画・演劇広告賞】

◇最優秀賞「新春浅草歌舞伎」松竹株式会社

◇優秀賞「ころの劇場」劇団四季

◇両部門共通企画賞 映画妖怪ウォッチ「企画」「つながる！ 等身大書初め編」

【第4回市川森一脚本賞】

▽足立紳氏(「佐知とマユ」(NHK))

【第36回伝統文化ボーラ賞】

◇優秀賞▽砂崎知子氏(箏曲の演奏・振興)

◇奨励賞▽井上安寿子氏(京舞の伝承)

◇地域賞▽木村陽子氏(金沢素囃子の継承・振興)(石川)▽中江岩戸神楽保

存会(岩戸神楽の保存・伝承)(熊本)

【第20回日本伝統文化振興財団賞】

▽川瀬露秋氏(地歌歌曲・胡弓)

【第5回中島勝祐創作賞】

▽若獅子会「若獅子」

【第28回高松宮殿下記念世界文化賞】

▽マーティン・スコセッシ氏(アメリカの映画監督、脚本家、映画プロデューサー)

【東久邇宮国際文化褒賞】

▽神崎順氏(俳優・演出家)

【第21回AICT演劇評論賞】

▽長谷川康夫氏(「つかこうへい正伝」)

【第9回小田島雄志・翻訳戯曲賞】

▽洪明花氏(代代孫孫2016「トンマッコルへようこそ」の翻訳▽秋月準也氏「ゾーヤ・ペーリックのアパート」の翻訳

【若手演出家コンクール2015】

◇最優秀賞▽西尾佳織氏(鳥公園)

◇観客賞▽村井雄氏(開幕ベナントレース)

【第47回舞踊批評家協会賞】

▽笠井勲氏(受賞辞退)▽吾妻寛穂氏▽中村祥子氏

◇新人賞▽キミホ・ハルバート氏▽佐東利穂子氏▽花柳幸舞音氏▽銚久奈緒美氏

【第64回舞踊芸術賞】

◇磨赤児氏(舞踏)
◇井上八千代氏(京舞)

【花柳壽應賞第31回新人賞】

▽尾上紫氏(邦舞)

【第22回劇作家協会新人戯曲賞】

▽南出謙吾氏「触れただけ」

【第23回OMS戯曲賞】

◇大賞▽福谷圭祐氏「悪い癖」(匿名劇場)
◇佳作▽橋本健司氏「また夜が来る」(KOINU)

【第44回日本新劇製作者協会賞】

◇田村恵氏(音響プランナー)

【日本の戯曲賞2016】

◇最優秀賞▽くるみざわしん氏「同郷同年」

【第46回東燃ゼネラル音楽賞】

▽稀音家義丸氏(長唄演奏家・研究家)

【第7回若谷時子賞】

▽渡辺謙氏(俳優)

奨励賞▽新妻聖子氏(俳優)

特別賞▽戸田奈津子氏(映画字幕翻訳家)

Foundation for Youth▽井上朋実氏(クラリネット奏者)▽吉田南氏(バイオリニスト)

【第25回モンブラン国際文化賞】

▽坂本龍一氏(音楽家)

【第4回悲劇喜劇賞】

▽「キネマと恋人」(世田谷パブリックシアター+KERA・MAP#007)(主催)公益財団法人せたがや文化財団

【勝手に演劇大賞2016】

作品賞▽NODA・MAP「逆鱗」(ストリート部門)
作品賞▽ジャージ・ボーイズ(ミュージカル部門)

男優賞▽浦井健治氏
女優賞▽花總まり氏
演出家賞▽藤田俊太郎氏(ジャージ・ボーイズ)

【第71回毎日映画コンクール】

◇日本映画大賞▽「シン・ゴジラ」
◇日本映画優秀賞▽「この世界の片隅に」

◇外国映画ベストワン賞▽「ハドソンの奇跡」

◇監督賞▽西川美和氏「永い言い訳」

◇脚本賞▽向井康介氏「聖の青春」

◇男優主演賞▽本木雅弘氏「永い言い訳」
◇女優主演賞▽筒井真理子氏「淵に立つ」

◇男優助演賞▽香川照之氏「クリービー偽りの隣人」

◇女優助演賞▽市川実日子氏「シン・ゴジラ」

◇スポニチグランプリ新人賞▽毎熊克哉氏「ケンとカズ」中条あやみ氏「セトウツミ」

◇田中絹代賞▽松原智恵子氏

◇撮影賞▽齊藤幸一氏「64」ロクヨン「前編」「64」ロクヨン「後編」

◇美術賞▽林田裕至、佐久嶋依里氏「シン・ゴジラ」

◇音楽賞▽コトリンゴ氏「この世界の片隅に」

◇録音賞▽白取貢氏「聖の青春」

◇ドキュメンタリー映画賞▽「桜の樹の下」

◇アニメーション映画賞▽「君の名は。」

◇大藤信郎賞▽「この世界の片隅に」

◇TSUTAYA x Film mark S 映画ファン賞 日本映画部門▽「君の名は。」

◇TSUTAYA x Film mark S 映画ファン賞 外国映画部門▽「ズートピア」

◇特別賞▽島村達雄氏(白組社長)

【第69回ロカルノ国際映画祭】

◇最優秀新人監督賞▽真利子哲也氏「ディストラクション・ベイビーズ」

【第29回東京国際映画祭】

日本映画スプラッシュ部門

◇作品賞「ブルーサイドマン」(渡辺紘文監督)

【第41回報知映画賞】

◇作品賞・邦画「湯を沸かすほどの熱い愛」(中野量太監督)
◇監督賞▽李相日氏「怒り」

◇主演男優賞▽三浦友和氏「葛城事件」

◇主演女優賞▽宮沢りえ氏「湯を沸かすほどの熱い愛」

◇助演男優賞▽綾野剛氏「リップヴァンウィンクルの花嫁」怒り「64」ロクヨン「二部作」

◇助演女優賞▽杉咲花氏「湯を沸かすほどの熱い愛」

◇新人賞▽中野量太氏「湯を沸かすほどの熱い愛」監督

◇新人賞▽岩田剛典氏「植物図鑑 運命の恋、ひろいました」

◇作品賞・海外「クリードチャンプを継ぐ男」(ライアン・クーグラー監督)

◇特別賞▽「君の名は。」(新海誠監督)

【第59回ブルーリボン賞】

◇作品賞▽「シン・ゴジラ」(庵野秀明総監督・脚本(樋口真嗣特技監督))
◇監督賞▽片瀬須直氏「この世界の片隅に」

◇主演男優賞▽松山ケンイチ氏(聖の青春)
 ◇主演女優賞▽大竹しのぶ氏(後妻業の女)
 ◇助演男優賞▽リリー・フランキー氏(SCOOP!)
 ◇助演女優賞▽杉咲花氏(湯を沸かすほどの熱い愛)
 ◇新人賞▽岡村いずみ氏(ジムノペディに乱れる)
 ◇外国作品賞▽ローク・ワン／スター・ウォーズ・ストーリー(ギャレス・エドワーズ監督)
【第40回日本アカデミー賞】
 ◇最優秀主演女優賞▽宮沢りえ氏(湯を沸かすほどの熱い愛)
 ◇最優秀主演男優賞▽佐藤浩市氏(64―ロクヨン―前編)
 ◇最優秀助演女優賞▽杉咲花氏(湯を沸かすほどの熱い愛)
 ◇最優秀助演男優賞▽妻夫木聡氏(怒り)
 ◇最優秀監督賞▽庵野秀明・樋口真嗣氏(シン・ゴジラ)
 ◇最優秀脚本賞▽新海誠氏(君の名は。)
 ◇最優秀撮影賞▽山田康介氏(シン・ゴジラ)
 ◇最優秀照明賞▽川邊隆之氏(シン・ゴジラ)
 ◇最優秀録音賞▽中村淳氏(録音)山田陽氏(整音)(シン・ゴジラ)

◇最優秀音楽賞▽RADWIMPS「君の名は。」
 ◇最優秀編集賞▽庵野秀明・佐藤敦紀氏(シン・ゴジラ)
 ◇最優秀美術賞▽林田裕至・佐久嶋依里氏(シン・ゴジラ)
 ◇最優秀作品賞▽シン・ゴジラ
 ◇最優秀アニメーション作品賞▽この世界の片隅に
 ◇最優秀外国作品賞▽「ハドソン川の奇跡」
 ◇新人俳優賞▽杉咲花氏(湯を沸かすほどの熱い愛)▽高畑充希氏(植物図鑑運命の恋、ひろいました)▽橋本環奈氏(セーラー服と機関銃・卒業)▽岩田剛典氏(植物図鑑運命の恋、ひろいました)▽坂口健太郎氏(64―ロクヨン―後編)▽佐久本宝氏(怒り)▽千葉雄大氏(殿、利息でござる!)▽真剣佑氏(ちはやふる―上の句―)▽ちはやふる―下の句―)
 ◇話題賞 俳優部門▽岩田剛典氏(植物図鑑運命の恋、ひろいました)作品部門▽君の名は。
 ◇会長功労賞▽木下忠司氏(音楽)▽京マチ子氏(俳優)▽鈴木清順氏(監督)▽西岡善信氏(美術)▽橋本忍氏(脚本・製作・監督)▽八草薫氏(俳優)
 ◇第40回特別賞▽池田一夫氏(監督)▽沢島忠氏(監督)▽萩原憲治氏(撮影)
 ◇会長特別賞▽目黒昌伸氏(監督)▽富田勲氏(音楽)▽松山善三氏(脚本・監督)

◇協会特別賞▽相田敏春氏(装飾・小道具)▽赤松陽輔造氏(タイトルデザイン)▽岡瀬昌彦氏(音響効果)
【第25回日本映画批評家大賞】
 ◇主演男優賞▽浅野忠信氏(岸辺の旅)
 ◇主演女優賞▽多部未華子氏(ピースオブイク)
 ◇助演男優賞▽伊藤淳史氏(ビリギャル)
 ◇助演女優賞▽満島ひかり氏(駆込み女と駆出し男)
 ◇新人女優賞▽藤野涼子氏(ソロモンの偽証)
 ◇新人男優賞▽板垣瑞生氏(ソロモンの偽証)
 ◇新人男優賞▽山田涼介氏(ガラスホッパー)
 ◇Gグロリー賞▽草村礼子氏
 ◇Gグロリー賞▽仁科亜希子氏
 ◇Gグロリー賞▽浜田光夫氏
 ◇ダイヤモンド大賞▽吉永小百合氏
 ◇ダイヤモンド大賞▽山田洋次氏
 ◇監督賞▽大根仁氏(バクマン)
 ◇作品賞▽松竹(ソロモンの偽証)
 ◇新人監督賞▽松永大司氏(トイレのビエタ)
 ◇編集賞▽伊藤伸行氏(天空の蜂)
 ◇選考委員特別賞▽濱口竜介氏(ハッピーアワー)
 ◇ドキュメンタリー賞▽松本貴子氏(水の花火 山口小夜子)
 ◇映画音楽賞▽池永正二氏(味園ユニバース)

◇脚本賞▽真田克彦氏(ソロモンの偽証)
 ◇撮影賞▽町田博氏(FOUJITA)
 ◇特別賞▽中みね子氏(ゆずり葉の頃)
 ◇特別賞▽豊島公堂
 ◇特別賞▽松永文庫
【第56回日本映画監督協会新人賞】
 ◇松永大司氏(トイレのビエタ)
【東京ドラマアウォード2016】
 ◇連続ドラマ部門グランプリ「あさが来た」(NHK)
 ◇単発ドラマ部門グランプリ「赤めだか」(TBS)
 ◇主演男優賞▽阿部寛氏(下町ロケット)(TBS)
 ◇主演女優賞▽波瑠氏(あさが来た)(NHK)
 ◇特別賞▽韓国「六龍が飛ぶ」▽タイ「憎しみの愛の物語」▽ベトナム「魅惑」
【第8回伊丹十三賞】
 ◇是枝裕和氏(映画監督)
【第9回したまちコメディ映画祭】
 ◇コメディ栄誉賞▽山田洋次氏(監督)
【第35回藤本賞】(映画演劇文化協会主催)
 ◇那須田淳・進藤淳一氏(映画ビリギャル)の製作

◇特別賞▽松崎薫氏「海街diary」の製作▽川村元氣氏「バクマン」の製作
◇奨励賞▽深田誠剛、小野仁史氏「恋人たち」の製作

【第34回川喜多賞】

▽戸田奈津子氏(字幕翻訳家)

【第66回ベルリン国際映画祭】

◇ティ賞・審査員特別賞▽「彼らが本気で編むときは」(荻上直子監督)
ジェネレーション部門

◇ジェネレーション14プラス審査員特別表彰▽「フーリッシュ・バード」(大塚竜治、ホアン・ジーが共同で監督)

【第40回モントリオール世界映画祭】

ワールド・コンペティション部門
◇最優秀芸術貢献賞▽「たたら侍」(錦織良成監督)

ワールド・ドキュメンタリー部門
◇最優秀作品賞▽「健さん」(日比遊一監督)

【第49回シッチェス・カタロニア国際映画祭】

(アニメーション作品部門)
◇最優秀長編作品賞▽「君の名は。」(新海誠監督)

【ロサンゼルス映画批評家協会賞】

◇最優秀アニメ賞▽「君の名は。」(新海誠監督)

【オフィシエ(仏の芸術文化勲章)】

▽北野武氏(映画監督)

【第10回アジア・フィルム・アワード(AFA)】

◇最優秀助演男優賞▽浅野忠信氏「岸辺の旅」
◇特別功労賞▽樹木希林氏

【第19回上海国際映画祭】

◇最優秀女優賞▽藤山直美氏「団地」(阪本順治監督)

【第37回青龍映画賞】

◇男優助演賞▽國村隼氏 韓国映画「哭声(コクソン)」

【第35回国立劇場文楽賞】

◇大賞▽吉田玉男氏
◇優秀賞▽豊澤富助氏
◇優秀賞▽竹本文字久太夫氏
◇奨励賞▽豊竹靖太夫氏 鶴澤清公氏
◇特別賞▽豊竹嶋太夫氏

【文楽協会賞】

◇太夫の部▽竹本小住太夫氏
◇三味線の部▽豊澤龍爾氏
◇人形の部▽桐竹勘次郎氏

【国立劇場歌舞伎脚本賞】

◇優秀賞▽森真実氏「蝶の横笛」
◇清栄会奨励賞▽本郷湖奈美氏「乙女櫻小峰之礎」

◇清栄会奨励賞▽青砥啓氏「百足姫」

【第38回観世寿夫記念法政大学能楽賞】

▽岡本章氏(演出家)▽松田弘之氏(笛方森田流)

【第27回催花賞】

▽該当者なし

【第2回森光子の奨励賞】

▽市村正親氏(俳優)

【第31回下町人間庶民文化賞】

◇市原悦子氏(俳優)◇有原誠治氏(映画監督)◇山県三郎氏(民謡歌手)

【第35回京都府文化賞】

◇功労賞▽上村吉弥氏(歌舞伎俳優)▽前川光長氏(能楽囃子太鼓方金春流)
◇奨励賞▽茂山良暢氏(能楽狂言方)
【平成28年度名古屋市芸術賞】
▽稲垣妙寿氏(小唄)

【第52回大阪文化祭賞】

◇優秀賞▽吉田玉男氏(文楽人形遣い)
◇劇団☆新感線▽佐々木美智子パレエ団

◇奨励賞▽中村吉太郎氏(歌舞伎俳優)
▽川奈美弥生氏(松竹新喜劇女優)▽日本センチュリー交響楽団▽堺シェリオベラ

【関西元氣文化圏賞ニューパワー賞】

▽吉田玉男氏(文楽人形遣い)

【第51回大阪市市民表彰】

▽片岡松之助氏(歌舞伎俳優)▽京山幸枝若氏(浪曲師)▽小島慶四郎氏(松竹新喜劇俳優)▽阪口弘之氏(歌舞伎研究)▽坂田利夫氏(お笑い芸人)▽鶴澤清介氏(文楽三味線)

【平成28年度咲くやこの花賞】

▽吉田簀紫郎氏(文楽人形遣い)

【高円宮殿下記念地域伝統芸能賞】

▽公益財団法人長浜曳山文化協会(滋賀県長浜市)

【地域伝統芸能大賞保存継承賞】

▽徳丸北野神社田遊び保存会・赤塚諏訪神社田遊び保存会(東京都板橋区)

【地域伝統芸能大賞活用賞】

▽小倉祇園太鼓保存振興会(福岡県北九州市小倉北区)

【地域伝統芸能大賞支援賞】

▽鹿沼の名匠(栃木県鹿沼市)

【地域伝統芸能大賞地域振興賞】

▽八尾河内音頭まつり振興会(大阪府八尾市)

【地域伝統芸能奨励賞】

平成二十八年劇壇時事(一月〜十二月)

一月

・初春歌舞伎は歌舞伎座、国立劇場、新橋演舞場、浅草公会堂の四座と大阪松竹座、の東西五劇場で競演が繰り広げられそれぞれ賑やかに幕をあげた。歌舞伎座は玉三郎が黙阿弥作の舞踊劇「茨木」と「廓文章」吉田屋」で女方の多彩な表情をみせた。2〜26日
国立劇場は、生誕200年にあたる河竹黙阿弥作品「小春穂沖津白浪」。2002年に復活上演した作品を再演した。3人の盗賊を菊五郎、時蔵、菊之助が演じた。3〜27日
新橋演舞場は海老蔵の一座が、「車引」「弁天娘女男白浪」「七つ面」(新しい脚本での再演)を昼夜2回上演した。獅童、友右衛門、右之助が共演。3〜24日
浅草公会堂恒例の「新春浅草歌舞伎」は松也、巳之助、新悟ら20〜30代の若手が中心となり正月気分を盛り上げた。松也は昼夜に腕を振るった。昼は「源氏店」の与三郎。夜は、「義経千本桜・川運法眼館」の佐藤忠信と源九郎狐の二役。ほかの出演者は、米吉、隼人、国生ら。錦之助が若手に加わり舞台を引

き縮めた。2〜26日
大阪松竹座は藤十郎、扇雀、愛之助ら上方歌舞伎を担うメンバーが集まる中、中車は古典落語を基にした「らくだ」「芝浜草財布」に挑戦した。2〜26日
・東京日本橋の三越劇場は河竹黙阿弥の生誕2000年を記念する舞台「糸桜」を上演。黙阿弥の曾孫・故河竹登志夫が執筆した評伝「作者の家」を基とし、黙阿弥の娘の糸女を波乃久里子、糸女の養子の河竹繁俊を市川月乃助、繁俊の妻を宝塚出身の大和悠河が演じた。2〜25日
・2日、日本舞踊、落語、剣舞、殺陣といった芸能をふんだんに盛り込んだ公演「FUYIYAMA」が東京・浜町の明治座で上演された。藤間勘十郎、柳家花緑、若柳吉蔵、尾上菊之丞、市川ぼたんらが出演した。
・神尾葉子の人気少女漫画をミュージカルにした「花より男子 The Musical」(青木豪脚本、鈴木裕美演出、本間昭光音楽)がミュージカルとして初舞台化された。つくし役の加藤梨里香は約3千人のオーディションの中から選ばれた。5〜24日、東京・

シアタークリエ 28日、福岡・サンパレスホテル&ホール 2月6、7日、名古屋・愛知芸術劇場 大ホール 11〜14日、大阪・サンケイホールブリーゼ
・65歳以上の高齢者に夢を感じてもらいたいと、世界的な演出家蜷川幸雄率いる彩の国さいたま芸術劇場が、「高齢者1万人の演劇」を企画。4月から出演者を公募し、12月に上演。劇作・演出家のノゾエ征爾が脚本を担当。
・福岡の博多座は森光子が2017回演じ続けた「美英子役を仲間由紀恵が引き継ぎ、新生「放浪記」として上演した。28日の昼の部で通算100回目を記録した。7〜31日
・京都の南座は松竹新喜劇初笑い新春お年玉公演を上演した。10〜19日。前進座が「夢千代日記」(早坂暁原作、志村智雄台本、橋本英治演出)を今村文美の夢千代で演じた。10〜19日
・別役実を歌う「劇中歌コンサート」が5、6日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエストで開催された。1部はいろいろな劇団の役者たちの「ベツヤク・カーニバル・シンガーズ」が朗読や劇中歌を披露。2部は六文

銭09のステージ。合計約30曲を歌った。
・鈴木杏が秋元松代作品「元禄港歌1千年の恋の森」(蜷川幸雄演出)に初挑戦した。共演は市川猿之助、宮沢りえ、高橋一生、段田安則ら。7〜31日、東京・渋谷のシアターコクーン
・役者を夢見る若者たちに演技指導を行う公開ワークショップが宝塚歌劇団の演出家・植田景子の指導のもと開かれた。パフォーミングアーツ・アカデミー塾長を務める横内謙介がコーディネーターした。8、9日、横浜・KAA T 神奈川芸術劇場 大スタジオ
・文化庁・一般社団法人日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2015⑦メキシコ特集がダビッド・オルギンを招聘講師に開かれた。9〜13日、東京・芸能花伝舎 15〜17日、大阪・座・九条
・2013年に病気で出演予定だった舞台を降板した北村総一朗が、復帰後の舞台「街と飛行船」で、別役作品に初挑戦した。別役実フェスティバルの発起人の演出家の鶴山仁にとっても初演出。劇団昴ザ・サード・ステージ公演。9〜13日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト

・岸谷五朗と寺脇康文の演劇ユニット「地球ゴージャス」が最新作「The Love Bugs」を上演した。虫の世界の命と愛の物語。岸谷五朗が作・演出・出演。山本寛斎の衣装、富沢ノボルのヘアメイクが不可思議な虫の世界を具現化した。城田優、蘭寿とむ、寺脇康文ら。9月24日、東京・赤坂ACTシアター 3月13日、名古屋・愛知県芸術劇場大 11月13日、福岡・サンパレス 19月29日、大阪・フェスティバルホール

・82歳の平幹二郎が当たり役「王女メディア」(エウロビデース原作)に再挑戦した。今回は故高瀬久男の演出に様式美も加えて田尾下哲が受け継いだ。出演者全員が男性。9月16日、東京・新大久保の東京グローブ座

・劇団鹿殺しが活動15周年を記念して「キルミーアゲイン」(丸尾九一郎脚本、菜月チヨビ演出)を上演した。大東駿介、細貝圭が客演した。9月20日、東京・北沢の本多劇場 28月31日、大阪・ABCホール

・歌手ナオト・インティライミが念願のミュージカルに初主演した。「DN AISH H A R A K U」(沖方丁原案、小林香演出・脚本・作詞) 2月16年、日本は人工知能に支配され、「創造する心」は否定されている。過去から芸術家らを連行しては「創造する心」を破壊する未来政府は、江戸時代の浮世絵師東洲斎写楽を探するため、柊健二

(ナオト)を1793年に送りこむ。10月24日、東京・初台の国立劇場中劇場 28月31日、大阪・シアターBR A V A ! 2月6月7日、福岡・キャナルシティ劇場

・12日、脚本家の倉本聰が、16日から全国で巡演する舞台「屋根」で、「肉体的にしんどくなってきた」ので「演出は最後にしたい」と述べた。脚本家は続ける。17年の次回作「走る」では脚本は手がけるが、外部の演出家との共同演出の形をとる。「屋根」の公演スケジュール 16月24日、富良野市・富良野演劇工場 27日、釧路市・釧路市生涯学習センター 30日、幕別・幕別町百年記念ホール 2月2日、仙台市・東京エレクトロンホール宮城 5月7日、東京・国立劇場中劇場 10月11日、岐阜県・可児市文化創造センター 13月14日、京都市・京都劇場 16日、広島市・アステールプラザ・中ホール 18日、高知市・文化ホール・カルポリーナ 21日、鹿児島県熊毛郡・種子島こりーな 23日、北九州市・北九州芸術劇場 25日、福岡県倉市・総合市民センター 27日、大分県日田市・日市民文化会館 29日、愛媛県今治市・今治市公会堂 3月2日、愛媛県松山市・ひめぎんホール・サブホール 4月5日、名古屋・芸術創造センター 7日、岡山県・倉敷市芸文館 9日、岡山県津山市・津山文化センター 大ホール 12月13日、大阪市・森ノ宮ピ

ロティホール 14日、和歌山県田辺市・紀南文化会館 16日、静岡県磐田市・磐田市民文化会館 18日、宮城県大崎市・岩出山文化会館 20日、秋田県・秋田市民文化会館 22日、秋田県・北秋田市民文化会館 24日、札幌市・札幌市教育文化会館

・横浜の街と人模様を描く新作オリジナルミュージカル作品「J A M T O W N」(齋藤雅文原作、斎藤栄作脚本、錦織一清原案・演出)で、俳優の寛利夫がバーのマスター役で主役を務めた。2014年に「トライアウト公演」をし、10月には一足先に披露するライブを横浜と渋谷で開催した。楽曲はシン・NON A R E E V E S の「ザンガー」西寺郷太、振付はY O S H I E が手がけた。13月30日、横浜のK A A T 神奈川芸術劇場ホール

・14日からスタートしたNHKの時代劇「ちかえもん」に文楽界から桐竹勘十郎ら人形遣いと三味線の竹澤團七が参加し、約300年前の初演(一人遣い)、近松門左衛門の「曽根崎心中」を『再現した。義太夫の祖、竹本義太夫を俳優の北村有起哉が演じた。近松は松尾スズキ

・俳優の成河と池田有希子の二人芝居「マクベス The tragedy of Mr & Mrs. Macbeth」が上演された。15、16日、東京・両国のシアターM

・鳥取市鹿野町を拠点に活動する「鳥

の劇場」が、グリム童話の「白雪姫」から、優しさと虚栄心、嫉妬、恐怖などを描いた「白雪姫」を上演した。16、17日、東部鳥取市文化センター 23、24日、東京・東京芸術劇場シアターウエスト 2月13月14日、中部琴浦町カウベルホール 27、28日、西部米子市淀江文化センターさなめホール

・歌舞伎公演をおこなっている松竹が、基本となっている昼夜2部制の興行について、現在8月だけ行っている3部制興行を他の月でも実施する方向で検討している。外国人観光客が増加する中、「上演時間が長すぎる」など、短縮を求める声があがっていた。

・2020年の東京五輪・パラリンピックを前に首都圏でコンサートホールや劇場の改修・閉鎖が相次ぎ、会場不足が深刻化。芸能関係者は「2016年問題」と呼び危機感を募らせている。

・京都伝統伎芸振興財団(おおきに財団)は、創立20周年を記念し、京都五花街と東京・新橋、金沢、福岡・博多から芸妓や舞妓、芸者を招き、10花街合同の記念公演を行った。16、17日、ロームシアター京都メインホール

・日本女性初の職業作家の樋口一葉を描いた舞台「書人女」(永井愛作・演出)が10年ぶりに再演された。永井が主宰する二兎社の公演。一葉を黒木華が演じた。ピアノの林正樹が即興で効果音を演出した。17日、埼玉・富士見

市民文化会館キラリ☆ふじみメインホール 21〜31日、東京・三軒茶屋の世田谷パブリックシアター 2月2日、愛知・穂の国とよはし芸術劇場PLAT主ホール 4日、岐阜・大垣市スイトピアセンター 6、7日、石川・能登演劇堂 9日、山形・伝国の杜置賜文化ホール 滋賀・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール 12、13日、兵庫・兵庫県立芸術文化センター 14日、栃木・足利市民プラザ 16日、東京・大田区民プラザ 18日、広島・はつかいち文化ホールさくらびあ 20、21日、福岡・北九州芸術劇場
 ・18日、解散騒動の渦中にあつたアイドルグループ「MAP」が存続することとを所属するジャニーズ事務所が認めた。メンバー五人は同日「フジテレビ系バラエティ番組「MAP×SIMAP」に生出演し、一連の騒動について謝罪した。
 ・19日、「劇団・本谷有希子」を主宰する本谷有希子が「異類婚姻譚」で芥川賞を受賞した。
 ・陣内孝則がのし上がる織田信長を狂気で演じた。戦国時代の人間ドラマを描いた新作舞台「Honnōji」（保志忠彦原作・齋藤栄作脚本、ウオリ木下演出）。20〜24日、大阪・新歌舞伎座 29〜31日、名古屋・中日劇場 2月17〜27日、東京・六本木の「EX THEATER ROPPONGI」

・20日、人間国宝の観世流の梅若玄祥がシテをつとめる新作能「冥府行々ネキア」（ミハイル・マルマリノス演出）が東京・国立能楽堂で上演された。前年7月、ギリシャ最古のエピダウロス古代円形劇場での上演では2日間で1万人以上が詰めかけた。
 ・劇作家オノマリコが主宰する演劇ユニット「趣向」が、複数の人間と同意のもとに性愛関係を築く「ポリアモリー」をテーマにした「The Game of polyamory」（桐山知也演出）を上演した。21〜24日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場大スタジオ
 ・新潟県佐渡市に残る国指定の重要無形民俗文化財「文弥人形」をもとにした人形浄瑠璃の復活上演に取り組んでいた「猿八座（西橋八郎兵衛座長）が、新春公演を行った。22日、「山椒太夫」鳴子曳きの段」、23日、「信太妻」子別れの段「東京・馬喰町のギャラリィART+EAT 24日、「小泉八雲特集」神奈川・鎌倉長谷の古民家スタジオ・イシワタ
 ・文化庁／一般社団法人日本演出者協会主催による「演劇大学inはちのへ」が22〜24日の3日間八戸市公民館で開催された。
 ・24日、奈良県葛城市と吉本興業がタイアップして結成された「よしもとふるさと劇団・けはや座」が同市麻席の市相撲館けはや座の土俵を舞台に、相

撲の開祖・当麻蹶速（たいまのけはや）を主人公にした芝居「勝つ！当麻蹶速！」（河内家菊水丸脚本）を上演した。劇団座長は漫才コンビ「十手リンジン」で公募による市民16人が参加して練習に励んだ。
 ・24日、江戸時代、横浜の中心部で開墾された吉田新田と、そこまわつる人々を題材にした横浜市民ミュージカル「おさん伝説」遙かなる時をこえて」（福島桂子脚本・振付・演出）が上演され、5歳から78歳までの約60人が舞台に立った。関内ホール
 ・「若手振付家の発掘と育成」と「コンテンポラリーダンスの普及」を目指して1996年に始まり、20周年を迎えた「横浜ダンスコレクション2016」応募15か国から選ばれた9組が参加して開幕した。23〜24日、横浜赤レンガ倉庫1号館
 ・劇団ハイバイを主宰する岩井秀人が、80歳で亡くなった父と、長年連れ添った母のエピソードをもとにした舞台「夫婦」（岩井秀人作・演出・出演）を上演した。24〜2月4日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターイースト 2月13〜14日、福岡・北九州芸術劇場
 ・25日、K A A T 神奈川芸術劇場の2016年度のラインアップの発表会が同劇場で行われた。2014年から芸術参与として、運営に携わってきた白井晃が4月から芸術監督に就任。「近年、演劇という枠組みが崩壊

しつつあり、音楽やダンス、現代美術などと互いに影響を合つていて非常に面白い状況だと感じています。この動きをより推進させたい」「先鋭的な作品作りを提示していくのが一つの大きな義務」「若いカンパニーやクリエイターとの作品づくり」「長期的なワークショップの充実」「各地の公共劇場との連携」「ベテラン演劇人も冒険ができる劇場」など、様々な構想を意欲的に語った。就任第1作は4〜5月に、ストリンドベリ作の「夢の劇」ドリーム・プレイ」を白井の構成・演出、長塚圭史の台本で上演。
 ・大坂夏の陣で豊臣方の武将として活躍した武将、真田幸村を通して伝統芸能の魅力伝える公演「真田幸村三変化」が25日と3月17日、大阪の山本能楽堂で開かれた。能は、新作「真田幸村」（北川央原作）。シテ（幸村）を観世流の山本章宏。文楽は「鎌倉三代記綱川村の段」から「高綱物語」を豊竹英大夫と竹澤宗助で上演、3月は吉田幸助、吉田玉佳、吉田玉路の人数が加わる。講談は中野順哉が制作。講談師の旭堂南左衛門、高木一郎が奏でる弾奏楽器「リュート」で織りなす音楽絵巻が全体をつないだ。
 ・東野圭吾のベストセラー小説が原作のミュージカル「手紙」が上演された。弟の学費を得るために犯した強盗殺人の罪で服役中の兄剛志（吉原光夫）は弟の直貴（三浦涼介）に手紙を書き続ける

が、「強盗殺人犯の弟」という壁や差別が運命を阻む。演出の藤田俊太郎は弟の直貴に孤独や挫折を味わった自らを重ね演出した。25〜31日、東京・初台の国立劇場小劇場 2月5〜8日、神戸・新神戸オリエンタル劇場 10日、大阪・枚方市市民会館(大)

・劇場演出空間技術協会が創立25周年を記念して「J A T E T 劇場演出空間技術展2016」を開催した。25日、施設見学会 国立劇場 26、27日、セミナー部門 国立劇場 中劇場 26〜28日、展示部門 全労済会館 新宿スペース・ゼロ

・25日、韓流スターとしてアジアをはじめ世界中で人気の俳優イ・ミンホがトークコンサート「MINOZ W A R L D」をパシフィコ横浜国立大ホールで行った。2公演で日本各地や海外から約1万人のファンが集った。

・26日、人形浄瑠璃文楽太夫の人間国宝豊竹嶋大夫が大阪の国立文楽劇場での引退公演を終え、「舞台から泣いているお客さまが目に入り、もらい泣きしてたつぷり泣かれました。今は感謝の気持ちです」と文楽の本拠地に別れをつげた。

・27日、歌舞伎俳優の中村雀右衛門を五代目として3月に襲名する中村芝雀が、東京・浅草寺で襲名披露のお練りに臨んだ。

・東京芸術座が100回目の公演として敗戦直前に秋田県大館市で起きた

中国人強制連行・虐殺事件をテーマにした「勲章の川―花岡事件」(本田英郎作、印南貞人演出)を上演した。学校公演だけで500ステージ以上を重ねてきた劇団の代表作。「首相が改憲を口にし、自主規制の名で各地の公民館などで平和運動への攻撃・萎縮が起きていて、とても危機感があります。現状をストレートに問う芝居を今やらなければと思います」と印南。28〜31日、東京・俳優座劇場

・神奈川県が推進する文化芸術施策「マダカル事業の一環として20分以内の短編演劇コンテスト「マダカル Presents」 神奈川かもめ短編演劇祭」が初開催された。各地から選ばれた10団体に加え韓国からも2団体が参加した。三つのブロックにわけて予選を行い、最終日の決勝戦で最優秀賞(かもめ賞)には韓国代表の劇団名作とうもろこし畑「この世界で最後のデート」が選出された。審査員は鶴山仁、鴻上尚史、ラサール石井、横内謙介ら。29〜31日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場の大スタジオ

・N O D A・M A P の新作舞台「逆鱗」(野田秀樹作・演出・出演は人魚にまつわる物語。人魚役は松たか子。瑛太、井上真央、阿部サダヲらとは初共演。29〜3月13日、東京・池袋の東京芸術劇場 プレイハウス

・大阪府吹田市文化会館が開館30周年を記念して、後藤ひろひと久保田浩

のユニット「ホルマリン兄弟」とプロデュースする舞台「タッチャブルズ」(後藤ひろひと作・演出・出演)を上演した。オーディションで選ばれたメンバーも出演した。29〜31日、メイシアター・中ホール

・「生と死のドラマ」をテーマにした横浜能楽堂の企画公演が30日から3月21日まで4回にわたって行われる。初回は「老い」とどう生きるか。喜多流シテ方の香川靖晴が老女物「鸚鵡小町」で小野小町を演じた。

・30日、「コウノトリ放鳥10周年 片岡愛之助の神(こう)の鳥語り」が、兵庫県豊岡市出石町の出石永楽館で開かれ、約300人が愛之助の軽妙な語り口を楽しんだ。愛之助は毎年出石の「永楽館歌舞伎」に出演している。

・能楽大鼓方の亀井広忠が41歳という若さで葛野流十五世家元を継承した。

・芸術教育に力を入れている横浜市は、学校の要望に応じ、プロの芸術家を授業に派遣している。だが、その場で興味を持った子どもたちが続ける機会がなかった。そこで戸塚区の区民文化センターさくらプラザは「こどものための芸術の学校」を企画。小学校の高学年を中心に12人が1〜3月の週1回、演劇、コンテンポラリーダンス、パントマイムの専門家たちから、「本物」の指導が受講料無料で受けられる。講師は子どもたちの様子を見ながら、プログラムを考えていく。タブー

二月

のない思考の自由さが、未来の芸術家をつくる」。講師たちの思い。

・市川海老蔵が「GRAND J A P A N T H E A T E R」と題し、日本、アラブ首長国連邦U A E、米国で公演ツアーを行った。1、2日、東京・渋谷のオーチャードホール 3月1日、米ニューヨークのカネギーホール(同ホール初の歌舞伎公演) 演目・新歌舞伎十八番の舞踊「春興鏡獅子」(海老蔵 狂言、三番三「茂山逸平」能、土蜘蛛「片山九郎右衛門」大鼓 人間国宝の亀井忠雄が特別出演) 12、13日、アラブ首長国連邦U A Eミラマール・アルアツカビ・チリゾート 演目・新作舞踊「三升曲輪傘売」(海老蔵 能「羽衣 和合之舞」(観世喜正)歌舞伎舞踊「連獅子」(海老蔵、福太郎)和太鼓演奏 津軽三味線の演奏

・片岡愛之助が「菅原伝授手習鑑」の「車引」で梅王丸役を演じる際の準備過程を克明に記録した映像「梅王丸ができるまで」梅王帯曳愛くが歌舞伎座ギャラリーで上映された。1〜4月30日

・1日、3月に雀右衛門を襲名する大阪市生まれの芝雀が、大阪のシンボル・通天閣で恒例の「福豆まき」をおこなった。

・古手川祐子が、東京新橋演舞場の

「二月喜劇名作公演」に挑戦。コテコテの大阪弁で藤山扇太郎扮する料理人に惚れられる女をたつぷりと見せた。水谷八重子、中村梅雀、波乃久里子らも出演。1〜25日

・歌舞伎俳優の中村吉右衛門が東京・歌舞伎座の2月公演「籠釣瓶花街酔醒」の次郎左衛門役で娘婿の尾上菊之助（花魁・ハッ橋）と初共演した。又、菊五郎が豊臣秀吉の出世物語を描いた吉川英治原作「新書太閤記」（今井豊茂脚本・演出）に初役で羽柴秀吉（木下藤吉郎）を演じた。吉右衛門は明智光秀。2〜26日

・渡辺えりが北條秀司脚本の人情喜劇「おぼこ」（大谷亮介演出）に25歳の芸者・花子役で主演した。4〜22日、東京・三越劇場

・中村雅俊が山本周五郎原作の舞台「かあちゃん」（鎌田敏夫脚本、石井ふく子潤色・演出）に出演、初の時代劇に挑戦した。八千草薫との舞台初共演。主人公のお勝（藤山直美）を大阪から来た女にするなど一部設定を変えて演じた。4〜28日、大阪・新歌舞伎座

3月5〜27日、東京・明治座

・赤堀雅秋の新作「同じ夢」が、赤堀自身身の演出で上演された。5〜21日、東京・世田谷パブリックシアターシアタートラム

24、25日、松本・まつもと市民芸術館 実験劇場

27、28日、水戸・水戸芸術館 A C M 劇場

3月1、2日、名古屋・愛知県産業労働センター

ンターウインクあいち大ホール 4〜6日、兵庫・兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール 8、9日、J M S アステールプラザ中ホール 12、13日、福岡・福岡県立もち文化センター大ホール

・宝塚歌劇団雪組が1990年代に週刊少年ジャンプに連載された大ヒット漫画を原作にした舞台「るろうに剣心（小池修二郎脚本・演出）を早霧せいな主演で上演した。5〜3月14日、宝塚大劇場 4月1日〜5月8日、東京宝塚劇場

・川崎市内を拠点に活動するアマチュア劇団「ラニヨリ」が劇団創立15周年を記念し教育現場での国歌起立斉唱問題を扱った劇「歌わせない男たち」を上演した。賛成、反対ということではなく、強制の是非を考える劇。5〜7日、ラゾーナ川崎プラザソル

・国内外の舞台芸術関係者が集まる「国際舞台芸術ミートイニング」横浜2016が開幕した。1995年に T P A M「東京芸術見本市」としてスタート。2011年より、横浜市が推進する「創造界隈」の拠点となる文化施設を中心に、公演や国際会議を重ねてきた。20回目を迎えた今年は、アジアフォーカスというコンセプトのもと、新しくコプロダクションという製作形態を取り入れ、T P A M 自体が、製作主体となる公演を実現。公演のほとんどが日本初演の演目で、タイのピ

チエ・克蘭チエンダンスカンパニーの作品は世界初演。6〜14日、K A A T 神奈川芸術劇場、横浜赤レンガ倉庫1号館、Bank ART Studio N Y K, Y C C ヨコハマ創造都市センター、神奈川県民ホール小ホール、A M A Z O N C L U B ほか。

・ピアフ生誕100周年の年。大竹しのぶが、13年に続く3度目の舞台「ピアフ（パム・ジェムス作、栗山民也演出）に全身全霊を込めてピアフを演じた。7〜3月13日、シアタークリエ 19〜21日、大阪・森ノ宮ビロテイホール 23日、広島・J M S アステールプラザ大ホール 26〜27日、名古屋・中日劇場

・宮崎県立芸術劇場は、自主制作事業の演劇「三文オペラ」公演を中止した。公演内容に著作権管理会社との契約違反があったため。中止となった公演は、5〜7日、宮崎・メディアキット県民文化センター 13、14日、福島・いわき芸術文化交流館 3月5、6日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場大スタジオ

・若手俳優柳下大が3人芝居「オーファンズ（ライル・ケスラー作、谷賢一翻訳）に挑戦した。米国の貧しい町で暮らす孤児の兄弟の生活に、孤児だった中年男が入り込み、愛と信頼を育もうとする物語。柳下は弟フィリップ（平林生成）を心のよりどころにスリで生計を立てる粗暴な兄トリートを演

じた。孤児院育ちの男ハロルドを演じたのは高橋和也。信頼を寄せる宮田慶子に演出を直談判した。10〜21日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト 27〜28日、神戸・新神戸オリエンタル劇場

・劇団民藝が「ウルトラマン」を世に送り出した沖繩出身の脚本家金城哲夫の半生を描く舞台「光の国から僕らのために―金城哲夫伝―」の烟澤聖悟作 丹野郁弓演出を上演した。10〜21日、東京・新宿の紀伊國屋サザンシアター・日蓮宗声明研学会の僧約30人と尼僧約10人が「道場偈」「三宝」など声明7曲と読経、法要儀式の計22番を披露した。尼僧の参加は極めて珍しい。11日、国立劇場大劇場

・大阪を拠点に活動する劇団「リリパットアーミー」が30周年を迎え、記念公演の第一弾として、コング桑田の活動25周年も記念し、リディング&トーク「コング桑田のやりたい放題」を開いた。11〜14日、大阪・十三ブラックボックス

・14日、故二十四世宗家大藏彌右衛門虎智の十三回忌追善の会。狂言大藏流の5家の当主が集まる「狂言 大蔵会で、能楽師狂言方の大藏彌太郎改め二十五世宗家大藏彌右衛門虎久と、長男の大藏千太郎改め大藏彌太郎千虎が親子で襲名を披露した。東京・国立能楽堂

・劇団四季はブロードウェイミュージ

カル「ウェストサイド物語」を4年ぶりにブロードウェイで活躍する振付家ジョーイ・マクニリーを演出に迎え、よりエネルギーな新演出版で上演した。14〜5月8日、東京・四季劇場「秋」

・劇作家つかこうへいの未発表の新作舞台「引退屋リリー」(岡村俊一演出)が、七回忌特別公演で上演された。18〜3月7日、東京・新宿の紀伊國屋ホール

・蛭川幸雄率いる若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」と10周年を迎えた高齢者劇団「さいたまゴールド・シアター」の舞台「リチャード二世」が再演された。演出補は井上尊晶。18〜28日、彩の国さいたま芸術劇場

・中津留章仁が主宰する劇団「TRASHMASTERS」が、日本に住むイスラム教徒の視点で書いた新作「狼り現」中津留作・演出を上演した。18〜28日、東京・赤坂レッドシアター

・「和と洋のコラボレーション」を目指して始まり、7回目を迎えた「システイナ歌舞伎」。愛之助、沓太郎が出演し「美女と野獣」水口一夫作・演出を上演した。19〜21日、徳島・大塚国際美術館

・7回目の「現代日本戯曲ドラマ・リーディング」が韓国・ソウルの南山芸術センターで開かれた。互いの国の5戯曲を朗読する形式で上演し、同時

に戯曲集を発行するのを目的に2000年4月に設立した日韓の演劇交流。東京とソウルで交互に毎年開催。今回は韓日演劇交流協議会が主催し、藤田貴大「でんとてんを」をむすぶ。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことになった、世界。および、ひかりについて。、桑原裕子「往転・オウテン」、岩崎正裕大阪マクベス」、を韓国のスタッフ・キャストが韓国語で手がけると同時に、斎藤憐「グレイクリスマス」、松井周「地下室」が翻訳されて、5作を取めた戯曲集が刊行された。同時に開かれたシンポジウムでは、日韓ともに表現への圧力が強まっている事が指摘された。19〜21日。

・故茂山千之丞が始めた狂言師によるオペラ「狂言風オペラ」の第4弾はモーツァルト作曲の「コジ・ファン・トゥツテ」。桂米團治が脚本・演出を初めて担当した。音楽はドイツ・カンマーフィルハーモニー・ブレーメン音楽ゾリステンが担当。茂山童司は監修も務めた。20日、愛知・豊田市コンサートホール 21日、福岡・宗像ユリックスハーモニーホール 23日、岡山・津山文化センター 24日、大阪・NHK大阪ホール 25日、東京・すみだトリフォニーホール 27日、滋賀・ひこね市文化プラザグラントホール

・兵庫県豊岡市、養父市の市民が出演する演劇「豊岡駅前小鳥店3」の公演が

「都会へ出る若者をテーマに上演された。大阪の劇団「南河内万歳一座」の座長、内藤裕敬が演出。20、21日、豊岡市民プラザ

・21日、横浜を拠点に活動している女優の五大路子が神奈川文化賞を受賞したのを記念して、イベント「横浜夢座フォーラム2016 語り合おう! 体験しよう!」横浜夢座のつくり方を横浜市西区のランドマークホールで開いた。

・21日、愛媛県内子町の芝居小屋「内子座」で、創建100周年を記念する人形浄瑠璃が上演された。淡路人形座(兵庫県南あわじ市)が「玉藻前囃快」を披露した。

・22日、引退を表明した文楽の太夫人間国宝の豊竹嶋大夫(83)が、国立劇場の2月文楽公演千秋楽で最後の舞台をつとめた。終演後日本芸術文化振興会の茂木七左衛門理事長、三味線の鶴澤寛治、人形遣いの吉田賛助が遣うおとわから花束を贈られた。引退後は後進の指導に専念する。

・文化庁/日本演出者協会主催による日本の近代戯曲研修セミナーin東京第14回坪内逍遙&小山内薫を読む!が、坪内逍遙「役の行者」小山内薫「第一の世界」を課題戯曲にして開かれた。23日から全8回の研修。(芸能花伝舎 未生文庫)リーディング発表&シンポジウム 3月20、21日、pia n-1B

・東京・台東区の上野ストアハウスがタイ週間としてタイから「Bright or Democracy Theatre Studio」の2劇団が来日し、日本の劇団「ストアハウスカンパニー」と競演した。24〜28日

・25日、鑑賞組織「都民劇場」の能公演が通算100回目を迎え、東京宝生能楽堂で記念公演が行われた。狂言方と泉流の野村万作、萬斎親子による狂言「入袴」、シテ方観世流の観世清和、関根祥六らの能「鷺」、狂言方大蔵流の山本東次郎がシテの「福の神」を上演した。

・京都を拠点に活動する小劇団「地点」は、新しい演劇支援の方法。観客がチケットを無料でだれかに贈る「カルチベート(掘り起こし)チケットの仕組みをつくった。

・熊本県出身の田上豊率いる劇団、田上バルが代表作「合唱曲第58番」を上演した。熊本を舞台にした回想劇。小学生編、中学生編の2部構成。自らの体験をベースに作・演出した。27、28日、北九州芸術劇場小劇場

・27日、歌舞伎長唄の三代目鳥羽屋三右衛門が流祖で、江戸中期に活躍した初代鳥羽屋三右衛門を供養する石碑を東京・深川の本誓寺に建立した。
・奈良の8商店街の若手12人でつくる「ショウテンガイエイト実行委員会」が「天平人」と共に商店街の魅力を再発見する「超時空地域活性化演劇」SHOW W

天GAI∞(ショウテンガイエイト) 2016』実行委員会のメンバーも参加して上演した。27、28日、奈良市下三条の「白ちゃんハウス」・カメラマンとしても活躍している俳優の永瀬正敏が故郷、宮崎県都城市の島津邸本宅を会場に台湾でカメラに取めた作品約130点を展示する写真展を開いた。2月19日には台湾の観光に貢献したと「台湾観光貢献賞(台湾ツーリズムアワード)」を受賞した。

三月

・1日、日本劇作家協会の新会長に作家・演出家の鴻上尚史が就任した。任期は2年。副会長は劇団二兎社主宰の永井愛と、女優で劇作家の渡辺えりに決まった。
・熊本・大分県境の下笠ダムの建設に反対しユニークな闘争を繰り広げた至原知幸と、それを見守った妻を描く舞台「磐」(松下竜一原作・東憲司作・演出が、村井国夫の室原役で上演された。妻役は藤田弓子が演じた。15、6日、東京・池袋の東京芸術劇場 シアターウエスト
・スウェーデンを拠点に国内外で活躍する大植真太郎、俳優としても存在感を放つ森山未來、演劇や美術とのコラボが盛んな平原慎太郎の三人がぶつかり合う「談ス」でワークショッップを重ねて作り上げた空間を自在にくねらせ

た。1日、鎌倉市・鎌倉芸術館 3、8日、東京・イイノホール 9日、名古屋・アートピアホール 11、13日、大阪・ビジネスパーク円形ホール 14日、松本・まつもと市民芸術館実験劇場 16日、金沢・金沢市文化ホール 17日、新潟・りゅうとびあ劇場 19日、青森・リンクモア平安閣市民ホール 20日、仙台・電力ホール 22日、札幌・道新ホール 24日、京都・ロームシアター京都サウスホール 25日、広島・南区民文化センター 26日、福岡・アクロス福岡イベントホール 27日、大分・大分コンパルホール 29日、沖縄・国立劇場おきなわ 5月7、8日、東京・PARCO劇場

・2日、松竹は、東京・歌舞伎座の5月公演「團菊祭五月大歌舞伎」(2、26日)で、尾上菊之助の長男、寺嶋和史が、夜の部の舞踊劇「勢獅子音羽花籠」に出演、初お目見得すると発表された。
・2日、体調不良でコンサートを降板していた俳優の松方弘樹(73)が脳リンパ腫と診断されたこと、所属事務所が発した。
・歌舞伎俳優の中村芝雀が五代目中村雀右衛門を襲名する披露公演「三月大歌舞伎」が東京・歌舞伎座で行われた。昼の部で「鎌倉三代記」の時姫、夜の部で「金閣寺」の雪姫を演じた。3、27日
・歌舞伎の人間国宝・尾上菊五郎が「中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲

名披露 三月大歌舞伎」を、胃潰瘍のため休演した。出演予定だった「鎌倉三代記」の三浦之助義村役は、菊之助が代役を務めた。なお、菊五郎は12日から復帰した。
・国立劇場が15年ぶりに新派を上演した。花柳十種の内・遊女夕霧(山口松太郎作 大場正昭演出)遊女夕霧に波乃久里子、番頭与之助は市川月乃助が務めた。五、八重子十種の内・寺田屋お登勢(榎本滋民作 成瀬芳一・齋藤雅文演出)はお登勢に水谷八重子、中村獅童が新派初出演、坂本龍馬を演じた。3、27日

・3日、1月に85歳で亡くなった歌舞伎俳優で劇団前進座代表の中村梅之助の劇団葬「藤川矢之輔葬儀委員長」が東京の青山葬儀所で営まれた。映画監督の山田洋次・脚本家のジェームス三木が弔辞を述べ、俳優の里見浩太朗、松平健、西郷輝彦ら約750人が参列した。
・ソウル演劇協会と日本演出者協会主催による日韓演劇作品交流プロジェクト「演劇でつながろう」で、ソウル演劇祭「未来へ羽ばたけ」部門最優秀作品・劇団ババサーカスの「煉獄」(レンゴク)(アリエル・ドーフマン原作 イ・ウンジン脚色・演出)が上演された。3、6日、東京の下北沢小劇場 B1
・狂言師の野村万蔵とお笑い芸人の南原清隆がタッグを組んだシリーズ企画

「現代狂言」が10周年を迎え、「現代狂言x 狂言とコントが結婚したら」が上演された。4、5日、東京・国立能楽堂
・宮本亜門が長く上演を希望していた三島由紀夫晩年の戯曲「ライ王のテラス」が上演された。「自決と作品は切り離せない。三島さんの人生と王の人生がどうからみあっているかを意識して作り、深層心理に触れたい」戯曲にはない、出演者たちが三島に、王に、カンボジアの芸術家たちに祈りを捧げる場面を冒頭に作った。カンボジアの王を鈴木亮平が主演。4、17日、東京の赤坂ACTシアター

・劇団☆新感線の新作時代劇「いのうえ歌舞伎(黒)BLACK乱鶯」(倉持裕作 いのうえひでこによる演出)が上演された。時代活劇「いのうえ歌舞伎」シリーズで、古田新太が主演した。大東駿介は初の時代物で新感線に2度目の出演。5、4月1日、東京の新橋演舞場 4月13、30日、大阪・梅田芸術劇場メインホール 5月8、16日、北九州芸術劇場大ホール
・米オレゴン州のポートランド州立大学の日本研究センターで学ぶ学生約90人が歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」を英語で上演した。コロンビア大学でドナルド・キーンに学んだローレンス・コミンズ教授が監督した。脚本はハワイ大名宮教授の故ジェームス・ブランドンが1979年に上演のために英訳し

たものを一部脚色し3時間弱の作品に仕上げた。ニューヨークに本部をおく米日財団が資金を助成した。2月25日から3月5日まで8回上演した。最終日の5日には英訳者でもある日本文学研究者のドナルド・キーンも日本から駆け付け上演を称えた。

・6日、日伊の国交150周年を記念し、イタリア・ローマの日本大使公邸で、文楽人形遣いの桐竹勘十郎と人形劇オペラ・ディ・プービのミンモ・クティッキオが、両国が誇る人形芸を披露した。5日にはローマ日本文化会館で文楽の公演を行った。

・6日、東日本大震災の被災者の体験記録を、女優の竹下景子が音楽とともに朗読するイベントが、仙台の宮城学院女子大で開かれ、約1000人が情感込めた語りに聴き入った。竹下は阪神大震災後の神戸市でも同様の朗読会を続けている。

・6日、群馬県・沼田市指定重要民俗文化財の「沼須人形芝居」を伝承する「あけぼの座」が、NHK大河ドラマ「真田丸」放送に合わせ、初代沼田城主の真田信之の妻を題材にした新作「小松姫物語」を沼田市内のホテルで初上演した。

・6日、「目玉の松ちゃん」の愛称で親しまれた俳優・尾上松之助の胸像が建立され50年となるのを記念した式典が京都市の鴨川公園であった。映画関係者やファンら約200人が出席し、日

本初の映画スターの偉業をしのだ。
・7日、松竹は歌舞伎俳優、中村勘九郎の長男七緒八(5)と次男哲之(3)が2017年2月に東京・歌舞伎座で催される「二月大歌舞伎」の門出二人桃太郎の桃太郎役で初舞台を踏むことを発表した。

・東京・初台の国立劇場小劇場が鄭義信の三部作を再上演した。「焼肉ドラゴン」(鄭義信演出 7/27日)たとえば野に咲く花のように(鈴木裕美演出 4月6/24日「バーマ屋スミレ」(鄭義信演出 5月17/6月5日)・9日、「四月大歌舞伎」で空海を演じる市川染五郎が、和歌山県高野山で舞台の安全と成功を祈願した。

・10日、文楽協会と日本芸術文化振興会は、人形浄瑠璃文楽の人形遣いで人間国宝の吉田文雀(87)が引退すると発表した。古典芸能全般の故実に詳しく、舞台にもちいる人形の首(かしら)を決める首割委員を長年にわたり務めた。

・劇団文化座は有吉佐和子原作、小幡欣治脚色の「三婆」を26年ぶりに上演した。演出は文学座の西川信廣。本妻・佐々木愛、愛人・阿部敦子、妹・有賀ひろみが演じた。11/21日、池袋・東京芸術劇場シアターウエスト

・重度の身体障害者である金満里が「障害自体を表現力に転じ未踏の美を創り出す」との着想で旗揚げした「劇団態愛」(大阪市)の舞台「ルンタ(風の馬)

い風よ吹け」が上演された。11/13日、東京の座・高円寺。東京での公演は12年ぶり。
・弦巻啓太率いる弦巻楽団が若手演出家コンクール2014最優秀賞受賞の記念公演「サウンス・オブ・サイレンシア」を上演した。11/13日、東京・下北沢「劇」小劇場 4月13/18日、札幌・シアターZOO

・13日、BSジャパンは特別番組「招待席」歌舞伎 中村芝雀の女形」を放送した。
・14日、堂本光一主演のミュージカル「Endless SHOCK」が、東京・帝国劇場で上演1400回を達成した。

・14日、文楽協会と日本芸術文化振興会は、人形浄瑠璃文楽の語り手である太夫の芸名と職名の表記を「太夫」で統一すると発表した。大阪・国立文楽劇場の4月公演初日の4月2日から実施。
・15日、宝塚歌劇団は次期月組トップスターに珠城りょうが決まったと発表

した。入団9年目でのトップ就任は異例の早さ。9月に退団する龍真咲の後任。
・岐阜県・可児市文化創造センター(aila)と英リーズの地域劇場ウエストヨークシャー・ブレイハウス(WYP)が共同で新作音楽劇を制作する。2016年中に劇作家を選び、17年に台本を完成させ、18年に出演者をオーディションで選ぶ。劇作家は英国人、

演出は文学座の西川信廣。スタッフは日英共同にする。19年度に可児市に5週間、リーズ市に2週間滞在し稽古する。20年にリーズ、ロンドン、東京、可児の4都市で上演する。東京五輪・パラリンピックの文化プログラム参加
・19日、「バリアフリー」能に力を入れている横浜能楽堂が、15回目の公演で、新たな試みとしてタブレット型端末「iPad」やメガネ型ウェアラブル端末に字幕を配信するなどを積極的に導入。

・坂手洋一主宰の劇団「燐光群」が、レズビアン・コミュニティを描いた「カムアウト」(坂手洋二作 藤井ごう演出)を27年ぶりに再演した。共同生活を送るレズビアンたちがさまざまな抑圧を受けながらもたくましく生きる姿を現在の視点により再構築した。19/31日、東京・下北沢のザ・スズナリ

・世田谷パブリックシアターの連続企画の市民参加劇「地域の物語2016生」と性をめぐるささやかな冒険女性編」に、障害者を含む10/60代の20人が参加して上演された。16回のワークショップを重ね、脚本を作り、オリジナルの劇を演じた。20/21日、東京・三軒茶屋のシアタートラム

・21日、安保法制に反対する学生団体「SEALDs」の奥田愛基や映画監督山田洋次、高校生中心の団体「Tins SOWL(ティーンズソウル)」のタ

クヤ、俳優加藤剛ら現在の政治情勢に

危機感を持つ人々が共同代表となった、年間を通し反戦平和をテーマにした劇を上演している劇団俳優座の反戦劇上演を支援する組織「俳優座・反応工程」を成功させる会」を発足させた。「反応工程」(宮本研の戯曲)は5月13、22日に東京・紀伊國屋ホールで上演。

・東日本大震災から5年。宮城県名取市の伝説を題材にした能楽の廃絶曲「名取ノ老女」が、観世・宝生・金剛の3流派合同により東京の国立能楽堂で復活上演された。名取ノ老女は観世流の梅若玄祥と大槻文蔵、護法善神は宝生流の宝生和英と金剛流の金剛龍謹がそれぞれ務めた。台本改訂に携わった能狂言研究家の小田幸子は「能の多くが国家レベルの為政者に向けたもの。個人の切実な願望に神が祝福を与える作品は現在あまり上演されなくなった中で、この作品が復曲される意義を感じている。これは人々に希望を与える能だ」と語る。25、26日。

・K A A T 神奈川芸術劇場(横浜)次世代への古典芸能プロジェクト「若手舞踊公演 SUGATA」の第2弾は、中村鷹之資(猪八戒)、中村玉太郎(沙悟浄)、中村梅丸(孫悟空)の3人が軸となり、藤岡勘十郎の作、演出、振付による新作舞踊劇「新説 西遊記」猪八戒と沙悟浄」。三蔵法師に尾上菊之丞が出演。25、27日、大スタジオ

・若手俳優の古川雄輝が、アイランズの鬼才マーティン・マクドナーのブ

ラックコメディ「イニシュマン島のビリー」(目黒条翻訳 森新太郎演出)で、手足に障害のある17歳の青年ビリーを主演した。25、4月10日、東京・三軒茶屋の世田谷パブリックシアター 23、24日、大阪・梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ

・26日、50周年を迎えた日本脚本家連盟が原作と脚本の現状を問う公開シンポジウムを東京・内幸町のイイノホールで開いた。

・「監督にも著作権を認めよ」との運動に力を入れている日本映画監督協会が創立80周年を迎え、シンポジウム26日)や「日本映画監督協会劇場」(27、28日)と題する映画会などの記念イベントを浅草で開催した。

・福島県の事業「チャレンジふくしまパフォーミングアーツプロジェクト」で県内の中高生35人が創作ミュージカル「タイムライン」を上演した。2015年5月から、作・演出の藤田貴大、音楽家大友良英両講師の下50回を超えるレッスンと生徒たちの話し合いや対話を通じて、台本と楽譜を完成させた。劇作家平田オリザが監修した。26日、福島市文化センター大ホール 4月3日、いわき芸術文化交流館アリオス中劇場

・草笛光子と串田和美が、米国の劇作家エドワード・オルビーの戯曲「海の風景」(鳴海四郎翻訳 串田和美・木内宏昌演出)で初共演した。26、30日、

長野・まつもと市民芸術館 実験劇場 4月3、10日、東京・三軒茶屋のシアターラム 14、17日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場 大スタジオ 23、24日、兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール 29、5月1日、石川・能登演劇堂

・デビュー30周年を迎えた中山美穂が、初の本格舞台「魔術」(内藤裕敬作・演出に挑んだ。共演者の勝村政信から体の動かし方を学び、納得して目を輝かせている。萩原聖人も出演。27、4月10日、東京・下北沢の本多劇場

・29日、大倉流狂言師の茂山千五郎家の当主・十三世千五郎が、父の名跡・千作を、長男・正邦が当主名の千五郎を9月に同時襲名することが発表された。茂山家の親子同時襲名は1994年以来22年ぶり。襲名披露公演は京都、大阪、名古屋、東京で行う。

・29日、安全保障関連法が施行された日。文学座の演出家西川信廣で作る「安保法制と安倍政権の暴走を許さない演劇人・舞台表現者の会」が、東京、京都、岡山など各地の駅頭で、無言でプラカードを持って抗議する「緊急サイレントスタンディング」を行った。東京の信濃町駅前では文学座、青年劇場、劇団青年座、劇団文化座などの有志ら約70人が、抗議した。

・29日、松竹は東京・歌舞伎座の6月公演(義経千本桜)を現行の昼夜2部

制から3部制になると発表した。上演時間を短くし、観劇料も安く設定される。

・30日、舩添知事は、首都圏の劇場やホールが閉館や建て替えて不足している問題で馳文科相と会談し、問題解決に向けて、国と首都圏の自治体による協議の場を設置することと合意した。

・31日、歌舞伎俳優の片岡愛之助と女優の藤原紀香が結婚の記者会見を東京都内のホテルで行った。

四月

・1日、国立劇場は演劇研修所の所長を栗山民也が退任し、新所長に宮田慶子が就任したと発表した。

・「陰陽師 滝夜叉姫」でタッグを組んだ市川染五郎と夢枕獏が再びタッグを組んで高野山開創1200年記念新作歌舞伎「幻想神空海 沙門空海 唐の国にて鬼と宴す」を東京歌舞伎座の「四月大歌舞伎」(夜の部)で初上演した。空海を染五郎、橘逸勢を尾上松也が演じた。2、26日

・文楽の豊竹咲太夫が、病氣療養のため、2日から始まる国立文楽劇場での4月文楽公演「妹背山婦女庭訓」杉酒屋の段」を休演した。代役は咲甫太夫が務めた。

・美輪明宏が7年ぶりに寺山修司作の舞台「毛皮のマリー」に主演し、演出、美術も手掛けた。2、17日、東京・初

台の新国立劇場 中劇場 27〜5月3日、東京・渋谷のバルコ劇場 6日、仙台・東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館） 17日、福岡・福岡市民会館 24日、名古屋・愛知県芸術劇場 大ホール 26日、浜松・アクトシティ浜松 大ホール 28、29日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場 ホール 6月2〜5日、大阪・シアター・ドラマシティ 8日、福島・郡山市民文化センター 大ホール 10日、新潟・新潟県民会館 大ホール

・明治座四月花形歌舞伎「昼の部の近松門左衛門作「女殺油地獄」で油屋の道楽息子河内屋与兵衛を菊之助、同業の油屋の豊嶋屋七左衛門を勘九郎、女房お吉を七之助が、それぞれ初役で演じた。与兵衛役の菊之助は、与兵衛を当たり役とする片岡仁左衛門を監修に迎え、指導を仰いだ。又、七之助は「葛の葉」を初役で演じた。2〜26日

・中谷美紀が井上靖原作の舞台「狛銃」（セルジュ・ラモット翻案、フランソワ・ジャール演出）で1人3役（妻・愛人・愛人の娘）を優雅に演じた。2〜24日、東京・渋谷のバルコ劇場

・2日、和楽器素材の問題を考えるセミナー（邦楽、ジャズ、民謡）が東京新宿の芸能花伝会で開かれた。三味線の胴に使われる犬と猫の皮は世界的な動物愛護の高まりを受け、輸入がほぼ停止、新たな素材としてカンガルーの皮を張った三味線を長唄三味線方の

芳村伊十治郎が実演。「犬や猫と音色は遜色がなく、将来的に期待ができる」と語った。合成皮革を使った三味線もプロたちが試演したが、音色の評価は分かれた。

・文学座は俳優、江守徹の代表就任を決めた。任期は6年。

・北海道テレビ（H T B）の藤村忠寿ディレクターが、本業のかたわら座長を務める「藤村源五郎一座」が時代物を得意とする大阪の演劇パフォーマンス集団「笑撃武踊団」とタッグを組み「戦国輝烈伝」を上演した。3〜6日、東京・阿佐ヶ谷のザムザ阿佐ヶ谷

・民藝研究所の岡本健一がテネシー・ウィリアムズの舞台「二人だけの芝居」で本格的に演劇で初共演、日本初上演。4〜21日、東京芸術劇場シアターウエスト

23、24日、水戸芸術館 28日、市川市文化会館 小ホール

・劇作家・岩井秀人が率いる劇団ハイパイが「おとこたち」を再演した。4人のダメ男の人生を追う「ハイパイ流大河ドラマ」。4〜17日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターイースト 23、24日、三重県文化会館 小劇場 29、30日、仙台市・宮城野区文化センター パトナシアター 5月3、4日、サンポートホール高松 第一小ホール 7、8日、福岡・西鉄ホール 14、15日、ロームシアター京都 ノースホール

・5日、世界の優れたテレビ番組に贈

られる「国際エミー賞」がフランスのカンヌで開催され、NHKの「山賊の娘ロニーヤ」が「子どもアニメーション部門」の最優秀賞に選ばれた。

・歌、ダンス、芝居を融合させた「ザ・コンボイショウ」が30周年を迎え、前年秋の初演時に好評だった「1960」（今村ねずみ作・構成・演出）を再演した。6〜17日、東京・天王洲銀河劇場 5月12〜14日、大阪・森ノ宮ビロテッティ 18、19日、名古屋・アトビアホール 25日、新潟・りゅうとびあ・劇場 27日、札幌・札幌市教育文化会館 大ホール 6月3日、福岡・もちパレス

・日本での上演が待たれていた英国の劇作家トム・ストッパードの「アルカディア」（小田島恒志翻訳、栗山民也演出）が初演された。堤真一、寺島しのぶ、井上芳雄、浦井健治らが出演。6〜30日、東京・渋谷のシアターコクーン

・7日、シエクスピアの死後7年に当たる1623年に出版された「マクベス」や「お気に召すまま」など36作品を含む「ファースト・フォリオ（初版本）」がスコットランドの邸宅で見つかった。

・国立劇場大劇場での谷村新司「ザ・シンガー」コンサートが4年目を迎え、女性3人のボーカルユニット「カラフィナ」をゲストにして開催された。8〜10日

・成河（ソニー）が、本格的なグラッド

ミュージカル「グラッドホテル」（ルーサー・デビイス脚本、トム・サザラッド演出）に初めて挑んだ。9〜24日、東京・赤坂ACTシアター 27、28日、愛知県芸術劇場 大ホール 5月5〜8日、大阪・梅田芸術劇場メインホール

・舞台共演顔合わせという水谷八重子、浅丘ルリ子、山本陽子3人の舞台「平成の三婆」（有吉佐和子原作、大藪郁子脚本、石井ふく子演出）が上演された。佐藤B作、熊谷真実、藤田朋子らも出演。9〜28日、大阪・新歌舞伎座

・「第32回四国こんぴら歌舞伎大芝居」が四代目鴈治郎襲名披露を目玉に開かれた。口上、「幸助餅」「封印切」を上演。藤十郎、愛之助、中車らが出演。9〜24日、金丸座

・地球に難民として逃げてきた宇宙人と、受け入れ側の地球人との対立や混乱を描いた劇「インテランランスの祭」が鴻上尚史のプロデュースユニット「K O K A M I @ n e t w o r k」で上演された。作・演出の鴻上は、不寛容が花盛りの現在の状態を「祭」ととらえ、笑いのスパイスをきかせて味付けした。「笑って楽しく見ながらも、不寛容を受ける人の気持ちや差別についても考えてほしい」と鴻上。9〜17日、東京・新宿の全労済ホール/スペース・ゼロ 29〜5月6日、千代田区

のよみうり大手町ホール

・劇団昂が33年ぶりにシェークスピアの「ヴェニスの商人」(福田恆存訳、鶴山仁演出)を上演した。山口嘉三がユダヤ人の金貸しシャイロックスを演じた。9月28日、東京・板橋のPier 115
・滝沢歌舞伎2016が11年目を迎え、座長の滝沢が江戸の盗賊・鼠小僧を題材にしたオリジナル作品で脚本デビューし、演出も担当した。10月5日、東京・新橋演舞場
・フレンチロックミュージカル「1789 バスティーユの恋人たち」(小池修一郎潤色・演出)が上演された。主人公の農夫ロナンは小池徹平と加藤和樹がWキャストで主演。恋人役の宮廷の侍女オランプは神田沙也加、夢咲ねねのWキャスト。11月5日、東京・日比谷の帝国劇場 21月6月5日、大阪・梅田芸術劇場
・KAT-TUN 神奈川芸術劇場の芸術監督に就任した白井晃の第一作「夢の劇場」ドリーム・プレイ」が上演された。スウェーデンの劇作家、ヨハン・アウグスト・ストリンドベリが描いた、精神世界の迷宮のような混沌とした「夢の世界を白井構成・演出・出演」と長塚圭史(台本・出演)がタッグを組んで舞台化。早見あかりが舞台初主演。12月30日、KAT-TUN 神奈川芸術劇場 ホール 5月4、5日、松本・まつもと市民芸術館 実験劇場 14、15日、兵庫・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール

・名取裕子が米ニューヨークを舞台にした男女の2人芝居「マーシー・シート」(ニール・ラビュート作 倉本朋幸演出)に初挑戦した。相手役は声優の三木眞一郎。13月17日、東京・三軒茶屋のシアタートラム
・鈴木聡(作)宮田慶子(演出)コンビが劇団青年座で上演された。15月24日、東京・新宿の紀伊國屋ホール
・東日本大震災で被災した宮城県仙台市の故郷を離れ兵庫県立ピッコロ劇団に入団した嶺岸加奈がオフシアター「喜劇 かもめ」(A・チェーホフ作 島守辰明翻訳・演出)でプロの俳優として初舞台を踏んだ。15月17日、尼崎のピッコロシアター中ホール
・16日、前年、闘病に明け暮れた日本舞踊家の梅津貴紀が第23回「別会 梅津貴紀の会」を開き、10回目の「道成寺」を披露した。東京・千駄ヶ谷の国立能楽堂
・17日、作家や舞踊家、音楽家らでつくる「勾玉天龍座」が太安万侶ゆかりの多神社・奈良県磯城郡田原本町多の春の大祭で、古事記に基づいた朗読音楽劇「天の岩戸」を奉納した。
・18日、文化庁は文化交流使に柳家さん喬、山田うん、藤岡蘭黄ら六名を指名した。
・20日、熊本地震の被災者を支援しようとして、吉本興業に所属する西川きよし、桂文珍らが、全国11劇場で募金活動

動を始めた。
・劇作家、女優の渡辺えりが初めて手がけたミュージカル「わがまま」が初共演の戸田恵子との二人芝居で上演された。自らが演出するのは初めて。近藤達郎の作曲で、バラードやロック、カントリまで歌い上げた。20月25日、東京・三軒茶屋の世田谷パブリックシアター
・20日、吉本興業はエンターテインメント分野で活躍する人材を育てる学校を2018年秋をめどに沖縄県内に設立すると発表した。ダンスや歌、漫才、演技などの表現だけでなく、CG(コンピュータグラフィックス)や照明技術、特殊メイクなどエンタメを支える技術やマーケティングも教える。
・21日、戦争や平和など命を考える能を残した免疫学者多田富雄の七回忌の命日に「生死の川・高瀬舟考」が多田と親交が深かった観世流の重鎮浅見真州のシテで初演された。森鷗外の「高瀬舟」で描かれる安楽死の場面を、兄弟から夫婦に置き換えた。東京・国立能楽堂
・武器輸出を題材にした劇「雲ヲ掴ム」(中津留章仁作・演出)を劇団「青年劇場」が上演した。「武器輸出の是非や、経済の論理が精神を圧迫する状況を、もう一度考えない」との問題提起を、芝居に込めた。21月30日、東京・紀伊國屋サザンシアター
・大阪を拠点に活動する演劇プロ

デュースユニット「真紅(あか)組」が「おしえるや」(阿部遼子脚本 諏訪誠演出)を舞台を一新、三味線の生演奏などを取り入れ再演した。「大阪の町を作ってきた」おもしろそやし、やってみるか」の精神を描いた。22月24日、大阪・あべのハルカス内の近鉄アート館
・春風亭小朝が、初の試みとして、菊池寛の作品を落語に仕立て「春風亭小朝独演会」菊池寛が落語になる日「v o l . 1」を開いた。25日、8月23日、12月26日、東京・新宿の紀伊國屋ホール
・27日、宝塚歌劇団は星組トップ娘役の妃海風が11月に退団すると発表した。星組トップスターの北翔海莉と同時退団となる。
・27日、日本舞踊協会会長の近藤誠一が各分野の第一人者と語り合う企画「トークシリーズ」訊くヒの第一回が歌舞伎俳優の松本幸四郎をゲストに開催された。東京・国立劇場伝統芸能情報館
・燐光群アトリエの会など18のグループ、総勢75人の役者たちが清水邦夫作の舞台「楽屋」流れ去るのはやがてなつかしき」を「楽屋」フェスティバル」と銘打ち東京・梅ヶ丘BOXのほぼ同じセットを使って競演した。61ステージ。27月5月10日、参加団体・燐光群、OUT老、ハイトプの会、トゥールースシエル、火のように水のように

に、アートひかり、perkky present、道頓堀セレブ、さんらん、latraviata company、ピクニックの恋人、朱夏、マーマーズ、おでこ、womb45、とろんぶ・るいゆ、獣神、ヒノサカの虜。

・28日、舞踏家の笠井叡が「日本国憲法を踊る」と題した公演を開いた。「人が人であることの意味を問う究極のことば」憲法を踊る。東京の国分寺市立いずみホール

・財政難などで休止していた市民手作りの憲法劇が、憲法学者の90%以上が「違憲」とした安全保障関連法が成立、施行されるなど、憲法と立憲主義の危機を前に再始動を決めた。「がんばれッ! 日本国憲法」。子どもや学生、主婦、教員といった約50名の演劇の素人が軽妙なパロディを交えたミュージカル仕立てで演じた。28、29日、横浜市内西区の県立青少年センターホール

・狂言師の野村萬斎が29日公開の映画「スキャナー 記憶のカケラをよむ男」(古沢良太脚本 金子修介監督)で現代劇に初挑戦した。漫才師の宮迫博之とのコンビで共演した。

・29日、白浜観光大使で、松竹新喜劇代表の渋谷天外らが製作した白浜ソング「南紀白浜るんるんRUMBABA」白浜恋物語」が完成し、初披露された。作曲家の服部克久、作詞家の木崎徹、

シンガーソングライターのBORORAが製作協力した。

・中村獅童が、インターネット動画と連動した大型イベント「ニコニコ超会議2016」(ドワンゴ主催)で新作歌謡舞伎に出演し、バーチャル歌手「初音ミク」と初共演した。29、30日、千葉・幕張メッセ

・世界中で人気の漫画「FAIRY TAIL」(真島ヒロ作、児玉明子脚本・演出)が最新技術を駆使して初めて舞台化された。30、5月9日、東京・池袋のサンシャイン劇場 7月1、3日、上海

五月

・「非戦を選ぶ演劇人の会」が、3、19日の期間中、「9条が好きと言えなくたって」明日、戦場に行く」の2種類の台本をもとに全国各地で同時多発的にピースリーディングを行った。

・尾上菊之助が「團菊亭」で5演目で五つの大役をつとめた。昼の部は「十六夜清心」の清心を初役。もうひとつ役は「寺子屋」の千代を東京では初役で務めた。夜の「三人吉」では、お嬢吉三を和尚(松緑、お坊(海老蔵)を1999年2月の大阪松竹座以来の顔合わせで務めた。「勢獅子」では初お目見得の長男、寺島和史と出演。夜の部の最後は舞踊「男女道成寺」で白拍子花子を白拍子桜子実は狂言師左近の海老蔵と共演

した。2、26日、東京 歌舞伎座

・市川染五郎が米ラスベガスで舞踊仕立ての新作物語「獅子王」を映像など最先端技術を駆使して上演した。歌六、歌昇、米吉らも共演した。3、7日、ホテル「MGMグランド」内のレストランシアター デビッド・カッパー・フィールド劇場

・3日、「核なき世界」への願いを次世代に伝えたいと、原爆詩の朗読を30年にわたって続けてきた俳優の吉永小百合がカナダのバンクーバー(プリティッシュコロンビア大学)で原爆の詩や原爆事故に見舞われた福島の人々の詩を坂本龍一のピアノ伴奏で朗読した。

・中村橋之助が高島礼子と共演し、人氣を博したNHKドラマ「御宿かわせみ」(G2脚本・演出)を東京・明治座の舞台で復活上演した。3、27日

・3日、「日本のシンドラ」と呼ばれる外交官・杉原千畝を一人芝居で演じ続けている水澤心吾が千畝が領事代理を務めたリニア記念公演を開いた。東京都千代田区の内幸町ホール 2007年から千畝の一人芝居を始め、公演回数は230回を超えた。

・5日、元お笑いタレントの武者博和が京都で起きた実話に基づいて制作した認知症介護が引き起こした殺人事件をテーマとした舞台劇「生きる」を上演した。横浜市鶴見区の鶴見公会堂。

2014年の旗揚げ公演後、共感を呼び、各地で公演依頼が相次いでいる。

・平均年齢71歳のシニア劇団「かんじゆく座」が10周年を迎え、候補者の人間性をあぶり出す選挙劇「カラスの声もしわがれる」(主宰の鯨エマ作・演出)を上演した。5、8日、東京・中野のザ・ポケット

・劇団「イキウメ」が話題作「太陽」(前川知大・演出)を舞台美術を大きく変え、「原点に戻る形」で再演した。6、29日、世田谷のシアタートラム 6月3、5日、大阪・ABCホール

・米の劇作家トレイシー・レッツ作「8月の家族たち August...O sage County」(目黒条翻訳、ケラリーノ・サンドロヴィッチ上演台本・演出)が本邦初演された。薬物中毒の母バイオレットを麻実れいが演じた。7、29日、東京・渋谷のBunkamuraシアターコクーン 6月2、5日、大阪・森ノ宮ピロテ

・10日、神奈川県泰野市内の音楽関係者でつくる実行委員会が、同市出身の歌手で俳優の吉田栄作がボランティアでレコーディングした市民の手話ソング「With you ありがとう」のCD収益金五十万円などを、県聴覚障害者協会に贈った。

・11日、石川県立音楽堂 邦楽ホールでの日本芸能道中シリーズ 第2回「異世の愛 その行方」に猿之助、壱太

郎、梅丸が出演した。

・K A A T 神奈川芸術劇場が劇場空間を生かしたアート展「突然ミュージアム」を開催した。稽古場や楽屋など、普段は入れない部屋も含む劇場ならではの空間を使用して、新進作家9組による映像や彫刻作品の展示、ワークショップなどを行った。11〜29日
・賀来千香子が日本初演のフレンチコメディ「しあわせの雨傘 Potiche's 飾り壺」(パリエ&グレイ作、佐藤康翻訳、鶴山仁演出)に主演した。12〜19日、東京・銀座の博品館劇場

・前進座が創立85周年の記念公演として、四世鶴屋南北の最高傑作「東海道四谷怪談」を34年ぶりに通し上演した。全員が初役。河原崎國太郎がお岩、おもん、小仏小平、お花の4役、嵐芳三郎が伊右衛門、藤川矢之輔が直助権兵衛、瀬川菊之丞が与茂七、忠村臣弥がお袖を演じた。13〜22日、東京・国立劇場大劇場

・俳優座と文化座が軍需工場で働く動員学徒の叫びや苦悩を描いた宮本研の戯曲「反応工程」をほぼ同時期に舞台化した。俳優座(小笠原響演出、13〜22日、紀伊國屋ホール) 文化座(アトリエ米山実演出、25〜29日)

・藤山寛美の二十七回忌を追善する松竹新喜劇が大阪松竹座で上演された。寛美の当たり役だった「夜明けのストグ」のホームレスの青年役を孫の

藤山扇治郎が演じた。もう一本は「大当たり高津の富くじ」。寛美が得意とした若旦那伊之助を渋谷天外が演じた。波乃久里子が参加。13〜24日、大阪松竹座

・喜劇の劇団「テアトル・エコー」が60周年を迎え「淑女はここにいる(田村孝裕)劇団(ONE OR 8 作・演出)」を上演した。13〜26日、東京・恵比寿のエコー劇場

・16日、5月12日に肺炎による多臓器不全のため80歳で亡くなった演出家の蛭川幸雄の告別式が青山葬儀所で執り行われた。弔辞を俳優の平幹二郎、大竹しのぶ、吉田鋼太郎、小栗旬、藤原竜也が述べた。通夜、告別式には2日間あわせて約三千人が訪れた。

・17日、バレエ界のアカデミー賞と言われるブノワ賞を東京都出身でパリ・オペラ座バレエ団所属のオニール八采(23)が女性ダンサー部門で受賞した。主演した「バキータ」での演技が評価された。

・18日、甲府市出身で歌舞伎俳優の市川喜昇が甲府市の魅力を国内外へPRする「甲府大使」に任命された。兵庫県加古川市出身のお笑い芸人、陣内智則が加古川観光大使に就任した。

・18日、演劇興行の企画、制作などのほか芸能プロダクション業を主な目的として設立された株さち子プロが東京地裁より破産手続き開始決定を受けた。過去には京唄子、正司照枝、正司

花江、浅茅陽子、芦屋小雁など30名ほどのタレントが所属していた。

・12日に死去した蛭川幸雄を悼む「追悼 蛭川幸雄 彩の国シェイクスピア・シリーズ舞台写真展」が彩の国さいたま芸術劇場で開かれた。21〜6月12日

・2020年の東京オリンピックを迎え、外国人に文楽の魅力を伝えようと「Discover BUNRAKU」と銘打った初の公演が東京と大阪で行われた。23日、東京・国立劇場
・「曾根崎心中」、6月12日、大阪・国立文楽劇場「夏祭浪花鑑」を上演。東京ではタレントのダニエル・カール、大阪では英語浪曲に取り組む浪曲師、春野恵子が解説した。舞台上部に初めて英語字幕を出した。

・23日、K A A T 神奈川芸術劇場は、劇団四季と長期にわたって初の提携を結び、人気ミュージカル「オペラ座の怪人」を17年3〜8月上演すると発表した。

・24日、創立60周年を迎えた「日本小唄連盟」は、現役として活躍する90歳以上の会員8人に「長寿功労賞」を贈った。表彰者はいずれも女性。最高齢95歳の蓼胡満千加、蓼胡満涼、菊地満佐、幸村美枝、長生松帆、蓼津留好、永井ひろ、井筒乃美幸。

・25日、日本舞踊の最大流派「花柳流」から除名されたのは不当だとして、舞踊家の青山貴彦(40)が、四代目家元の

花柳寛(85)を相手取り、花柳流の名で活動できる名取であることの確認などを求めた訴訟の判決が東京地裁であった。「除名は無効」として、名取であることを認めた。

・当月亡くなった世界的演出家、蛭川幸雄の最後の演出作「尺には尺を」(シェイクスピア作、松岡和子翻訳、井上尊品演出)が、上演された。蛭川演出・監修でシェイクスピアの戯曲全37作品の上演を目指す「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の第32弾。うち28作品の翻訳を手がけてきた松岡は「読点があると息継ぎをしてしまう。蛭川さんは言葉に勢いを込めて、わーつと一気にかけていくのが好きなんだ」と言う。25〜6月11日、さいたま市の彩の国さいたま芸術劇場

・26日、歌舞伎俳優の市川右近が関西のケレンの大名跡市川右團次を三代目として襲名することになった。80年ぶりの復活。2017年1月、東京・新橋演舞場公演で襲名披露する。長男の武田タケルは、市川右近を二代目として名乗り、17年1月に初舞台を踏む。

・NBAバレエ団の芸術監督を務める久保祐一が純国産で世界に通用する作品をつくりたいと切望し、作曲家の新垣隆と和太鼓奏者の林英哲に協力を依頼。「死と乙女(船木城振付)」を上演した。久保の演出、新垣のピアノ、林の太鼓のみの演奏。27、29日、東京・北

・京都を拠点に古典を大胆に変換し、独自の解釈を施して上演している「木ノ下歌舞伎」が旗揚げ10周年を迎え、「木ノ下大歌舞伎」と銘打った「総決算」公演を開いた。その第一弾が「義経千本桜―渡海屋・大物浦」(多田淳之介演出)。27、30日、名古屋・愛知県芸術劇場小ホール、6月2、12日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターイースト、18日、愛知・豊川のハートフルホール(豊川市・御津文化会館)・27日、女流義太夫の三味線演奏家、鶴澤津賀寿が初のリサイタル「津賀寿の会」を開いた。演目は「源平布引滝」花組芝居役者連の朗読に三味線がからむ「竹生島詣の段」(加納幸和構成・演出)と素浄瑠璃「緋線馬の段」。東京・日本橋の三越劇場

・28日、「八代目中村芝翫 四代目中村橋之助 三代目中村福之助 四代目中村歌之助襲名を祝う会」が東京都内のホテルで催され、関係者や知人ら約2400人が出席した。

・31日、日本テレビ系の人気芸芸番組「笑点の司会を勇退した落語家の桂歌丸(79)が文部科学大臣表彰を受けた。

・蛭川幸雄がアングラ演劇で活躍していた1970年、34歳で手がけた舞台の未公開映像が見つかり、早稲田大学演劇博物館の「あゝ新宿」展で一部が公開された。発見されたのは、「劇団現代人劇場」で上演した「想い出の日本一萬年」(清水邦夫作)。28、8月7日

・作曲家、伊福部昭の没後10年に当たり、その代表的な舞踊作品「プロメテノ火」が半世紀ぶりに復元上演された。首藤康之は圧倒的な存在感で、当時の熱量をも再現してみせた。28、29日、東京・新国立劇場中劇場

・城田優が、ミュージカル「アップル・ツリー」(青井陽治・日本語脚本)で演出家デビューした。28、6月7日、東京・赤坂レッドシアター

・日本劇作家協会リーディング部は劇作家を育成しようと選考した応募作品をいっそう優れた戯曲にするための支援として、俳優によるドラマリーディングと、作者・ゲストとその場に集まった全員でディスカッションをおこなう月いちリーディング」を行なっている。28日、6月25日、9月17日、10月22日、11月12日、17年1月14日、3月4日、東京・座・高円寺けいこ場2 8月27日、17年2月11日、横浜・神奈川県立青少年センター研修室2 6月18日、8月27日、17年1月28日、大阪・common cafe 17年2月5日、北九州・枝光本町アイアンシアター

・31日、人形浄瑠璃文楽座の豊竹英太夫が六代豊竹呂太夫を襲名することが文楽協会から発表された。2017年4月大阪国立文楽劇場と5月東京国立劇場での公演で祖父の十代・豊竹若太夫の前名を継ぐ。

・人気脚本家、遊川和彦が60歳にして

初めて映画監督に挑戦した。重松清の小説「ファミレス」を遊川自身が脚色した「恋愛家宮本」。2017年、1月公開。

六月

・コロッケ特別公演がスペシャルゲストに青木隆治を迎え上演された。落語の演目「死神」と「文七元結」をベースに神津善行が原案を書いた芝居「神隠し!?」と「ものまねショー」の2部構成。「昭和時代には身近だった人情喜劇に本格的に取り組みたかった」と佐藤B作や中村メイコの助演で左官・長兵衛を好演した。1、28日、東京・浜町の明治座

・中村橋之助が初心者向けの「歌舞伎鑑賞教室」「新皿屋舗月雨量」魚屋宗五郎で20年ぶりに宗五郎をつとめた。上演前の「歌舞伎のみかた」と題する解説は萬太郎。17日には外国人向けの歌舞伎教室があり、フリアナウンサーの木佐彩子とともにナビゲーターを務めた。2、24日、東京・国立劇場大劇場国立能楽堂も「能楽鑑賞教室」(20、24日)の中で「外国人のための教室」を開いた。字幕表示を日英中韓の4か国語で対応した。狂言「柿山伏」シテ野村万蔵、能「小鍛冶シテ観世喜正」を上演。解説はリチャード・エマート(武蔵野大文学部教授)。

・新派の六月特別公演で市川月乃助が

「国定忠治」に主演。九月の「二代目喜多村緑郎」襲名を控え、月乃助としての最後の舞台公演に「歌舞伎の世界を志して30年。感謝の気持ちでいっぱい」と思いを語った。2、25日、東京・三越劇場

・俳優の別所哲也が米国で見で感銘を受けた短編映画を、日本でも紹介しようとして18年。短編映画祭「ショートショート フィルフェスティバル & アジア」が東京と横浜で開催された。2、26日

・文学座の女性シリーズ第2弾は教祖と家出した女性たちが集団失踪するなど問題化した「イエスの方舟事件」を題材に、中島淳彦が書き下ろした舞台「何かいいことをしましたでしようか?」という私たちのハナシ」(鶴山仁演出)を上演。出演者9人は全員女性。3、12日、東京・紀伊國屋サザンシアター

・浜木綿子が2年ぶりの舞台「新版喜劇 極楽町一丁目 嫁姑千年戦争」(二階堂正宏原作、佐々木猛脚本、池田政之潤色・演出)に主演した。「喜劇を演じる時は、どこかに陰を持っていたい。そうでないと上っ面の笑いになってしまう」3、5日、東京・北千住のシアター11010

・芸芸番組「笑点の司会に決まった春風亭昇太が「熱海五郎一座」の喜劇「熱闘老舗旅館 ヒミツの仲居と曲者たち」(吉高寿男作、三宅裕司構成・演

出)に出演。旅館の女将役で爆笑を届けた。3・27日、東京・新橋演舞場・浅利慶太潤色・演出の「この命誰のもの」(フライアン・クラーク作、新庄哲夫訳)がプロデュース公演の第4弾として上演された。尊厳死の間に「作爲なしに、自然に見せたい」と演出への意図を語る。4・11日、東京・浜松町の自由劇場

・4日、日本舞踊の最大流派、花柳流は東京・浅草神社で「継承の儀」を行い、四世家元の花柳壽輔(本名花柳寛)が孫の花柳芳次郎(本名花柳創右)に「五世家元花柳壽輔」を継承した。四世家元の壽輔は「二世花柳壽應」を名乗る。5日には都内のホテルで「襲名を祝う会」を開催した。

・6日、第10回「人間国宝の会」(千代田区主催)が国立劇場小劇場で開かれた。邦楽の人間国宝6人が一堂に会した。地歌・寛潤一休・富山清琴、義太夫・新内掛け合「日高川入相花王」竹本駒之助、新内伸三郎、長唄「渡邊綱綱之段」杵屋喜三郎、杵屋淨貞、お囃子の堅田喜三久。最後に京都島原から司太夫、葵太夫を招いて「嶋原太夫道中」を伸三郎の三味線、息子新内剛士の浄瑠璃で披露した。6日、東京・国立劇場小劇場

・15回目の渋谷コクーン歌舞伎で3度目の「四谷怪談」(串田和美演出・美術)がより現代色を強めた群像劇として上演された。伊右衛門(獅童)、お岩(扇

雀)、直助(勘九郎)、お袖(七之助)6・29日、東京渋谷・シアターコクーン

・日本演出家協会主催の演出家・俳優養成セミナー2016「演劇大学inおおい」がホルトホール大分・コンパルホールを会場に9・12日まで開かれた。土田英生、土橋淳志、広田淳一、和田喜夫、清末典子、高柳隆寛らが講師を務めた。山田恵理香(進行)。

・宝塚月組大劇場公演「NOBUNA G A 信長 ー下天の夢「Forever Love!!」で主人公信長に扮するトップスターの龍真咲が退団公演を上演。10・7月18日

・ルーマニアの古都で開かれる「シビウ国際演劇祭」は23回を迎え、約70カ国から民族舞踊やサーカスも含む多くの団体が集った。日本からは4団体が招かれた独創的な表現で人気を呼んだ。劇団俳優座のチェーホフ「三人姉妹」(森一演出、結城座とベトナム青年劇場のコラボ。イブセン「野鴨」山本章弘の能「安達原」と横浜ダンスコレクション「EX2015」でシビウ国際演劇祭賞を受けた黒須育海と香取直登共同振付「RE・DIVISION」(再分化)。10・19日

・国内屈指の受賞歴に輝く奥村康祐が新国立劇場バレエ団の人気作「アラジン」で初めて主役アラジンを踊った。12、19日、東京・初台の新国立劇場

・横浜能楽堂は開館20周年を記念して企画公演「伝説の能面・狂言面」を開

催、11・9月24日まで全4回上演。国の重要文化財の3面を含む計13面を使って、能楽師の各家当主らが名曲を演じる。初回11日の祝言曲「翁」は人間国宝のシテ方観世流の梅若玄祥による翁が「白式尉」をかけて舞い、人間国宝の狂言方大蔵流の山本東次郎による三番三が、国の重要文化財の黒色の面「黒式尉」をかけて舞う。今回、翁の途中で神話の神々が登場する東次郎の新作「横浜風流も上演。謡に横浜市歌を織り込んだ。

・12日、落語家の桂米吉と狂言師の茂山正邦が、演じられる機会の少ない演目に挑戦する二人会「笑えない会」が開かれた。内容が現代人には伝わりにくかったり、笑いの少なかったりする演目をあえて手がけることで、芸の研ぎだにつなげようとした二人会は今回で5回目。米吉は「本能寺」を、正邦は「鱈白目」を演じた。京都市中京区の京都芸術センター

・13日、英国の名門、ロイヤル・バレエ団で、9月から最高位のプリンシパルに昇進する平野亮(32)と高田茜(26)が東京都内のホテルで喜びと抱負を語った。

・劇団民藝が炭鉱夫の画家集団アシン・グルーヴの実話を基にした舞台「炭鉱の絵描きたち」(ヘリー・ホール作・丹野郁弓訳、児玉庸策演出)を日本初演した。15・26日、東京・新宿の紀伊国屋サザンシアター

・4演に挑む野村萬斎が構成、演出を担い、自ら主演する「マクベス」。悪妻で知られる夫人役に鈴木砂羽を迎え、夫婦を「一心同体の存在とし、愛情あふれる妻として描いた。15・22日、東京の世田谷パブリックシアター 25、26日、豊橋・穂の国とよはし芸術劇場PLAT主ホール 28、29日、兵庫・県立芸術文化センター 阪急中ホール 7月1日、札幌・市教育文化会館大ホール 5、6日、名古屋・市芸術創造センター 9日、びわ湖・滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール中 12日、宮崎・メディアキット県民文化センター宮崎県立芸術劇場演劇ホール

・「近代孫孫2016」(バク・クニヨシ作・洪明花翻訳)が上演された。脚色を入れ替えることで、日本人が忘れがちな負の歴史を直視した。15・21日、東京・下北沢のザ・スズナリ

・関西を拠点に活動する劇団太陽族が小会議があぶり出す社会の非寛容を描いた舞台「執行の七人」(岩崎正裕作・演出)を上演した。16・19日、大阪市天王寺区のシアトリカル應典院 7月16、17日、上田・サントリミューゼ上田市交流文化センター大スタジオ

・年間約170回公演する、清和文楽館(熊本県山都町)が熊本地震の風評被害で観客が激減。秋まで入っていた特別公演もほとんどがキャンセルされた。若手への技能継承のため県外への

出張公演も受け付けている。

・結成20周年を迎える男性ばかりのダンスカンパニー「コンドルズ」が新作「LOVE ME TENDER」を上演した。近藤良平構成・映像・振り付け。18、19日、彩の国さいたま芸術劇場大ホール

・劇団ラッパ屋を主宰する鈴木聰が混沌とした現代社会で人生の筋書きが見えない。そんなアラフォーの梨子を中心に描いた新作「筋骨ナシコ」が上演された。18、26日、東京・新宿の紀伊國屋ホール

・19日、雑誌「上方芸能」元編集長、木津川計(80)の一人語り劇場が開かれた。演目は『曽根崎心中』以後。神戸市中央区元町通3の二月堂ホール

・19日、4年前に右足をひざ下から失った歌舞伎役者、日本舞踊家の菊月喜千寿(55)が義足で悲願の「勸進帳」に挑戦。弁慶が片足ずつ踏む「飛び六方」を義足が汗で滑り外れかけながらも、「もつてくれ、もつてくれ」と折る気持ちで花道を駆け抜けた。客席から大きな拍手がわいた。東京・浅草公会堂

・21日、新国立劇場運営財団は理事会で、2018年9月からの芸術監督を決定した。新たに就任するのは指揮者の大野和士(56)(オペラ部門)と演出家の小川絵梨子(37)(演劇部門)。舞踊部門では大原永子(72)が再任された。

・宝塚歌劇団の次期星組トップに紅ゆずる、トップ娘役に綺咲愛里が決まっ

た。

・柄本明、ベンガル、綾田俊樹の3人で始めた「劇団東京乾電池」が創立40周年を迎え「ただの自転車屋」(北村想脚本)を上演した。22、29日、東京・下北沢の本多劇場

・22日、上方落語協会は定期総会で桂文枝会長を再選した。

・つかこうへい七回忌特別公演「新・幕末純情伝」(岡村俊一演出)が上演された。沖田総司役に松井玲奈、坂本龍馬役に石田明がそれぞれ扮した。23、7月3日、東京・天王洲銀河劇場 6、17日、紀伊國屋ホール 22、24日、大阪・梅田芸術劇場メインホール

・構想10年。平田オリザが新作「ニッポン・サポート・センター」を平田主宰の劇団「青年団」公演として上演した。青年団に書く新作は2008年以来で演出も担当。貧困、DVなど日本社会の縮図を描いた。23、7月11日、東京の吉祥寺シアター

・大型の移動舞台車を使用した野外劇「日輪の翼」が横浜市中区の横浜赤レンガ倉庫イベント広場で上演された。演出家で現代美術家のやなぎみわとKAT 神奈川芸術劇場が生誕70年を迎える中上健次の長編小説をもとに舞台化した。俳優のほかタップダンサーやポールダンサー、新内節の演奏家が見世物小屋の祝祭感を演出。山崎なし脚本、巻上公一 曲 24、26日、中上生誕地である新宮(8月6日)、高松(8月

27、28日)、大阪(9月2、4日)

・島根県がステージクリエイター養成講座を3日間にわたり開催した。講師は和田喜夫、田中利花、YUKA、土田英生、佐々波雅子。24、26日、松江市総合福祉センター 松江市市民活動センター

・大阪を拠点とする劇団未来が、原爆で顔に大やけどを負い、渡来して治療を受けた原爆乙女たちの姿を描く「その頬、熱線に焼かれ」(古川健作、しまよしみち演出)を同劇団ワークスタジオで上演した。24、26日と7月1、3日。

・広島・長崎の夏を語り継ぐと、16人の女優で作る「夏の会」による朗読劇「夏の雲は忘れられない」が9月目を迎え、全国を縦断公演した。24日、川崎・日本女子大付属中学校 7月1日、東京・跡見学園中学校高等学校 6日、福岡・春日市ふれあいセンター 7日、山口・小野田市文化会館 8日、広島・幟町青少年センター 9日、広島・なぎさ中学 10日、広島・三原市三原リジョンプラザホール 12日、広島・佐伯区民センター 16日、東京・純心女子学園 18日、長野・駒ヶ根市文化会館大ホール 29日、新潟・十日町市市民会館 30日、長野・県民ホクト文化ホール 31日、岡山・勝央文化ホール 8月13日、埼玉・川越市ウエスタ川越 27日、岐阜・美濃加茂市文化会館

・名画「ローマの休日」を宝塚歌劇団が舞台化した。雪組トップスター早霧せいなが、新聞記者ジョー役で主演した。トップ就任から宝塚大劇場で3作連続客席稼働率100%超という史上初の快挙を成し遂げた。アン王女役は咲妃みゆ。脚本・演出は田淵大輔。25、7月10日、東京・赤坂ACTシアター

・鎌倉を拠点に活動する「紅月劇団」(石倉正英主宰)が結成20周年の記念公演を披露した。25、26日、「義経エキセントリック」(会場・カジュ・アート・スペース)10月には、シェイクスピア原作の「テンペスト」を鎌倉を舞台に脚本を練り上げ、お寺の境内で上演。

・25日、劇団「五反田」主宰で、作家や劇作家として活躍する前田司郎が、自身2本目となる長編映画の監督作品「ふぎげんな過去」が公開された。主演に小泉今日子と二階堂ふみを起用した。

・長野県松川村にある「安曇野ちひろ美術館」館長で女優の黒柳徹子が「名誉村民」の称号をうけた。自著「窓ぎわのトットちゃん」の挿絵に絵本作家いわさきちひろの作品が使われているのが縁で2011年から同美術館の館長を務めている。

・26日、歌舞伎俳優の市川海老蔵と、長女堀越麗禾(4)、長男勘玄(3)が、スキー場跡地の森林回復を図るうと、公募で参加した約1000人とウラボジロミなど13種類の苗木1万本を植

樹した。長野県山ノ内町の志賀高原・旧笠岳スキー場

・27日、「故郷の魅力をPR」と富山市出身の女優タレント、柴田理恵に「富山市特別副市長」の委嘱状が森雅志市長から手渡された。

・2003年に亡くなった劇作家岸田理生が倒れる直前に企画していた構想をプロジェクト・ムーガリオフェス10周年の特別公演として上演した。タイトルは「アンボはつづくよ」まで

も「大橋宏演出」。「理生さんを偲ぶ会」代表の宗方駿が15年の安保健法案に反対するデモが国会を取り巻く様子を見て、「今こそこの作品を」と関係者に働きかけ実現した。28〜7月1日、東京のこまばアゴラ劇場

・29日、大阪松竹座の「七月大歌舞伎」(7月3〜27日)で襲名披露する五代目中村雀右衛門らを乗せた「船乗り込み」が市内であった。

・公文協 東コース 松竹大歌舞伎で染五郎が初の座頭を務め、念願の「松浦の太鼓」を初役でつとめた。30日、東京・江戸川区総合文化センター 7月1日、東京・北とびあ 桜ホール

2日、茨城・県立県民文化センター 3日、神奈川・相模女子大学グリーンホール 5日、北海道・札幌市教育文化会館 6日、北海道・函館市民会館

7日、青森・八戸市公会堂 9日、岩手・北上市文化交流センター(桜ホール) 10日、宮城・東京エレクトロン

ホール宮城 11日、山形・山形市民会館 12日、福島・福島県文化センター

13日、栃木・栃木県総合文化センター 15日、東京・いちようホール(八王子市芸術文化会館) 16日、静岡・ロゼシアター(富士市文化会館)

・公文協 中央コース 松竹大歌舞伎は時蔵の「文売り」と松緑の「鳴神雲の絶間姫に梅枝、亀寿と萬太郎で解説と「三社祭」。30日、埼玉・サンシティ

ホール(越谷コミュニティセンター) 7月1日、東京・府中の森芸術劇場どりーむホール 2日、福島県・棚倉町文化センター(倉美館) 3日、茨城県・牛久市中央生涯学習センター文化

ホール 4日、群馬県・ベイシア文化ホール 5日、神奈川県・小田原市民会館 6日、神奈川県・桐蔭学園シン

フォニーホール 9・10日、秋田県・小坂町康楽館 11日、秋田県・秋田県民会館 15日、愛知県・パティオ池鯉

鮒(知立市文化会館) 16日、愛知県・扶桑文化会館 17日、大阪府・岸和田市立浪切ホール 18日、岡山県・倉敷市芸文館 20日、広島県・はつかいち

文化ホールさくらびあ 23・24日、沖縄県・国立劇場おきなわ

七月

・「江戸系あやつり人形」を380年以上も継承する人形劇団「結城座」は「人形遣い入門塾」を7月から始めた。

・勅使川原三郎が作品や舞踊メソッドを磨く拠点として2013年7月に東京・荻窪に設立した「カラス・アパ

ラタス」が3周年を迎え、続々と野心作を生み出している。

・「君の瞳に恋してる」などのヒット曲で知られるニュージャージー出身の「ザ・フォー・シーズンズ」の栄光と挫折を描くミュージカル「ジャージー・ボーイズ」(小田島恒志翻訳、高橋亜子

訳詞、藤田俊太郎演出)が今回初めて日本人キャストによって上演された。「天使の歌声」と称されるリードボーカ

ルのフランキー・ヴァリ役をデビュー15周年の中川晃教が演じた。フランキー以外のメンバーはWキャスト。REDとWHITEの2チーム。1〜31

日、東京・日比谷のシアタークリエ・横浜ポर्टシアター創設35周年・遠藤啄郎米寿記念公演(説教「愛護の若」

より恋に狂いて)が上演された。脚本・演出・人形・仮面遠藤啄郎 節付け・弾き語り||説教節政太夫 1〜10日、K A A T 神奈川芸術劇場 大スタ

ジオ・福岡の「劇団HallBrother's(ホールブラザーズ)」が新作「男の嫉妬」(幸田真洋作・演出)を上演した。1〜5日、福岡市博多区・博多リ

バレイホール・市川海老蔵が宇野信夫作・演出「柳影澤螢火 柳澤騒動」の柳澤吉保役を初演した。2〜26日、東京・歌舞伎

座・七月大歌舞伎(昼の部)

・文学座の夏のワークショップ「文学座ブラチナ+ワークショップ」が2日〜8月7日の全14回に亘り、開催された。西川信廣らが講師を務めた。▽

「西川信廣 演劇ワークショップ」8月9〜21日 ▽「文学座サマーワークショップ」8月22〜28日、講師は名越志保、高橋正徳。新宿区信濃町の文学座稽古場

・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2016がメキシコ特集としてメキシコで活躍する作家ファン・

ビジョーロと演出家アントニオ・カストロを招聘し、演劇における「言語」や「テキスト」、そして「観客」について議論した。3〜6日、芸能花伝舎 セル

パントス文化センター・中村魁春が東京・国立劇場の「7月歌舞伎鑑賞教室」で13年ぶりに卅三間堂棟由来の「柳の精」お柳を演じた。

夫の平太郎は坂東彌十郎が初役で演じた。3〜24日、国立劇場 大劇場

・8年間在籍した劇団「イキウメ」を退団した新たなステップを踏み出した伊勢佳世が、好演した昨年の舞台「マンザナ、わが町」に続く2本目の井上ひ

した作品「紙屋町さくらホテル」に出演した。演出も同じ鶴山仁。5〜24日、東京・新宿の紀伊國屋サザンシアター・大阪の小劇場を拠点に活動する劇団「テノヒラサイズ」が俳優、落語家、浪曲師、DJなど関西で活躍する多彩な

キャストが共演する舞台「テノヒラサ
イズの人生大車輪」(オカモト國ヒコ
作・演出)を上演した。5・6日、大
阪・ABCホール

・5日、長門協会は特別企画「和楽器
どうなる?〈次世代への進化と開発〉
と題する「夏季定期演奏会」を開き、カ
ンガル皮の三味線を使った演奏を披
露した。「音色はまったく遜色がない」
(杵屋佐吉)という一方で、東京芸大の
小島直文准教授は「なめす(柔軟性を高
める技術の向上など課題もある)」と指
摘。「勸進帳」では101歳の長唄三
味線演奏家、杵屋響景が見事な演奏を
披露した。東京・国立劇場 小劇場

・6日、劇団新派の名跡、喜多村緑郎
を二代目として襲名する俳優の市川月
乃助が、東京・浅草寺で襲名披露のお
練りと成功祈願をした。重要な名跡が
55年ぶりに復活する。

・7日、英ロンドンの名門劇場「グ
ロープ座」内のサムワナメーカール
ハウスで、大和楽の家元大和櫻笙が
亡き父が作曲した「オフィーリア幻想」
を演奏した。シェークスピア作品を一
人芝居で上演する五十田安希の伴奏と
して請われた。グロープ座に生の三味
線が入るのは初めて。

・松尾スズキの新作舞台「ゴーゴー
ボーイズ ゴーゴーヘブン」が上演さ
れた。一組の夫婦を軸に愛や夢を問う
ストーリー。古典芸能風の語りを採り
入れ、長唄の若手ユニット「綾音」も参

加した。7〜31日、東京・渋谷のBu
nkamuraシアターコクーン
・東京・渋谷のバルコ劇場が一休休館
に入る前の最後の公演となる新作舞台
「母と惑星について および自転する
女たちの記録」(蓬萊竜太作、栗山民也
演出)が上演された。命を巡る母と娘
の愛情に満ちた物語を志田未来、田畑
智子、鈴木杏、斎藤由貴ら4人の個性
派女優が紡いだ。7〜31日

・佐々木蔵之介がナチス・ドイツの強
制収容所で愛し合った男たちの舞台
「BENT(マーティン・シャーマン
作、森新太郎演出)に主演した。「希望
を持つてはいけない人たちが、過酷な
状況だからこそ人を愛することによつ
て生きる喜びを感じる。愛について考
えさせられる物語」と佐々木。9〜24
日、東京・三軒茶屋の世田谷パブリッ
クシアター 8月6、7日、J R京都
駅ビル内の京都劇場 19〜21日、大
阪・森ノ宮ビロテイホール

・松竹新喜劇が藤山寛美の27回忌追善
の「爆笑七夕劇場」を開いた。孫の扇治
郎が祖父の当たり演目「夜明けのス
モッグ」など昼夜四演目に次々と挑ん
だ。渋谷天外、高田次郎、小島慶四郎
ら劇団メンバーに加え、水谷八重子、
Wキャストで久本雅美らも出演した。
9〜24日、東京・新橋演舞場

・水車の動力だけで人形劇を上演する
全国的にも珍しい「水からくり」。演目
は神話「天の岩戸」が鹿児島県南九州市

知覧町の豊玉姫神社「水からくりやか
た」で上演された。9、10日、16日
・福岡出身の武田鉄矢が博多座制作公
演「梅と桜と木瓜の花」(池田政之脚
本・北村文典演出で7年ぶりに木瓜
婆さん役で出演した。元役者のおうめ
婆さん(柴田理恵)、福岡藩の重臣の妻
だつたさくら(中村玉緒)の3人が織り
成す時代劇。第2部は「海援隊トーク
&ライブ」11〜30日

・人間の暴力性や残酷さをえぐり出す
作品を手がけてきたイギリスの劇作家
フィリップ・リドリーの新作「レディ
エント・バーミン」(小宮山智津子訳、
白井晃演出)が上演された。高橋一生
と古高由里子が舞台に立ちつばなしで
物語を進める夫婦を演じた。12〜31
日、東京・三軒茶屋のシアターラム
・米ニューヨークで毎年夏に開催され
る舞台芸術の世界的祭典「リンカーン
センターフェスティバル」に今回能楽
界から初めて観世總和が招待された。
演者や囃子方など総勢30人以上が参加
した。「翁」「石橋」「羽衣」「隅田川」(葵
上「狂言」柿山伏」(山本泰太郎など)が
披露された。13〜17日、5日間で計6
回の公演で能、狂言の七つの演目を上
演した。宝塚歌劇団の元トップスター
ら卒業生たちが出演するミュージカル
「シカゴ」も上演された。20〜24日

・別役実の新作舞台「月・こうこう、
風・そうそう」が上演された。演出
は、別役の新作を熱望していた宮田慶

子が初挑戦した。「竹取物語」のなりた
ちが別役の視点で新しい物語としてよ
みがえった。13〜31日、東京・初台の
新国立劇場 小劇場

・13日、人間国宝に認定された歌舞伎
の名脇役、中村東蔵が歌舞伎座で記者
会見。「主役がやりたいのに、脇役で
認められ国宝に「流れに身を任せるの
もいいな」と喜びを語る。

・老舗の新劇5劇団に所属する30代の
女優7人で作る演劇ユニット「On7
(オンナ)」が世界60ヶ国以上で上演さ
れた米劇作家で人権活動家のイヴ・エ
ンスラー作「ま〇この話」あるいは
ヴァギナ・モノロークス」(谷賢一
訳・演出)を上演した。女性器に「賢
て語るモノローク劇。14〜18日、K A
AT神奈川芸術劇場 大スタジオ。上

演に先立ち6月には5日にわたり公募
した観客の計約20人が参加し、稽古を
公開、座談会やワークショップなどの
「ワークインプログレス」を実施し、公
演に意見を反映させた。

・15日、国立劇場開場50周年の開幕を
飾る9月文楽公演で通し狂言「一谷嫩
軍記」で平敦盛を遣う吉田和生と熊谷
次郎直実を遣う桐竹勘十郎が一の谷合
戦ゆかりの須磨寺(神戸市)に公演の成
功を祈願した。通しての上演は41年ぶ
り。公演は9月3〜19日、国立劇場小
劇場

・劇団熾光群を主宰する坂手洋二がピ
ルの窓ガラスを清掃するゴンドラの作

業員だった劇団員らの体験をもとに新作「ゴンドラ ラドンゴ」を劇化、演出も担った。「シンプルなやり方で高所の作業を臨場感を出して見せられるよう工夫した。狭い劇場空間を斬新につかった」16〜31日、東京・下北沢のザ・スズナリ

・16日、平和を願う父の思いを伝えたいと井上ひさしの三女麻矢が「父井上ひさしを語る」と題して語る朗読&講演会が、神奈川県相模原市緑区の県立相模湖交流センターで開かれた。

・18日、能「安達原」の世界を、現代演劇と能で表現する舞台「紡ぎ歌 鬼こもれり」と聞くはまこか「が上演された。前半は林慎一郎作・演出の演劇。後半は半能「安達原」シテは観世流の林本大。大阪・山本能楽堂

・俳優の中西貴一と女優の宮本信子による2人だけの舞台「檀」が上演された。ノンフィクションライターの沢木耕太郎が、作家、壇一雄の妻・ヨソ子に「妻から見た壇についてを聞かせてほしい」と申し出てインタビューをまとめた作品。沢木の原作をもとに、企画・演出を手がける合津直枝が台本を書き下ろした。19〜24日、東京・草月ホール

・日本演出者協会主催国際演劇交流セミナー2016②「アフガニスタン」特集がヤルマー・ホルヘ・ジョーフリ「アイヒホルンを招聘講師として開かれた。20〜24日、東京・東京芸術劇場

(5Fシンフォニースペース) 27〜31日、金沢・スタジオ座

・2013年の米トニー賞6部門受賞の大ヒット作ミュージカル「キンキブーツ」が日本初演された。ブロードウェイ初演を見て以来夢見てきた役ドラグクイーン(女装家)に三浦春馬が挑んだ。経営不振に陥った靴工場の跡取り息子チャリリー役は小池徹平。脚本はハーベイ・ファイアスタイン、演出・振付はジェリ・ミッチェル。シンディ・ローバーが全曲作詞作曲を手がけた。21〜8月6日、東京・初台の国立劇場中劇場 13〜22日、大阪・オリックス劇場 28〜9月4日、東京・渋谷の東急シアターオーブ

・認知症の母と介護する息子を描いた岡野雄一原作の人気漫画「ペコスの母に会いに行く」(池村望脚本、大野木直之演出)が初めて舞台化され、自身の母も認知症という元宮崎県知事の東国原英夫が、主人公ユウイチを演じた。認知症の母ミツエは藤田弓子、他に仁科亜希子らが出演。23〜31日、東京・天王洲銀河劇場 8月2日、長崎ブリックホール 3日、福岡国際会議場メインホール 7日、鹿児島県・出水市文化会館 20〜29日、名古屋・中日劇場

・市民による演劇の祭典「かわさき演劇まつり」が市内の4劇団と子どもダンスグループが参加。公募による市民7人を含め10〜80代の約40人が舞台

に立った。水上勉原作の「ブンナよ、木からおりてこい」(小山裕嗣演出)を上演。命の尊さを訴えた。23、24日、川崎市多摩区のも摩市民館ホール

・23日、能楽師和泉流狂言方の野村万蔵の長男、虎之介(19)が2017年1月、万蔵家の重要な名跡である野村万之丞を六世として襲名することが明らかになった。

・23日、能により親しんでもらおうと宝生流とソニー、大日本印刷は「土麴」の上演で、メガネ型の端末を使った字幕の実証実験を行った。物語に合わせ、端末下部に解説の字幕が出てくる仕組み。

・ケラリーノ・サンドロヴィッチと古田新太がデタラメをキーワードに組んだ企画の3作目。ナンセンスに徹したコメディ「ヒトラ」、最後の2000年〜ほとんど、何もない」が上演された。批判を恐れず、大人の悪ふざけを見せた。24〜8月21日、東京・下北沢の本多劇場 27、28日、北九州・北九州芸術劇場中劇場 9月1〜4日、大阪・梅田芸術劇場シアタードラマシティ 10、11日、新潟・りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館劇場

・劇団民藝が、長崎を舞台に、原爆のために「瞬で失われた命の輝きと尊さ」を描いた芝居「坂道と夏の日」(塚原政司作・田口精一演出)を川崎市麻生区の稽古場で上演した。26〜31日

・子どもと舞台芸術 出会いのフォー

ラム2016が国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。28〜8月3日

・岐阜を拠点に活動する知的なエンターテインメント性で知られる実力派劇団ジャブジャブサーキットが新作「猿川方程式の誤算あるいは死亡フラグの正しい折り方」(はせひろいち作・演出)を上演した。28〜31日、名古屋・七ツ寺共同スタジオ 10月7〜10日、大阪・ウイングフィールド 11月11〜13日、東京・ザ・スズナリ

・影絵演劇劇団「かかし座」が横浜市のK A A T 神奈川県芸術劇場大スタジオで公演「ワンダー・シャドウ」を催した。29〜31日

・29日、テクノプラザかつしか「葛飾区青戸」は自主事業としてよしもとデペロップメントと共同企画した、よしもと葛飾座」の劇団員の募集を始めた。同劇団は12月18日、テクノプラザかつしか(大ホール)での公演をめざしている。街おこしのため、全国で市民らを募って結成している「よしもとふさ」と劇団の一環で、都内では初の試み。

・30日、日光市山内の日光山輪王寺は、勝道上人による日光開山1250年と上人の千二百回忌を記念した事業として「新狂言の夕べ」を開催した。野村万作、野村萬斎、野村裕基の親子3代が「二人袴」「六地蔵」を上演した。

・「元氣とやま」の創造をめざし、芸術

文化の振興に積極的に取り組んでいる富山県。「私たちが未来をきずく」をテーマに第10回目を記念する」とやま世界こども舞台芸術祭2016を開催した。30×8月4日

・「ハリーポッター」シリーズの8作目となる演劇ハリウッドと呪われた子供が30日からロンドンのパレスシアターで上演された。

・30日、奈良の春日大社摂社の若宮神社で880年間続けられてきた「春日若宮おん祭り」の神事と芸能を紹介する特別企画公演が東京・国立劇場大劇場で催された。

・江戸時代、出島のオランダ商館員らが日本の役人をもてなすために演じた喜劇を上演するイベント「感激の出島」が長崎市出島町の「出島和蘭商館跡」で開かれた。同市の劇団「F、S Company」が実際に演じられていた作品「性急者」を披露した。30日、8月6、7、13日、カピタン部屋

・31日、「観世豊饒・曾和博朗・宝生閑 偲ぶ会」が第22回能楽座自主公演として開かれた。舞囃子「西行桜杖之舞」梅若玄祥 同「頼政」塩津哲生 狂言「八句連歌」野村萬 能「天鼓」弄鼓之舞「大槻文蔵、観世鉄之丞 東京・国立能楽堂

八月

・1日、宝塚歌劇団は、花組トップ娘

役の花乃まりあが来年2月に退団すると発表した。退団公演は2017年2月5日に東京宝塚劇場で千秋楽を迎える「雪華抄」金色の砂漠。

・人間に化けたタヌキたちが歌い、踊る、和製ミュージカル「狸御殿」(齋藤雅文・宮本亜門脚本、宮本演出)に尾上松也がタヌキの殿様で主演した。登場するのは全部動物。渡辺えり、赤井英和、小倉久寛らが共演。1×27日、東京・新橋演舞場

・2日、昭和を代表する映画スター石原裕次郎の記念館北海道小樽市が、老朽化や入場者の減少で2017年8月末で閉館することが発表された。

・日本演劇教育連盟主催、第65回全国演劇教育研究集会が、4、5日、東京家政大学板橋キャンパスで開かれた。

・沖縄戦で犠牲になったひめゆり学徒隊を描いた新作の朗読劇「ひめゆりに新国立劇場演劇研修所の10期生たちが挑戦。脚本は文学座の瀬戸口郁。構成・演出は西川信廣。4×6日、新国立劇場小劇場

・終戦直後、連合国軍総司令部(GHQ)が、新聞や雑誌、手紙などを検閲するため設けた民間検閲局を題材とした舞台「奪われた手紙が上演された。福岡を拠点とする「劇団ショーマンシッブ」と「ギンギラ太陽」の共同企画。

生田晃二と大塚ムネトの共同執筆。大塚と仲谷一志の共同演出。4×7日、東京・シアターグリーンBIG TREE

E 20、21日、大阪・日本橋のインディペンデントシアター2nd 29 9月4日、福岡・甘菜館Show劇場

・「下町の玉三郎」として知られる俳優で歌手の梅沢富美男が中学3年まで前橋で過ごしたのが縁で、みなかみ町の猿ヶ京温泉の劇場でんでん座三國館で公演し、町おこしに協力した。5×7日

・樋口一葉の没後120年記念で、東京・こまつ座提携特別公演の井上ひさし作の舞台「頭痛肩こり樋口一葉」(栗山民也演出)が永作博美の主演で上演された。栗山は能舞台をイメージし四方に柱をたてるシンブルな舞台とした。三田和代、熊谷真実、若村麻由美ら。出演者全員が女性。5×25日、東京・日比谷のシアタークリエ

9月3、4日、兵庫県立芸術劇場文化センター阪急中ホール 7日、新潟県民会館 15日、仙台・電力ホール 17日、山形・南陽市文化会館 22日、滋賀・びわ湖ホール 25日、長崎・アルカサSASEBO 大ホール 28 30日、名古屋・中目劇場

・生田斗真が劇団☆新感線の「Vamp Bamboo Burn」ヴァン・バン・バーン〜(宮藤官九郎作、いのうえひでのり演出)に、10年ぶり3回目の出演をした。歌、立ち回り、踊りで大活躍の舞台。5×7日、長野・サントミューゼ 17×9月

18日、東京・赤坂ACTシアター 10月7×9日、富山・オーバードホール 19×31日、大阪・フェスティバルホール

・6日、広島で被爆した移動演劇桜隊の原爆忌で原爆殉難者追悼会が開かれ、墓前祭に続き、新藤兼人監督の映画さくら隊散るが上映された。桜隊菩提寺 目黒五百羅漢寺

・劇団ユニット「青年団リンク ホエイ」が、国民が動揺するとの理由で噴火の情報が伏せられた戦時中の実話に基づく演劇「麦とクシヤミ」(山田百次作・演出)を上演した。6×14日、東京・目黒のこまばアブラ劇場

・歌舞伎女方、尾上右近の自主公演「第二回研の會」が催され、「仮名手本忠臣蔵」の「五、六段目」で早野勘平、「船弁慶」で静御前と平知盛の霊に挑戦した。勘平を菊五郎に船弁慶は藤間勘祖に指導を仰いだ。染五郎が定九郎、不破数右衛門、弁慶として共演。

6、7日、東京・国立劇場小劇場

・5月に亡くなった演出家蛭川幸雄の追悼公演「ビニールの城」(唐十郎作)が上演された。蛭川、唐の両氏に師事し、劇団「新宿梁山泊」を主宰するキムスジン(金守珍)が演出した。いつこく堂が腹話術の指導をした。6×29日、東京・渋谷のBunkamuraシアターコクーン

された。唐十郎×蛭川幸雄、最後の公開対話映像!「劇場都市東京の行方」(2011年10月13日、明治大学リパティールホールで収録)が抜粋公開された。

・日本劇団協議会主催による2016 Education workshopが6月14日、西荻窪の朋友芸術センターで開催された。講師は絹川友梨、渡辺貴裕、西海真理

・8日、沢竜二が自身の半生を演じる「ある旅役者の記録」が東京・新宿の紀伊國屋ホールで上演された。

・笑福亭鶴瓶の新作落語「廓嘶山名屋浦里」(くまざわあかね原作、小佐田定雄脚本、今井豊茂演出)が、中村勘九郎の強い思いで舞台化。東京・歌舞伎座の「八月納涼歌舞伎」で上演された。花魁・浦里役は七之助、江戸留守居役・酒井宗十郎(勘九郎)、山名屋の主人(扇雀)。9月28日

・東京芸術大で日本舞踊を専攻した卒業生たちによる「芸〇座」が結成十周年を迎え、記念公演「八犬伝」を上演した。10、11日、東京・日本橋公会堂

・日本演出者協会主催の演劇大会in函館が11月13日、函館市民会館で開かれた。講師は小林七緒、シライケイタ、平塚直隆、和田喜夫、大杉良、田畑真希。

・1997年に大阪府内の小学校10校の合同鑑賞会の依頼を受けて創作された劇団「ショーカーパニー」のミュージカル「天使の休日」が上演された。ま

た11日には、「天使の休日」の歌とダンスを体験できる「こどもワークショッブ」があった。13、14日、大阪・近鉄アート館

・12日、江戸時代から続く「芸能の街」の文化を次代へ引き継いでいこうと、浅草神社で地元の小学生らを対象にした「浅草神社こども歌舞伎教室」が始まり、神社境内の神楽殿で発表記念公演がおこなわれた。舞台に立ったのは4歳から12歳の男女12人。4月からけいこを重ねてきた「白浪五人男」の一場面「稲瀬川勢揃いの場」を披露した。五代

目中村雀右衛門が指導顧問に就いた。・戦後ヨコハマの繁華街に立ち続えた伝説的な娼婦「ハマのメリーさん」。その彼女を主人公にした一人芝居「横浜ローザ」 赤い靴の娼婦の伝説」を演じ

続けている横浜出身の五大路子が20周年を迎え、記念したチャリティーコンサート「響け!ローザへの思い」(タ・

カーポや山崎ハコらが出演、五大は朗読で参加)を併催した。14月18日、横浜赤レンガ倉庫1号館

・14日、「かながわミュージカルサミット2016」が県内各地域で活動する4団体が出演して初めて開かれた。「ミュージカルあふれる神奈川」の取り組みの一環、横浜・県立青少年センターホール

・14日、ジャーニーズ事務所は国民的人気グループ「S.M.A.P」が12月31日で解散すると発表した。メンバー5人は事

務所に残り、今後は個人として活動する。

・シアター風姿花伝がイギリスの劇作家ジョー・ペンホールが2007年に書いた秀作戯曲「いま、ここにある武器」(小川絵梨子翻訳、千葉哲也演出)を上演した。論理や論理より企業利益が優先するいびつな実態を克明に描く。15月28日

・17日、ホリプロは、ミュージカル「ピーターパン」に主演している女優の唯月ふうかが16日の稽古中に負傷したと発表。17日に大阪の梅田芸術劇場で予定していた2公演を中止。公演はこの日が千秋楽だった。スタッフの機械

の操作ミスで舞台上に衝突した。

・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2016③韓国特集は韓国現代演劇を牽引する劇作家・演出家パク・クニョンを招聘講師にして開催された。18月21日、東京・芸能花伝舎

24日、特別レクチャー「日本大学芸術学部 25月28日、松山・シアターねこ

・東京芸術座が在日韓国・朝鮮人の人権問題に取り組んだ故・崔昌華牧師がモデルの舞台「KYOKAI 心の38度線」(山谷典子作、杉本孝司演出)を上演した。音楽監督は崔牧師の長女でピアノリストの崔善愛。18月22日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト

・19日、新歌舞伎座は、タレントの志村けんが同日夜、座長公演「志村魂」の

終演後、急病(肺炎)のため大阪市内の病院に入院し、20、21両日の公演を中止したと発表した。

・20日、日本舞踊の宗家藤蔭会が創流百周年記念公演を開いた。初代藤蔭静樹の五十回忌と二代目静樹の七回忌追善を兼ねた舞踊会。東京・国立劇場大劇場

・21日、名古屋の劇団四季「新名古屋ミュージカル劇場」が「オペラ座の怪人」の千秋楽公演をもって閉館した。より制作規模の大きな舞台作品に対応するため。10月16日、新しく専用劇場「名古屋四季劇場」が「リトルマーメイド」でオープンする。

・23日、英BBC放送(電子版)が発表した「21世紀の偉大な映画100選」で宮崎駿監督の長編アニメーション映画「千と千尋の神隠し」(2001年)が4位にランクインした。

・中村歌昇と種之助兄弟の2回目の勉強会「双蝶会」は古右衛門の監修で「菅原伝授手習鑑」の「車引」と「寺子屋」を上演。歌昇が松王丸、種之助が武部源蔵と梅王丸を演じた。23、24日、東京・国立劇場小劇場

・23日、俳優の高畑裕太が宿泊先のホテルの女性従業員を乱暴したとして、強姦致傷容疑で逮捕されたことを受け、日本テレビは「24時間テレビ39

愛は地球を救う」の番組パーソナリティーから降板させることを決めた。

・24日、古典芸能各分野の名人や達人

がその至芸を披露する「芸の神髄シリーズ」(NHKエンタープライズなど主催)の第10回公演は、初めて能・狂言にスポットを当て、「能狂言の名人幽玄の花」と題して開催された。友枝昭世、梅若玄祥、野村萬、一噌仙幸、亀井忠雄、野村四郎(7月に人間国宝に認定)ら6人の人間国宝が集った。東京・国立劇場大劇場

・鷹赤兎率いる舞踏集団「大駱駝艦」がアンデルセン童話「はだかの王様」(田村一行振付・演出・出演)を上演した。25〜28日、東京・東池袋のあうるすぽっと

・25日、落語家の笑福亭三喬が2017年秋、七代目笑福亭松喬を襲名すると、所属の松竹芸能が発表した。

・石田衣良の小説「娼年」と「逝年」をベースにした舞台「娼年」が上演された。劇団ボッドルの三浦大輔が脚本・演出した。大学生の男娼(松坂桃李)、ボーイズクラブの経営者(高岡早紀)。26〜9月4日、東京芸術劇場プレイハウス 7〜11日、大阪・梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ 14、15日、福岡・久留米シティプラザ「ザ・グランドホール」

・25日、俳優の渡瀬恒彦が胆のうがん治療のため、1992年からおよそ四半世紀にわたって、これまで計54作品で演じ続けてきた人気ドラマ「西村京太郎サスペンス十津川警部シリーズ」(TBS系)の十津川警部を降板した。

後任は内藤剛志。

・26日、強姦致傷容疑で逮捕された俳優高畑裕太容疑者の母で女優の高畑淳子が謝罪記者会見をおこなった。

・宝塚歌劇団在団53年の演出家、岡田敬二が7年ぶりに大劇場作品「ロマンS!!」を手がけた。岡田が約30年間作ってきた「ロマンチック・レビュ」シリーズの19作目。今作でトップスターの北翔海莉が卒業。26〜10月3日、宝塚劇場 21〜11月20日、東京宝塚劇場

・28日、関西を拠点に活動する狂言方・和泉流の能楽師、小笠原匡が、自主公演「第式回延年之會」を催した。大曲「木六駄」のシテ太郎冠者に初挑戦した。伯父が野村萬、茶屋が野村万蔵、主人が能村晶人。フランス留学中の長男弘晃は萬の大名の胸を借り、「昆布売」のシテをつとめた。東京・国立能楽堂

・29日、八代目中村芝翫を襲名する中村橋之助と、同時に襲名する息子3人が東京・浅草の浅草寺で成功祈願の「お練り」を行った。長男の国生が四代目橋之助、次男の宗生が三代目福之助、三男の宣生が四代目歌之助をそれぞれ襲名する。披露興行は10、11月の東京・歌舞伎座で行われる。

・29日、演出家の宮本亜門が台湾で大ヒットした台湾映画「海角七号」(2008年、魏德聖監督)のミュージカルを手がけることになり、台北市内で記

者会見が開かれた。宮本演出のミュージカルが日本以外のアジアで上演されるのは初めて。

・30日、7月7日に83歳で亡くなった永六輔の「お別れの会」が東京の青山葬儀場で営まれた。親交のあった芸能関係者やファンら約1100人が参列し、別れを惜しんだ。発起人代表タレントの黒柳徹子が「永さん、60年以上いいお友達でいてくれてありがとう。心から感謝しています。近いうちにお会いすることがあると思いますので、その時はよろしくお願いします」と語りかけた。

・三月に五代目中村雀右衛門を襲名した披露興行となる巡業公演「松竹大歌舞伎」(西コース)が始まった。舞踊「當年祝春駒」、襲名披露口上、「仮名手本忠臣蔵」の七段目「祇園一力茶屋の場」雀右衛門は遊女おかるを演じた。大星由良之助は幸四郎。寺岡平右衛門は梅玉。31日、東京・板橋区立文化会館 9月1日、埼玉・ウエスタ川越 2日、立川・たましんR・E・I・S・U・R・U・H・L(立川市市民会館) 3日、愛知・穂の国とよはし芸術劇場PLAT 4日、滋賀・びわ湖ホール 6日、兵庫・あましんアルカイックホール 8日、兵庫・神戸文化ホール 9日、兵庫・赤穂 ハーモニーホール 10日、徳島・あわぎんホール 12日、愛媛・松山 ひめぎんホール 14日、山口・周南市文化会館 15日、広島・呉市文

化ホール 16日、広島・リーデンローズ(ふくやま芸術文化ホール) 17日、岡山・高梁総合文化会館 18日、岡山・岡山市民会館 19日、兵庫・姫路市文化センター 21日、岐阜・岐阜市市民会館 22日、静岡・静岡市文化会館 23日、東京・新宿区立新宿文化センター 24日、埼玉・川口総合文化センター・リリア 25日、神奈川・よこすか芸術劇場

・13年前・イラク攻撃に反対して発足した「非戦を選ぶ演劇人の会」のピースリーディングVol.19「すべての国が戦争を放棄する日」(石原燃構成・脚本、坂手洋二演出)が東京・新宿の全労済ホール/スペース・ゼロで上演された。第一部が朗読劇。第二部がスペシャルトーク。琉球新報社東京報道部長の新垣毅ら。9月1日はイラク支援ボランティアの高頭菜穂子らが出演。31日、9月1日

・加藤健一事務所が「ハリウッドでシェイクスピアを」(ケン・ラドウィツグ作 小田島恒志・小田島則子訳 鶴山仁演出)を上演した。シェイクスピアの「夏の夜の夢」の映画撮影現場を舞台にした奇想天外な喜劇。妖精王オーペロン(加藤健一)、妖精バック(加藤忍)。31〜9月14日、下北沢・本多劇場 17日、藤沢市湘南台文化センター市民シアター 20、21日、エル・おおさかエル・シアター

九月

・吉右衛門を襲名し、50年。十一年目となる「秀山祭九月大歌舞伎」が東京・歌舞伎座で開かれた。吉右衛門は昼の部「條大蔵譚」で阿呆のふりで世間を欺き、源氏再興の機会を待つ大蔵卿を、夜の部「妹背山婦女庭訓（吉野川）」では、二本の花道で、吉野川を挟み亡き領主の妻定高（玉三郎）と境界線争いをする大判事清澄をそれぞれ演じた。1〜25日

・中村吉右衛門 一門の歌舞伎俳優、中村吉之助が「秀山祭九月大歌舞伎」で三代目吉之丞を襲名した。

・歌舞伎から転じて劇団新派に入った市川月乃助が 新派の大名跡、喜多村緑郎を二代目として襲名する披露興行「九月新派特別公演」が行われた。55年ぶりの名跡の復活。「僕は女性の経験はほぼないので、女形を継ぐのではなく、新派の精神をつがせて頂き、新しい喜多村緑郎像を作りたい」と話した。1〜11日、東京・新橋演舞場 17〜25日、大阪松竹座

・90歳で「テレビ番組最多プロデューサー」「世界最高齢の現役プロデューサー」のギネス世界記録を認定された石井ふく子が演出する「おたふく物語」（山本周五郎原作）に藤山直美が江戸で長唄の師匠をするおしず役で主演した。1〜25日、東京・明治座

・人気漫画を原作にした「ガラスの仮

面」（美内すずえ原作、G2脚本・演出）が、貫地谷しほりの主演により、再演された。1〜11日、大阪松竹座 16〜26日、東京・新橋演舞場

・梅沢富美男率いる「梅沢富美男劇団」と歌手、香西かおりによる特別公演が芝居と歌、舞踊の3部構成で上演された。1〜11日、大阪・新歌舞伎座

・歌舞伎俳優、市川九團次の自主公演「第一回九團次の会」が催された。演出は、井上ひさしの短編集「不忠臣蔵の一篇を原作にした新作 義士残花抄」それぞれの忠臣蔵（浅香哲也脚本・演出）と狂言物の「太刀盗人」（岡村柿紅作）の二本。1、2日、東京・浅草公会堂 10日、大阪・森ノ宮ビロテホール

・創建100周年を迎えた内子座（愛媛県喜多郡内子町）で日本演出者協会主催による演出家・俳優養成セミナー2016 演劇大学in内子が開催された。2〜4日、10、11日、内子座・内子自治センター・六日市自治会館

・敗戦から70年以上がたち、若い世代が、日本の歴史を知らない人が多いと浅利慶太。ミュージカル「李香蘭」で日中の歴史を客観的に伝え再演を重ねている。3〜11日、東京・浜松町の自由劇場

・香川県高松市で国の重要文化財「披雲閣」を会場に「マエカブ演劇フェスティバル」が開かれた。日本全国から21劇団が集結した。3、4日

・82歳となった平幹二郎が舞台「クレシダ」（ニコラス・ライト作、芦沢みどり訳）で、気鋭の演出家、森新太郎とタッグを組んだ。シェークスピアの「トロイラスとクレシダ」のヒロインを演じることになった少年ステイブリン（浅利陽介）を猛特訓する演技指導者ジョン・シヤンクを苦しみ半分、楽しみ半分で演じた。4〜25日、東京・三軒茶屋のシアタートラム 10月1、2日、水戸芸術館ACM劇場 8、9日、大阪・サンケイホールブリーゼ

・5日、7月12日に82歳で亡くなったテレビ司会者の大橋巨泉のお別れの会が東京都港区のグランドプリンスホテル新高輪で開かれ、芸能関係者やスポーツ関係者、ファンら約8000人が故人を偲んだ。

・5日、歌舞伎俳優の五代目中村雀右衛門が、歌舞伎舞踊「京鹿子娘道成寺」の由来となった安珍清姫の鐘を安置する妙満寺（京都市左京区）を訪れ、年末に先斗町の歌舞練場で行われる顔見世興行の成功を祈願した。11月30日〜12月25日

・1933年にナチスが上演を禁止したバベル市・ブレヒトの問題作「マハゴニー市の興亡」が白井晃演出・上演台本・訳詞で当初のオペラから、ジャズテイストの音楽劇としてよみがえった。白井は新たな試みとして舞台上に「マハゴニー市民席」を設け観客も巻き込んで劇場全体を欲望の街とし

た。作曲はクルト・ヴァイル。音楽監督はピアニストのsgダイローが務めた。主演の山本耕史は難曲を歌いこなし好演した。6〜22日、横浜・KAA T 神奈川芸術劇場ホール

・文学座アトリエの会が社会と闘う女性の理想と現実の葛藤を描いた「弁明」（アレクシ・ケイ・キャンベル作、広田敦郎訳、上村聡史演出）を本邦初演した。山本道子が主演。7〜21日、東京・信濃町の文学座アトリエ

・韓国発のミュージカル「ヴィンセント・ヴァン・ゴッホ」（チエ・ユソン作、ソヌ・ジョンア音楽）が日本で初上演された。河原雅彦上演台本・演出、森雪之丞訳詞。橋本さとしがヴィンセントを演じた。7〜24日、東京・新宿の紀伊国屋ザンシアター

・日本橋地区に夜もお客さんが滞留して頂けるよう東京・日本橋浜町の明治座が夜8時半からの70分間、伝統芸能とアニメを融合させた観客参加型ミュージカルファンタジー「SAKURA JAPAN IN THE BOX」の上演を始めた。7〜2017年3月31日

・秋本治原作で連載四十年の国民的漫画「こちら葛飾区亀有公園前派出所」が、十年ぶりに舞台化された。1999年の初演から主人公の両津勘吉役を務めるラサール石井が、今回も脚本と演出を担当した。9〜19日、東京・渋谷のアイア2・5シアタートー

キョー 23〜25日、大阪・サンケイホールブリーゼ

- ・東京演劇アンサンブルとパレスチナのNPO「イエスシアター」が共同製作した「ミラー」が上演された。それぞれの俳優が自身の問題意識を投げかけ合って、作り上げた。構成・演出は、イハップ・ザハビと公家義徳。9〜19日、東京・「プレヒトの芝居小屋」
- ・アジア現代舞台芸術交流活動「Asia meets Asia 2016」が6都市共同創作公演として開催された。プログラム「Anywhere」石と身体をモチーフにする連作とプログラム2「今昔一夜一夜」構成・演出・大橋安。9〜10日、横浜・BankART Studio NY
- K Kawamata Hall
- ・日本演出者協会主催による日本の近代戯曲研修セミナーin 東京加藤道夫「なまたけ」を読む！が9日間の研修と、2日間(10、11日)のヘリディング&シンポジウムで開かれた。リーディングの演出は中村孝夫が務めた。
- ・中村勘九郎が舞台「真田十勇士」(マキノノゾミ脚本、堤幸彦演出)で猿飛佐助役を主演した。11〜10月3日、東京・初台の国立劇場 8〜10日、横浜・K A A T 神奈川芸術劇場ホール
- 14〜23日、兵庫・西宮の県立芸術文化センターKOBELCO大ホール
- ・かつては一世を風靡した狂言の驚流。大正期には消滅したと思われてい

たが、山口市と新潟県佐渡市、佐賀県神崎市の住民らによって今も伝承されている。11日には、3地域の驚流が集結し幻の芸を披露した。神崎市千代田文化会館(はんぎーホール)

- ・14日、日中韓の演劇交流「第23回B・e Seto (ベセト) 演劇祭」が鳥取市の「鳥の劇場」でオープンングレセプションがあった。上演は16〜10月10日、鳥の劇場 とりぎん文化会館 倉吉未来中心 米子市文化ホール
- ・大阪新劇団協議会が、協議会創立45周年を迎え大阪劇団協議会と改名。第44回大阪劇団協議会フェスティバル「OSAKA A劇フェス2016」を15〜12月24日に亘り開催した。
- ・流山児★事務所が本土復帰前後の沖繩と日米核密約を題材にした「OKI NAWA 1972」を上演した。劇団「風琴工房」主宰の詩森ろばの作・演出。15〜10月2日、東京・Space 早稲田
- ・江戸中期、岐阜の郡上で起きた大規模な百姓たちの「郡上一揆」を描いた「郡上の立百姓」(こばやしひろし作、藤井ごう演出)を青年劇場が上演した。一揆をまとめた指導者の定次郎を清原達之が演じ、43人の俳優が力強い歌と踊りで躍動した。17〜25日、東京・紀伊國屋ホール 27日、横浜・神奈川県立青少年センターホール 28日、東京・府中の森芸術劇場
- ・18日、狂言大蔵流の茂山千五郎家の

襲名披露公演が、京都観世会館で開かれ、当主の十三世千五郎が隠居名の五世「千作」を、千五郎の長男正邦が十四世「千五郎」を襲名した。襲名披露公演は10月2日、大阪・大槻能楽堂 15日、名古屋能楽堂 30日、東京・国立能楽堂

- ・脚本家の橋田寿賀子(91)とプロデューサーの石井ふく子(90)が、「どぎついものばかり」のドラマの現状に悲憤慷慨。ドラマの原点をめざし、「渡る世間は鬼ばかり」の新作を1年半ぶりに制作した。18、19日、TBS系で放送。
- ・「アジアで世界の舞台芸術家とふれあう」をコンセプトにした「アジア青空劇場フェスティバル2016 in KURUME」が福岡県の久留米シティプラザで開かれた。19〜25日
- ・日本劇作家協会主催の劇作家と俳優のためのせりふの読みかたワークショップが坂手洋二を講師に開かれた。19日、東京・芸能花伝舎 20〜21日、東京・梅ヶ丘BOX 22日、東京・梅丘パークホール
- ・日本演出者協会がマカオから若手演出家陳飛歴(フィリップ・チャン)を招き演出家のためのブレインストーミングワークショップを行った。「実際に起きた事件」をもとに、各演出家が上演プランを持ち寄り、様々な視点から語り合った。20〜25日、札幌・レッドベリスタジオ 27〜10月2日、東

京・芸能花伝舎

- ・落語家の橋家文左衛門が、師匠文蔵の名跡を三代目として襲名し、21日から上野鈴本演芸場を皮切りに東京都内の各寄席で50日間の襲名披露興行を催した。
- ・22日、能を大成させた世阿弥の約六百年前の自筆本による大曲「弱法師」が、シテ方観世流の人間国宝梅若玄祥(盲目の青年俊徳丸らで上演された。狂言方泉流の人間国宝野村万作が少年期に俊徳丸を捨てた父の高安左衛門を演じた。東京・国立能楽堂
- ・前進座創立85周年記念公演「たいこどんどん」(井上ひさし作 高瀬精一郎演出 いずみたち音楽)が上演された。たいこもちの桃八を中嶋宏太朗、若旦那の清之助を早瀬栄之丞がそれぞれ初役で演じた。23〜25日、中日劇場 10月1〜7日、大阪・国立文楽劇場 9日、東京・調布グリーンホール 11日、新潟・アミューズメント佐渡 15〜27日、東京・三越劇場 11月29日、東京・小金井 宮地楽器ホール 12月3日、山形・川西フレンドリープラザ 4日、福島市公会堂 9日、秋田・鹿角市文化の社交流館 コモッセ文化ホール 10日、秋田・横手市民会館 11日、千葉・香取市佐原文化会館 13日、東京・大田区民プラザ 17日、岩手・西和賀町文化創造館銀河ホール 20日、大阪・高槻現代劇場
- ・23日、歌舞伎俳優の片岡愛之助と俳

優の藤原紀香が、世界遺産に登録されている京都市の上賀茂神社で結婚式を挙げた。

・5月に亡くなった舞台演出家・蛭川幸雄作品再演の声に応えようと、蛭川の著作権管理などを行う会社「ニナガワカンパニー」を妻・宏子氏が設立した。

・24日、横浜の「赤レンガ倉庫街」で初となる薪能が横浜能楽堂の主催で開かれた。能「船弁慶（シテ梅若紀彰）と狂言「蚊相撲」（シテ山本則重）。ライトアップを照明デザイナー石井リサ明理が担当。幅5メートル×高さ2メートルの透明の素材を鏡板とし、気鋭の画家山口晃が老松を描いた。

・女優でエッセイストの岸恵子（84歳）が自作の小説「わりなき恋」を戯曲化した朗読劇を一人芝居で上演した。24日、横浜・神奈川県立音楽堂 28日、東京・新宿文化センター 10月1日、さいたま市民会館おもみや 4日、西宮・兵庫県立芸術文化センター 8日、千葉市民会館 12日、東京・町田市民ホール

・25日、ジャポニスム・ブームが起きた1896年の帝政ロシア。ニコライ2世の戴冠を期し、日本に想を得たバレエ「ダイタ」が上演された。120年を経て、「さくら」「どっこい節」「ちよんきな」など俗謡の旋律がピアノ演奏で初披露された。群馬・高崎シティギャラリー・コアホール

・劇団「トラッシュユマスターズ」を主宰

する中津留章仁が劇団民藝とタッグを組み「籠棒（べらぼう）」を作・演出した。「豊かな生活〆〆金」という社会構図を問い直す。主演は榎山文枝。28日、10月9日、東京・紀伊國屋サザンシアターTAKASHIMAYA

・名取事務所が別役実海外交流シリーズ7作目として、「象」を上演した。俳優座の眞鍋卓嗣が演出を手がけた。28日、10月2日、東京・下北沢の小劇場B1

・28日、国立劇場開場50周年記念式典が開かれ皇太子ご夫妻が出席した。式典後は祝いの演目が、能、文楽、歌舞伎によって上演された。

・28日、歌舞伎俳優の片岡愛之助と女優の藤原紀香夫妻が、東京の帝国ホテルで結婚披露宴を行い、菊五郎、幸四郎ら歌舞伎関係者や三谷幸喜ら著名人・芸能人を含めて約600人が出席した。

・世界的な人気サバイバルゲーム「バイオハザード」が初めてミュージカル化された。元宝塚トップスターの柚希礼音が、人類滅亡の危機のなか果敢に戦う女性を演じた。作曲・音楽監督は和田俊輔。30日、10月12日、東京・赤坂ACTシアター 11月11日、大阪・梅田芸術劇場

・30日、宝塚歌劇団は花組の次期トップ娘役に仙名彩世が就くと発表した。現トップ娘役の花乃まりあが2017年2月に退団後、トップスター明日

海りおとコンビを組む。

・関西経済同友会が、大阪府・市の芸術・文化政策に対する緊急アピール「脱・80円文化政策に向けて」を発表した。大阪府の芸術文化経費が府民一人当たり79円と全国最下位レベルで、大阪府も814円と政令指定都市の中では下から3番目だとして対応を求めている。

・白水社が創立百周年を記念して、日本近現代の百五十年における、一千人の劇作家、一万本の傑作戯曲を網羅した「日本戯曲大事典」を刊行した。責任編集に大笹吉雄、岡村美奈子、神山彰、扇田昭彦の各氏があたった。井上ひさしが発案し、遺志を受け継いで編まれた。

・10月巡演「松竹大歌舞伎」で市川猿之助と坂東巳之助がWキャストで市川猿之助と十三人を演じ分ける早替りを見せた。演目は四世鶴屋南北の「蜀道中五十三驛」1日、埼玉県入間市・入間市市民会館 2日、新潟県新潟市・新潟県民会館 3日、岐阜県高山市・高山市民文化会館 4日、石川県小松市・こまつ芸術劇場うらら 5日、岐阜県羽島市・不二羽島文化センター（羽島市文化センター）スカイホール 6日、愛知県岡崎市・岡崎市民会館 8日、11日、京都市・京都芸術劇場春秋座

・10月巡演「松竹大歌舞伎」で市川猿之助と坂東巳之助がWキャストで市川猿之助と十三人を演じ分ける早替りを見せた。演目は四世鶴屋南北の「蜀道中五十三驛」1日、埼玉県入間市・入間市市民会館 2日、新潟県新潟市・新潟県民会館 3日、岐阜県高山市・高山市民文化会館 4日、石川県小松市・こまつ芸術劇場うらら 5日、岐阜県羽島市・不二羽島文化センター（羽島市文化センター）スカイホール 6日、愛知県岡崎市・岡崎市民会館 8日、11日、京都市・京都芸術劇場春秋座

十月

・10月巡演「松竹大歌舞伎」で市川猿之助と坂東巳之助がWキャストで市川猿之助と十三人を演じ分ける早替りを見せた。演目は四世鶴屋南北の「蜀道中五十三驛」1日、埼玉県入間市・入間市市民会館 2日、新潟県新潟市・新潟県民会館 3日、岐阜県高山市・高山市民文化会館 4日、石川県小松市・こまつ芸術劇場うらら 5日、岐阜県羽島市・不二羽島文化センター（羽島市文化センター）スカイホール 6日、愛知県岡崎市・岡崎市民会館 8日、11日、京都市・京都芸術劇場春秋座

12日、大分県大分市・iichiko総合文化センター 14日、長崎県長崎市・長崎ブリックホール 15日、岡山県岡山市・岡山市市民会館 16日、島根県出雲市・出雲市民会館 18日、広島県東広島市・東広島芸術文化ホールから 19日、香川県丸亀市・丸亀市民会館 20日、和歌山県和歌山市・和歌山県民文化会館 22、23日、秋田県鹿角市・明治の芝居小屋「康楽館」25日、福島県郡山市・郡山市民文化センター 26日、宮城県仙台市・東京エレクトロニホール宮城

・市川海老蔵が「秋の特別公演 古典への誘い」の巡業で初めて「勧進帳」の弁慶を演じた。富樫左衛門は中村獅童が初めて務めた。「勧進帳」の基となった能「安宅」を舞囃子形式で観世喜正、梅若紀彰、片山九郎右衛門らが日替わりで演じた。11、12日、鳥取県米子市・米子コンベンションセンター 5日、岡山県倉敷市・倉敷市民会館 6日、広島県広島市・広島文化学園HBBホール 8、11日、群馬県山鹿市・八千代座 14、15日、石川県小松市・こまつ芸術劇場うらら 16日、石川県小松市・安宅の関特設舞台 18、19日、大阪府・NHK大阪ホール 21日、23日、札幌市・ニトリ文化ホール 25、26日、東京台東区・浅草公会堂

・松竹新喜劇の若手俳優、藤山扇治郎が自主公演「若藤会」を発足させ、第1回として「僕の東京日記」（永井愛蔵

・松竹新喜劇の若手俳優、藤山扇治郎が自主公演「若藤会」を発足させ、第1回として「僕の東京日記」（永井愛蔵

曲、高木達演出)を上演した。1、2日、大阪・国立文楽劇場小ホール ・黒柳徹子が喜劇「レティスとラベツジ」(ビクター・シェーファー作、高橋昌也演出)に主演した。1989年に始まった「海外コメディ・シリーズ」第30弾。1、16日、E Xシアター六本木 ・中村橋之助が中村芝翫を八代目として襲名、披露公演「芸術祭十月大歌舞伎」吉例顔見世大歌舞伎」が10、11月、東京・歌舞伎座で行われた。10月は「極付幡随長兵衛」(昼)「熊谷陣屋」(夜)を古風で豪快な四代目の「芝翫型」で演じた。四代目中村橋之助(国生)、三代目中村福之助(宗生)、四代目中村歌之助(宜生)を襲名する3兄弟は新作舞踊「初帆上成駒宝船」(昼)で共に舞う。又、七世中村芝翫に入門し、成駒屋一門で修業を続けてきた中村芝喜松が幹部俳優の列に加わった。11月昼には「祝勢揃壽連獅子」で親子4人がそろい踏み。10月2、26日、11月1、25日 ・向井理にあて書きされた逢菜竜太作・演出の新作舞台「星回帰線」が上演された。3年ぶりの舞台に意気込む向井「生々しいセリフが面白い」。1、30日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト 11月2日、愛知・徳の国とよはし芸術劇場P L A T 主ホール 5、7日、札幌・道新ホール 11、12日、新潟市民芸術文化会館劇場 17、20日、京都・ロームシアター京都サウスホール 22、23日、広島J M S	アステールプラザ中ホール 25、27日、福岡・北九州芸術劇場 中劇場 30、12月1日、鹿児島市民文化ホール第2ホール ・日本舞台音響家協会が舞台音響家のための公開講座を開いた。2、3日、世田谷パブリックシアター 音響スタジオ オバトリウム 2017年1月8、9日、高知市文化プラザ かるぽーと ・国立劇場が開場50周年の目玉企画として「仮名手本忠臣蔵」を十一月の三ヶ月をかけて全十一段を上演。第一部「幸四郎、梅玉ら」3、27日 第二部「菊五郎、吉右衛門ら」11月2、26日 第三部「幸四郎、梅玉ら」12月2、26日 ・愛之助が大泥棒の石川五右衛門を演じる歌舞伎「G O E M O N 石川五右衛門」(水口一夫作・演出)が東京で初上演された。五右衛門がスペインの宣教師の血を引くハーフだったという設定で、劇中でフラメンコを披露。3、27日、東京・新橋演舞場 ・6日、兵庫県香住区津浦の青壮年で構成する劇団「ニユーこがね座」(松井豊茂座長、30人)が、大放神社境内で村芝居太郎と玉手箱を上演した。若者の減少で芝居は数年途切れていたが、10年ほど前に復活してからは、住民らは自作自演の楽しい劇を毎年楽しみに待っている。 ・藤原竜也が韓国演劇界の巨匠李康白原作の戯曲「鱈々」(栗山民也演出、石川樹里翻訳)に主演した。7、30日、東京・天王洲銀河劇場 ・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2016 ⑤ウエルズ特集はジル・グリンハーフを招聘講師にして開催された。12、15日、ワークショップ 16日、ワークショップ成果発表&レクチャー 東京・新宿の芸能花伝舎B1a) ・「表現の自由と私たちの演劇」をテーマとする演劇大学in大阪2016が開かれた。13日、「公的助成と演劇」講師…佐藤千晴 11月24日、「メディアの成熟と社会」講師…森達也 12月15日、「マンガと演劇」講師…高取英会場…ドーンセンター5階 視聴覚スタジオ ・シェイクスピアの喜劇「お気に召すまま」がワタナベエンターテインメントの俳優集団D B O Y S によって上演された。出演者全員が男性で、女役も全て男優が演じた。14、30日、東京・本多劇場 11月12、13日、山形・シベールアリーナ 19、20日、兵庫・県立芸術文化センター 阪急中ホール ・早稲田大学演劇博物館シェイクスピア没後400年記念特別展「沙翁復興」追遙からN I N A G A W A までが開かれた。14、1月29日 ・水俣病の患者を初めて確認した元チッソ水俣工場付属病院の故細川一院長をモデルに戯曲化したトム・プロ	ジェクトプロデュース「静かな海へ M I N A M A T A (ふたつちつよし作・演出)が上演された。永島敏行が主演。14、20日、東京・新宿の紀伊國屋ホール ・屋外の文楽公演「につぽん文楽」が東京・浅草寺の本堂裏の特設舞台で行われた。演目は「五条橋」「壺坂霊験記山の段」(和生と玉男らが人形を遣いながら雷門から浅草寺本堂まで「お練り」を行った。15、18日 ・15日、埼玉県芸術文化振興財団は、彩の国さいたま芸術劇場の「彩の国シェイクスピア・シリーズ」芸術監督に、俳優で演出家の吉田鋼太郎が就任すると発表した。シェイクスピア全37作品の上演を目指すうち、残る5作品を上演し、シリーズの完結を目指す。5月に死去した演出家蜷川幸雄の後任・国際舞台芸術祭「フェスティバルトキヨー16」が、東京・池袋の東京芸術劇場を主会場にして開かれた。「境界を越えて、新しい人へ」をテーマに内外の演劇やダンス、美術、音楽など様々な分野が融合した16演目4企画、約80公演の作品を上演。作品を通して社会を新たな視点で問い直す。15、12月11日 ・1992年のアルペールビル冬季五輪の開閉式を演出したフランスの振付家、フィリップ・ドゥクフレが率いるカンパニーD C A のミュージカル「コンタクト」(「ファウスト」を土台
--	---	---

にした)が日本で上演された。15、16日、名古屋・愛知県芸術劇場大ホール22、23日、新潟・りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館劇場 28、30日、彩の国さいたま芸術劇場大ホール

・17日、2011年に亡くなった、音楽劇「上海パンスキング」の作者で、劇作家の斎藤憐をふりかえる会が座・高円寺の館長を務めた「座・高円寺」の「カフェ&レストラン アンリ・ファブル」で開かれた。

・人気ミュージカル「ミス・サイゴン」に日本初演時から約25年にわたってエンジニア役を続けてきた市村正親が卒業した。19、11月23日、東京・帝国劇場 12月10、11日、岩手・岩手県民会館大ホール 17、18日、鹿児島市民文化ホール 23、25日、福岡・久留米シティプラザ・ザ・グランドホール 30、2017年1月15日、梅田芸術劇場メインホール 19、22日、名古屋・愛知県芸術劇場大ホール

・ミュージカル「スカレット・ピンパーネル」(紅はこべ)が上演された。英国貴族パルシーを石丸幹二、妻マルグリットを安蘭けい主演した。パロネス・オルツィ原作、ナン・ナイトトン作曲。19、26日、東京・赤坂ACTシアター 30、11月7日、大阪・梅田芸術劇場メインホール 11月24、29日、東京・国際フォーラムホールC

・宮沢賢治シリーズ第3弾をバージョ

ンアップした「風の又三郎2016」ODYSSEY OF WIND」(小池博史脚本・演出)が上演された。能楽師の清水寛二が出演した。22、23日、長野市芸術館アクトスペース 29日、パルテノン多摩小ホール 11月2日、茅野市民館マルチホール 6日、日立システムズホール仙台

・人形浄瑠璃「相模人形芝居」に関する特別展「相模人形芝居の世界」が昭和女子大学光葉博物館で開かれた。長谷座林座 下中座 前鳥座 足柄座の5座の人数約20体をはじめ、各場面の再現や、人形の構造に関する展示など。22、11月26日

・「五輪の年には文化省創設」を掲げ活動している芸術家会議が文化庁京都移転に関する要望書を文化芸術振興議員連盟所属議員、まち・ひと・しごと創成本部、文部科学省記者クラブあてに提出した。

・売春などで治安悪化した町をアードで「再生」させる町づくりが進む横浜・黄金町エリアで同町を拠点に活動する「劇団!王子の実験室」と横浜の劇団「G/g project」が三浦半島を舞台にした「ゴードン・ドーン!」黄金の夜明け」を上演した。王子の実験室代表 田口浩一郎が脚本を担当。24、30日、黄金スタジオD

・24日、故桂米朝が京都市の安井金比羅宮で始め、隔月で開催してきた一門の勉強会「桂米朝落語研究会」が50周年

を迎えた。

・横浜市立和泉小学校の六年生が「和泉つ子歌舞伎」と名付けた総合学習に取り組んでいる。地域は昭和初期まで芝居一座が根付いていた影響で農村歌舞伎が盛んだった。1995年に「いずみ歌舞伎保存会」が結成され、同会メンバーが指導にあたっている。本年度は「白浪五人男 稲瀬川勢揃い」の場を64人の六年生が週1回、90分の授業で稽古に励んでいる。12月14日に校内で開く「伝統文化発表会」で上演する。

・25日、映画監督の北野武が仏最高勲章「レジオン・ドヌール」の4等「オフィシエ」を受賞した。

・2017年9月に80周年を迎える文学座で、創立80周年記念公演の第1弾として、水上勉作「越前竹人形」(高橋正徳演出)を上演した。娼妓だったヒロインの玉枝を山本郁子が、竹細工師の喜助を助川嘉隆が演じた。25、11月3日、東京・新宿の紀伊國屋ホール 11月11、13日、岐阜・可児市文化創造センター aia 小劇場

・27日、歌舞伎俳優の市川春猿が2017年1月に劇団新派に入団することが決まり、都内で記者会見した。入団に伴い、「河合雪之丞」と改名。「河合」は、新派の女形の名優、河合武雄から、「雪之丞」は猿翁からの推薦。入団後の第1作は17年1月、東京・三越劇場での初春新派公演「華岡青洲の妻」。

・28日、22日、82歳で急逝した俳優の

平幹二朗の葬儀が東京都港区の青山葬儀所で営まれた。舞台で共演した佐々木蔵之介、富司純子、市川猿之助、藤原竜也ら関係者約600人が参列し、別れを惜しんだ。ともに俳優座に在籍し、「NINGAGAWAマクベス」などで共演を重ねた栗原小巻や演出家の鶴山仁が弔辞を述べた。

・29日、神奈川県相模原市緑区青野原地区の長野集落で、大正期から続く村芝居「親恋唄 丹沢しづめ」(喜楽千太郎原作・脚本)が、地区文化祭で披露された。集落の組織「青友会」のメンバーが出演、舞台設営、照明、音響などすべてを手がけた。県内で村芝居が続いているのは、長野集落と同市緑区三ヶ木地区の2か所だけという。

・チェーホフの代表作のひとつ「かもめ」(翻訳・上演台本木内宏昌、能林弘高演出)が上演された。大女優アルカージナ(佐藤オリエ)、息子で劇作家志望のトレブレフ(坂口健太郎)が舞台初出演、女優志望の恋人ニーナ(満島ひかり)、人気作家トリグリーン(田中圭)らが出演した。29、11月13日、東京・池袋の東京芸術劇場 プレイハウス 11月16日、宮崎・メディアキット県民文化センター 演劇ホール 19、20日、松本・まつもと市民芸術館主ホール

・柳田国男の「遠野物語」をモチーフにした舞台「遠野物語・奇々怪其ノ参」(前川知大脚本・演出)が上演された。

柳田がモデルのヤナギタ役を仲村トオルが演じた。31、11月20日、東京・世田谷パブリックシアター 11月23日、新潟・りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館劇場 26、27日、西宮・兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール 30日、盛岡・岩手県民会館大ホール 12月3、4日、仙台・イズミティ21小ホール

・28日、ロシアの名門ワガノワ・バレエ学校が主宰する第7回ワガノワ国際バレエコンクールで島田陽衣が女子ジュニア部門で優勝した。

・30日、松竹は、歌舞伎俳優の坂東彦三郎が初代坂東楽善、長男の亀三郎が九代目彦三郎、次男の亀寿が三代目亀蔵、亀三郎の長男侑汰が、六代目亀三郎を襲名することを発表した。2017年5月、東京・歌舞伎座の「團菊祭 五月大歌舞伎」で襲名披露を行う。

十一月

・「3. 11」の時、駐日ポーランド大使で能楽を学んだヤドリガ・ロドリッチが、第二次大戦中、ナチス・ドイツが大量虐殺を行ったアウシュビッツ強制収容所と、東日本大震災で津波と原発事故の被害を受けた福島で犠牲になった人々の霊を弔う能「鎮魂」(笠井賢一演出)を上演した。シテ・節付・作舞を観世鏡之丞がつとめた。震災への鎮魂を詠んだ天皇、皇后両陛下の和歌2

作も能に採り入れた。1日、アウシュビッツ・聖ユゼフ平和教会、14日、東京・国立能楽堂

・中村3兄弟、橋之助、福之助、歌之助が襲名2ヶ月目に入った東京・歌舞伎座で通常は2人の連獅子を4人に書き換えた「祝勢揃壽連獅子」(狂言師後に親獅子の精を芝翫、狂言師後に仔獅子)を3人で踊った。1、25日

・10月から始まった国立劇場開場50周年記念「仮名手本忠臣蔵」の3ヶ月連続公演の第二部は五、六段目を尾上菊五郎・早野勘平、七段目を中村吉右衛門(大星由良之助)の2人の人間国宝が演じた。「何度やっても難しい」という2人。2、26日 国立劇場大劇場

・3日、文化の日。川崎市麻生区黒川に拠点を置く劇団民藝が、初の試みとして近隣の幼児らを招待して絵本や童話を読み聞かせる会を開いた。劇団員の石巻美香、新澤泉、白石珠江の三人が交代で読み手を務めた。

・劇団 阿佐ヶ谷スペースが結成20年を記念して、04年に上演された代表作「はたらくおとこ」(長塚圭史作・演出・出演)を12年越しに再演した。3、20日、東京・本多劇場 23日、福岡・キャナルシティ劇場 25日、広島・アステールプラザ中ホール 12月2、3日、大阪・松下IMPホール

8日、名古屋・名古屋市青少年文化センターアートピアホール 14日、盛岡・盛岡劇場メインホール 16日、仙

台・電力ホール

・大阪を拠点に活動する「ブラック★タイツ」が、新作「ファウストの檻」(主宰のmaechang作・演出 俳優、橋口俊宏が作曲)を上演した。出演は全員が男性。3、6日、大阪市浪速区日本橋のインディペンデントシアター2nd

・劇団若獅子が、劇作家長谷川伸の股旅物の代表作「番掛時次郎」を上演した。時次郎を主宰の笠原章、おきぬを二宮さよ子が演じた。3、6日、東京・三越劇場

・吉本興業の礎を築いた吉本せいいの生涯を描く舞台「笑う門には福来る」女興行師 吉本せい「が大阪松竹座で上演された。藤山直美がせい役を演じた。4、25日

・豊岡市の出石永楽館で恒例の第九回永楽館歌舞伎が片岡愛之助を座頭に上演された。第3幕の「春重四海波」(一堺漁人作、水口一夫脚色・演出)では、今回の公演のため、脚色により出石を舞台にアレンジした。壱太郎、寿治郎、吉弥らも出演。4、11日

・4日、文化庁が認定した全国各地の伝統文化を国内外に伝える「日本遺産大使」に歌舞伎俳優の中村時蔵や女優の武井咲らが任命された。大使の活動期間は5年間。

・劇団わらび座が秋田県潟上市出身の農業指導者、石川理紀之助の生涯を描いた舞台「新リキノスケ走る!」(栗城

宏脚本・演出)を上演した。主役は岡村雄三。6、2017年2月26日、秋田市中通一丁のにぎわい交流館AU

・9日、米軍基地が集中する沖縄の現状などを描いた朗読劇「すべての国が戦争を放棄する日」が、金沢市間間町のインドライド料理店「アザン」でおこなわれた。能美市から石川県内の有志14人が演奏やスライド上映も交え約2時間上演した。

・落語家の林家正蔵が劇団KAKUT Aの公演「愚図」(桑原裕子作・演出)で舞台初主演した。10、20日、東京・東池袋のあうるすぽっと 12月13、14日、豊橋・穂の国とよはし芸術劇場アトリスペース 17、18日、福岡・北九州芸術劇場小劇場

・デビュー10年を迎えた俳優中村蒼が2年ぶりに劇団「ONE OR 8」と初タッグを組んだ舞台「さようならば、いざ」(田村孝裕脚本・演出)に主演した。11、12日、札幌・道新ホール 16、23日、東京芸術劇場シアターイースト 26日、山形・米沢市民文化会館

・青森県八戸で地域に根ざした演劇活動を旗印に活動している劇団やませが、第42回本公演「上り街道へー」八戸南部家 麻姫さまー(佐々木功作・演出)を上演した。11、12日、八戸市公会堂文化ホール

・罪悪感や恥の意識を描いた鴻上尚史作・演出の舞台「サバイバーズ・ギルト&シェイム」に山本涼介が舞台で初

主演した。11、12月4日、東京・新宿の紀伊國屋ホール

- ・12日、文化芸術推進フォーラム（議長 野村萬）は「五輪の年には文化省」宣言を掲げ、文化芸術の力をすべての人々に」と音楽、演劇、舞踊などの実演家が結集して特別公演を行った。新国立劇場 中劇場
- ・瑛太が「サンバザー兄弟」（宮藤官九郎作・演出）に出演し、あまり披露してこなかった歌にも挑戦した。13、12月4日、東京・池袋のサンシャイン劇場 8、18日、大阪・森ノ宮ピロティホール
- ・14日、1997年に亡くなった国際的映画スター三船敏郎のハリウッド殿堂入りを祝う式典が米ロサンゼルス・ハリウッドで、孫で俳優の三船力也ら日米の映画関係者が出席して開かれた。三船の名前を刻んだ星形プレートがハリウッドの観光名所「ウォーク・オブ・フェイム」に埋め込まれた。
- ・妻夫木聡が、ケラリノ・サンドロヴィッチ（KERACH）の台本・演出の舞台「ギネマと恋人」で、スクリーンの中から抜け出た映画の登場人物「とろ」の役を演じた映画俳優の2役を演じた。15、12月4日、東京・三軒茶屋のシアターラム 12月7、8日、梅田芸術劇場シアタードラマシティ
- 11、12日、まつもと市民芸術館 実験劇場 15、18日、名古屋市民芸術創造センター

- ・15日、国内外で1180回の公演を重ねる坂本長利の米寿記念公演独演劇「土佐源氏」が、東京の座 高円寺2で上演された。
- ・演劇集団円が、近松門左衛門の浄瑠璃台本「出世景清」を原典とした舞台「景清（フジノサツコ）脚本、森新太郎演出」を上演した。代表の橋爪功が主演。景清（橋爪）と娘（高橋理恵子）以外は、俳優が人形を使っている。17、27日、東京の吉祥寺シアター
- ・原発事故で故郷を追われた人々の気持ちを描いたトム・プロジェクトプロデュースの「挽歌」（古川健脚本 日澤雄介演出）が安田成美主演で上演された。18日、長野県・茅野市民館マルチホール 21日、北海道・だて歴史の杜カルチャーセンター大ホール 23日、北海道・土別市民文化センター 24日、北海道河東郡 音更町文化センター 27日、群馬県前橋市・大胡シヤンテ 30、12月4日、東京芸術劇場シアターイースト 12月5日、山梨県・笛吹市スコレイセンター 6日、山梨・甲斐市双葉ふれあい文化館 8日、東京江東区・亀戸文化センター メリアホール 10日、千葉・佐倉市民音楽ホール 11日、千葉・袖ヶ浦市民会館 12日、埼玉・サンシティ越谷市民ホール 13日、神奈川・藤沢市の湘南文化センター市民シアター 15日、石川・こまつ芸術劇場うらら大ホール 17日、福井・越前市のいまだ

て芸術館 18日、岐阜・下呂交流会館 アクティブ泉ホール 19日、長野・上伊那郡の中川文化センター 20日、神奈川・相模原の杜のホールはしもと

- ・改憲を巡る家族のドタバタ劇。劇団チャリティ企画「ジャパコン」（植原拓脚本・演出）が上演された。劇の題の「ジャパコン」は新憲法制定を掲げる運動団体「日本会議」からとった。30、12月4日、座・高円寺1
- ・日本演出者協会主催の演出家・俳優養成セミナー「演劇大学が初めて山形市民会館を会場に18、20日開かれた。講師は小林七緒、平塚直隆、横山拓也、後藤ひろひと、流山児祥、清水きよし、宮田慶子、鹿目由紀。
- ・劇団燐光群が新作「天使も嘘をつく」（坂手洋二作・演出）を上演した。自衛隊配備計画で大揺れの島でドキュメンタリー映画を撮る監督（竹下景子）と住民たちの奮闘を描いた。18、27日、東京の座・高円寺1 29日、岡山市民文化ホール 12月1、2日、愛知・熱田文化小劇場 4、5日、三重・津市芸濃総合文化センター
- ・台湾を代表する大劇団、奇巧胡劇団が、奇巧胡・撒仔劇場作品「鞍馬天狗」（劉建福脚本）を上演した。台湾伝統戯曲の歌仔戯に、豫劇、日本のレビュ、ポップ・ロック音楽、殺陣とモダンダンスなどを取り入れた色彩豊かな舞台。18、19日、台湾高雄市の大東文化芸術センター

- ・19日、逗子を拠点に活動するアマチュア劇団「子どもミュージカルシアター」が創立20年の節目を迎え、「子どもをうたった劇団名を変更し、劇団の旗揚げ公演の演目だった少女少女の冒険ストーリー」「友達たんでい」の続編を上演した。成田民子代表が脚本・作詞・作曲を手掛けた。横須賀芸術劇場
- ・21日、宝塚歌劇団は、雪組トップスターの早霧せいなとトップ娘役の咲妃みゆが2017年7月、退団すると発表した。2人は7月23日の東京宝塚劇場公演「幕末太陽傳」(Dramatic Song)の千秋楽をもって退団する。
- ・日本演出者協会主催の国際演劇交流セミナー2016⑥イギリス特集は英国オールド・ヴィイック劇場エデュケーション部門ディレクターによる「社会の課題に向き合う演劇ワークショップ」として開催された。21、27日、東京芸術劇場 29、12月1日、穂の国とよはし芸術劇場PLAT
- ・23日、11回目となる九州演劇人サミットが大部分のホールホール大部分を会場にして開催された。九州各地域の状況、高校演劇の活躍、公共劇場のこれから、九州地域演劇のこれからなどをテーマに語り合った。
- ・加藤健一事務所が仏の新進気鋭の劇作家フロリアン・ゼレルの Comedy「誰も喋ってはならぬ！」(中村まり子訳 堤泰之演出)を日本初演した。加

藤健一、渡辺徹、天宮良、島田歌穂らが出演。23〜12月7日、東京・本多劇場・ストアハウスコレクションNo. 8 日韓演劇週間Vol. 4 見えざるコミュニティをめぐる―が上野ストアハウスで開催された。23〜27日、韓国・創作集団Choc. 14月26日「日本・遊戯空間」たつたいま八月の冥王星でたつたいま八月の地球では(改訂版)30〜12月4日、韓国・Dreamplay 21「検閲」彼らの言葉―日本・中津留章仁Lovers『水無月の云々』

・24日、世田谷パブリックシアターは、同シアターの小劇場「シアタートラム」で上演中の舞台「キネマと恋人」に出演中の妻夫木聡や緒川たまきら複数の出演者がインフルエンザにかかったため、同日から26日の4公演を中止すると発表した。

・20世紀のフランスの詩人、小説家、劇作家、として活躍したジャン・コクトーの一人芝居「声」をモチーフに、芥川賞作家の平野啓一郎が初めて戯曲を書き、舞台設定を太平洋戦争前後の東京に置き換えた新しい作品として生まれ変わらせた。寺島しのぶ主演。バイオリニストの庄司紗矢香が節付・演奏。現代美術作家の杉本博司構成・演出・美術。25〜27日、東京・草月ホール

・シェイクスピアの没後400年。東京・初台の国立劇場(中劇場)は通

し上演では6時間以上の超大作「ヘンリー四世」(小田島雄志翻訳 鶴山仁演出)を2部構成で上演した。ハル王子を演じた浦井健治。放蕩の表現に苦労した。26〜12月22日

・歌舞伎俳優の中村耆太郎が日本語、インドネシア語、英語が飛び交う異色の現代劇「三代目、りちやあど」に初主演した。野田秀樹が「リチャード三世」を題材に新たな作品にした。大蔵流狂言方の茂山童司が検事役で出演。シンガポールの舞台演出家オン・ケンセンの演出。26〜12月4日、東京・池袋の東京芸術劇場シアターウエスト 8日、熊本県立劇場 11日、吹田市文化会館メイシアター 14日、高知県立美術館ホール 17日、福岡・東市民センター なみきホール

・創立70周年を迎えた横浜のアマチュア劇団「劇団葡萄座」が記念公演として小山祐土作の「泰山木の木の下で」(山本伸二演出)を上演した。26、27日、横浜市区の区民文化センターシアトルフォンテ

・生身の芝居を志向する若者が激減したという危機感に駆られた泉谷渉が、32年前に生まれた「劇団横濱」にようくりあいの再出演を期して記念として映画「横濱の空の下」を脚本・監督し上映会を行った。「若い人が涙するような作品を」と力を入れた。映画にはヨコハマのミュージシャン、ミッキー吉野も本人役で出演。26、27日、横浜人形

の家「あかくつ劇場」

・26日、既存の芸能分野や流派を超えて新たな舞台芸術を創作する京都芸術センター。「創生劇場」の一環として「やわらかなぐら」(いしいしんじ脚本 杉原邦生演出)を上演した。狂言師の茂山良輔、舞踏家の岩下徹、「大駱駝艦」の舞踏手、公募で参加の子供らが共演。京都・ロームシアター京都サウスホール

・26日、世田谷パブリックシアターは、一部公演を中止していた舞台「キネマと恋人」を、インフルエンザにかかっていた出演者が回復したため、28日から再開すると発表した。

・東西多くの落語家が名乗る亭号「桂」の始祖で、寄席興行の祖とされる落桂文治の没後200年を記念する落語会が大阪の太融寺本坊(27日)と坐摩神社会館(28日)で開かれた。

・和泉流狂言師の小笠原匡が、日本とイタリアの国交百五十年を記念し主宰公演「延年の會第参回」で、狂言とイタリアの仮面劇「コンメディア・デッラルテ」の競演を披露した。27日、大阪能楽会館 12月4日、東京・宝生能楽堂

・27日、2017年2月の「猿若祭二月大歌舞伎」の中の演目「門出二人桃太郎」で初舞台を踏む中村勘九郎の長男の七緒八(一)と次男の哲之(三)の兄弟が、公演成功を祈願して東京・浅草の浅草寺でお練りを行った。七緒八は三

代目中村勘太郎、哲之は二代目中村長三郎を名乗り初舞台を踏む。

・原発事故で故郷を追われた人々の気持ちを描いたトム・プロジェクトプロデュースの「挽歌」(古川健嗣 日澤雄介演出)が安田成美主演で上演された。30〜12月4日

・恒例の京都の顔見世は南座が耐震改修工事のため、初めて先斗町の歌舞練場に場を移し、珍しい3部制興行となった。五代目中村雀右衛門の襲名披露公演。片岡愛之助は第一部「実盛物語」で、斎藤実盛に初役で挑んだ。30〜12月25日

・30日、俳優の別所哲也、松下奈緒と菅田将暉が第45回ベストドレッシングを受賞した。

十二月

・中村吉右衛門が主演し、民放地上波に残る最後の本格時代劇とされた作家池波正太郎の人氣小説「鬼平犯科帳」が2、3日放送のスペシャル番組で28年の歴史に幕を下ろした。原作の連載開始から50年となる2017年、時代劇に代わるアニメ番組が登場する。

・開場50周年を迎えた国立劇場は「仮名手本忠臣蔵」を文楽は10時間を超える通し上演。歌舞伎は第3部八段目から最後の十一段目までを上演した。上演に先立ち赤穂浪士四十七人が眠る東京・泉岳寺を、大星由良之助を

演じる歌舞伎の中村梅玉、人形を遣う吉田玉男が、内蔵助や主君の浅野内匠頭の墓前で公演の成功を祈願した。文楽公演・3月19日、小劇場 歌舞伎公演・2月26日、大劇場

・「民芸運動」の創始者で、思想家柳宗悦の日本統治下での朝鮮半島の人との交流と葛藤を描いた劇団民藝公演「S O E T S U 韓くにの白き太陽」(長田育恵作 丹野郁弓演出)が上演された。宗悦を篠田三郎が客演、宿屋の女将を日色ともるが演じた。3月18日、東京・日本橋の三越劇場

・3日、映画、テレビ、舞台で活躍する俳優伊原剛志が、落語家の桂雀々師匠の下で本格的な稽古を積み国立演芸場の桂雀々独演会「雀々の逸品」で、高座デビューを果たした。

・5日、沙翁没後400年記念シンポジウム「歴史劇の現場から―新国立劇場「ヘンリー四世」の上演を巡って」が開かれた。講師・「ヘンリー四世」に出演の俳優下総源太朗ら。司会は東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授の谷岡健彦。同大大岡山キャンパス西5号館レクチャーシアター

・「国際劇場産業展」がテーマパークEXPO(PARX)実行委員会と一般社団法人日本劇場技術者連盟の主催で6月8日の3日間東京ビッグサイト西4ホールで開かれた。

・7日、5月に亡くなった蛭川幸雄が総合演出する予定だった、60歳以上の

公募出演者による1日限りの大群集劇「1万人のゴールド・シアター2016」がさいたま市内で上演された。九州、東北、遠くは米国の60歳から91歳までの約1600人が集い、ノゾエ征爾の脚本・演出で「金色交響曲」わたしのゆめ、きみのゆめ」を上演した。さいたまスーパーアリーナ

・浅利慶太プロデュース公演としてジャン・アヌイの「アンチゴヌ」(諏訪正訳、浅利演出)が11年ぶりに上演された。7月11日、東京・浜松町の自由劇場

・8日、歌舞伎俳優の松本幸四郎、市川染五郎、松本金太郎が、都内で記者会見し、2018年1月にそれぞれ二代目松本白鶴、十代目幸四郎、八代目染五郎を同時に襲名し、1、2月の東京・歌舞伎座を皮切りに全国で披露興行を行うと発表した。

・日本演出者協会による演出家・俳優養成セミナー「演劇大学inきたかみ」が、9月11日の3日間岩手県北上市の北上市文化交流センターさくらホールで開かれた。講師は加藤ちか、佐野パビ市、田畑真希、平塚直隆、宮田慶子、吉村ゆう、和田喜夫。

・関東学院大学の学生が英語の原文で「シェイクスピアの「アンベスト」」を演じる公演が9、10の両日、横浜市中区の県民共済ホールで行われた。70年近くにわたり続いている同大の伝統行事・演出家の岩井秀人が、自らが経験し

たことを劇にした「ワレワレのモロモロ 東京編」を岩井主宰の劇団「ハイバイ」で上演した。10月23日、東京・東五反田のアトリエヘリコプター

・シェイクスピアの男女の恋愛劇を少女たちの恋に置き換えた「ロミオとジュリエット」が上演された。演劇団体「マームとジブシー」主宰の藤田貴大が新解釈で上演台本と演出を担った。10月21日、東京芸術劇場プレイハウス

・劇団四季は文豪ビクトル・ユゴーの代表作を原作にした四季版「デイズニームュージカル」(ノートルダム)の鐘「スコット・シュワルツ演出」を上演した。大聖堂の鐘突き男カジモド役は海宝直人、飯田達郎、田中彰孝のトリプルキャスト。11日から、東京・浜松町の四季劇場「秋」で開幕。

・11日、狂言に民族楽器を取り入れた「古典の心柱 大和座狂言ガラ公演」が大阪市北区の大阪能楽会館で開かれた。

・12日、日本最大の客船「飛鳥II」(5万142トン)を運航する郵船クルーズは、2017年4月に予定している「TAKARAZUKA ON ASUKA II」に11月に宝塚歌劇団を退団した元星組男役トップスター北翔海莉ら卒業生6人が出演すると発表した。・13日、上方歌舞伎の名跡、市川右團次を2017年1月に三代目として襲名する市川右近と市川右近を二代目として名乗り、初舞台を踏む長男の武田タケルが、東京・丸の内でのお練り

を行った。

・藤沢から芸能文化を発信しようと旗揚げした「遊行かぶき」が20周年を迎え「小栗判官と照手姫」(劇団「遊行舎」)主宰の白石征が脚本・演出)を記念公演した。16月18日、藤沢市湘南台文化センター

・ブリュッセルで生まれ育った移民の若者がシリアに渡り、イスラム過激派の戦に加わる物語をユーモラスに描いた舞台「ジハード(聖戦)」の日本語訳リーディング公演が、17月18日の両日、東京・池袋の東京芸術劇場アトリエウエストで行われた。作者はブリュッセルの演出家で、モロッコ系移民二世のイスマエル・サイディ。非政府組織(NGO)国際演劇協会日本センターが「紛争地域から生まれた演劇」シリーズの一環として上演。

・17日、淡路人形座(兵庫県南あわじ市)が怪談「播州皿屋舗」の人形浄瑠璃を約80年ぶりに復活させた。現存する資料が少なく、動画も残っていないかったため、人形の振付や曲は研究者の協力を得て、改めて作り直した。「早替」の見せ場も再現した。

・17日、俳優、沢竜二主催の「澤竜の全国若手座長大会」が東京・浅草公会堂で催された。

・今春、演出家の白井晃が芸術監督に就任したK A A T 神奈川芸術劇場が、若手演出家に焦点を当てプロデュースする第1弾。廃墟の町を舞台

にした演劇「ルーツ」(松井周脚本、杉原邦生演出・美術)が上演された。17日、大スタジオ

・17日、文豪夏目漱石が熊本で過ごした日々を描いた舞台「アキラブくまもと漱石の四年三月」が上演された。浜畑賢吉が作・演出、漱石役で主演した。熊本地震復興祈念の公演。東京の新宿区立四谷区民ホール

・17日、国立劇場は、12月文楽公演「仮名手本忠臣蔵」(19日まで)の第1部に出演している人間国宝の三味線奏者、鶴澤寛治(88)が体調不良のため休演したと発表した。17日、18日は孫の鶴沢

寛太郎が代演した。19日の千秋楽に復帰した。

・日本国憲法を人間に見立て、笑いとともに20年。その大切さを一人芝居で語り続ける芸人・松元ヒロ。その一人芝居「憲法くん」が絵本になった。「多くの人の憲法を知ってほしい」「憲法くんの魂の広がりを感じている」。

・19日、二十六世観世宗家の観世清和が都内で記者会見。「二十五世観世左近記念 観世能楽堂」が2017年春に東京・銀座に開場すると発表した。「能楽の敷居を低くし、若い方にも気軽に足を運んで頂きたい」と話した。

・19日、「核なき平和な世界」への願いを共有する俳優の吉永小百合と音楽家の坂本龍一らがチャリティーコンサート「平和のために」詩と音楽と花とを開いた。大阪・フェスティバルホール

・人形浄瑠璃文楽の人形遣い二代目吉田玉男をはじめ、総勢14人の演じ手が客船飛鳥IIに乗船して洋上公演をおこなった。上演演目は、日高川入相花王渡し場の段 ひらかな盛衰記 逆櫓の段 講座、写真展示。20日、横浜

・20日、富山の劇団文芸座が世界初の、南極での演劇公演「結婚の申し込

み」(チェーホフ原作・伊賀山昌三翻案・小泉博演出)を行った。

・21日、日本演出者協会は第一回演出者の集い2016を開催した。20代から90代の三世代の演出者が集まり、日本演劇の過去、現在、未来について語り合った。東京・座・高円寺2

・27日、大阪・新世界の通天閣で、今年の「申」から来年の「酉」へとバトンタッチする年末恒例の「干支の引継ぎ式」が行われた。1月に松竹座で襲名披露を控える歌舞伎俳優の八代目村芝翫と橋之助、福之助、歌之助の息子3人も特別に参加した。

平成二十八年 雑誌掲載戯曲

2016年1月〜12月

演劇雑誌「悲劇喜劇」早川書房刊

・「再びこの地を踏まず」 異説・野口英世物語 作||マキノノゾミ(文学座公演上演戯曲)

1月号掲載

・「春疾風」 作||川崎照代(文学座公演上演台本)

・極限に向き合う男1 井上芳雄による「夜と霧」苦しみの果て、それでも人生に然りと云う 原作||ヴィクトール・E・フランクフル 翻訳||池田香代子(りゅーとびあ発刊リーディング企画上演台本)

3月号掲載

・「8月の家族たち」 作||トレイシー・レット 翻訳||目黒条上演台本・演出||ケラリーノ・サンドロヴィッチ(Bunkamura/キューブ公演上演台本)

・「埒もなく汚れなく」 作・演出||瀬戸山美咲(オフィスコトナープロデュース公演上演台本)

・「あわれ彼女は娼婦」 作||ジョン・フォード 翻訳||小田島雄志(新国立劇場上演台本)

・「ビニールの城」 作||唐十郎 演出||

7月号掲載

・金守珍 監修||蜷川幸雄(Bunkamuraシアターコクーン公演上演台本)

・「遊俠香掛時次郎」 作||北村想演出||寺十吾シス・カンパニー公演日本文学シアターVol. 3 【長谷川伸】上演台本

・「ゴドーを待ちながら」 作||サミュエル・ベケット 翻訳・演出||河合祥一郎(Kawai Project vol. 3 こまばアゴラ劇場主催公演上演台本)

・「鯉々」 作||李康白 翻訳||石川樹

9月号掲載

里 演出||栗山民也(ホリプロ上演台本)

11月号掲載

演劇雑誌「テアトロ」カモミール社刊

・「ラ・チュンガ」 作||マリオ・バルガス・リョサ訳||田尻陽一(ラテンアメリカの演劇―ベルー①)

・「オークルチャボット」 作||坂口瑞穂(黒テント上演台本)

1月号掲載

・「そぞろの民」 作||中津留章仁(トラッシュマスターズ上演台本)

2月号掲載

- ・「タルタロスの契り」 作〓竹内一郎
(劇団俳小 上演台本)
- ・「森でおはなしげき」 作〓阿藤智恵(えんげき)の自由時間公演上演台本
- ・「磐」 作〓東憲司(トム・プロジェクト)上演台本
- ・「遊んで、お父さん」 作〓くるみざわしん(テアトロ新人戯曲賞最終候補作)
- ・「咲笑、時の泡」―おお海よ、波立つ蒼い歳月― 作〓響リュウ(萬國四季協會上演台本)
- ・「観客」作〓ガルシア・ロルカ 翻訳・脚色〓田尻陽一(劇団クセック A C T 上演台本)
- ・現代スペイン戯曲⑩「アラバールからの『愛の手紙』」 作〓フェルナンド・アラバール 訳・構成〓田尻陽一(『愛の手紙―中国風殉教』、建築家とアッシリア皇帝)より
- ・「オールライト」 作〓瀬戸山美咲(秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場上演台本)
- ・「奇妙なり」 岡本一平とかの子の数奇な航海 作〓竹内一郎(オフィスワンダーランド上演台本)
- ・「流水の夫妻」 作〓池神泰三(第27 7月号掲載)

- ・「静かな海へ」 作〓ふたぐちつよし(トムプロジェクト)上演台本
- ・「現代スペイン戯曲④掌編戯曲集」
- ・「ノミのキンタマ集」 作〓ホセ・モレノ・アレナス 訳〓田尻陽一
- ・「劇場」原作〓サマセット・モーム 訳・脚本・演出〓池田政之(N L T / 劇団ま)提携上演台本
- ・「猿川方程式の誤算あるいは死亡グラフの正しい折り方」 作〓はせひろいち(劇団シヤブシヤブサーキット上演台本)
- ・「狙撃兵」―デッド・メタファー― 作〓ジョージ・F・ウォーカー 訳〓吉原豊司(俳優座上演台本)
- ・「虎よ、虎よ」くゝと蛇と呼ばれた父と子の下廻上〓 作〓福田善之(Pカンパニー上演台本)
- ・「虎よ、虎よ」くゝと蛇と呼ばれた父と子の下廻上〓 作〓福田善之(Pカンパニー上演台本)
- ・「静かな海へ」 作〓ふたぐちつよし(トムプロジェクト)上演台本
- ・「現代スペイン戯曲④掌編戯曲集」
- ・「ノミのキンタマ集」 作〓ホセ・モレノ・アレナス 訳〓田尻陽一
- ・「劇場」原作〓サマセット・モーム 訳・脚本・演出〓池田政之(N L T / 劇団ま)提携上演台本
- ・「猿川方程式の誤算あるいは死亡グラフの正しい折り方」 作〓はせひろいち(劇団シヤブシヤブサーキット上演台本)

優秀新人戯曲集 2017

- ・「ものみ」 作〓守田慎之介
- ・「プラヌラ」 作〓高石紗和子
- ・「触れただけ」 作〓南出謙吾
- ・「カミと菊弱」 作〓長谷川源太
- ・「The Last Supper」

作〓太田衣緒

- ・「さよならニッポン」 作〓安部いさむ・「さんげ」 原爆歌人正田篠枝の手記「耳鳴り」より 原作〓正田篠枝 構成・脚色〓須崎幸彦
- ・「鬼いさんといっしょ」 作〓豊嶋了子
- ・「丸高演劇部」
- ・「ホンネ イエバネ」 作〓引場道太
- ・「プナの花道」―人民の中へ― 作〓大嶋昭彦
- ・「風のすきまの始まりの月」 作〓鶴見充展
- ・「無邪気」 作〓酒井将平
- ・「台風一家」 作〓渚太陽
- ・「幕が上がるない」 作〓伊東高校演劇部 加藤剛史
- ・「常呂から(TOKOROCURI er)」 作〓北見北斗(高校演劇部新井繁)
- ・「八月の青い蝶」…周防柳作〓(集英社刊「八月の青い蝶」)
- ・「Is(あいす)」 作〓岐阜農林高校

演劇部

- ・「その時を」 作〓清水高校演劇部
- ・「ボクの宿題」 作〓いよどみ☆こせいの佐賀東高校演劇部
- ・「解体されゆくアントニン・レーモンド建築 旧体育館の話」 作〓オノマリコ
- ・「2016」 作〓よしだあきひろ
- ・「扉はひらく」 作〓出口耕士朗・藤井良平
- ・「双眼鏡」 作〓河野豊仁
- ・「最貧前線」宮崎駿の雑想ノートより 脚色〓阿部哲也
- ・「ぼくらの教室」 作〓上田美和
- ・「イノシカ伝」 作〓上山実
- ・「真夏のジェッツ」 作〓柳本博
- ・「震える風」 作〓田村和也
- ・「Takashi」 作〓亀尾佳宏
- ・「たゆたう」 作〓南陽子
- ・「嘘をつく人」 作〓湊由有香

平成二十八年 演劇関係新刊書

平成28年(2016年)1月～12月の間に刊行された主な演劇関係新刊図書・演劇論・演劇評論・随筆・芸談・戯曲集・を収録した。
※書名・著者・編集者名・税込価格・出版社名の順に記載

『1月』 『演出家の誕生 演劇の近代とその変遷 (フィギュール彩)』 川島健 1944円 彩流社 『コルテス戯曲選3 黒人と犬どもの闘争/フロログ』 ベルナル・マリア・コルテス 2160円 れんが書房新社 『川上音二郎と貞奴2 世界を巡演する』 井上理恵 3024円 社会評論社 『近世琉球の王府芸能と唐・大和』 板谷徹 10692円 岩田書院 『道化と笏杖 (高山宏セレクション《異貌の人文学》)』 ウイリアム・ウィルフォード 6912円 白水社 『ユークリッドと彼の現代のライバルたち』 ルイス・キヤロル 3132円 日本評論社 『ジャワの芸能ワヤン その物語世界』 福岡まどか 3240円 スタイルノート 『ステージスクエアエクストラ 舞台&TV情報マガジン16 堂本光一『Endless SHOCK』/removable STAGE2015』 2016 (HINODE MOOK) 900円 日之出出版	『書く女』 永井愛 1620円 而立書房 『中国鎮魂演劇研究』 田仲一成 32400円 東京大学出版会 『歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌55 特集1 歌舞伎の戦後七十年 下』 歌舞伎学会(編集) 2516円 歌舞伎学会 『かぶき手帖 最新歌舞伎俳優名鑑2016年版 特集 女方の魅力』 日本俳優協会(編集) 1601円 日本俳優協会 『猿之助、比叡山に千日回峰行者を訪ねる』 市川猿之助 1620円 春秋社 『タカラヅカスペシャル2015 New Century Next Dream (タカラヅカMOOK)』 1000円 宝塚クリエイティブアーツ 『リインカーネーションリバイバル』 西田大輔 1944円 論創社 『北村透谷 解説と論究』 佐藤善也 3780円 三弥井書店 『作詩法の基本とイタリア・オペラの台本より正しく理解するために』 エルマン・アリエンティ 2160円 東京藝術大学出版会 『spoon. 2D Actors v	01.03 (KADOKAWA MOOK) 1500円 プレビジョン 『舞台男子 Stage Actors' Special Interview & Photos』 おーちようこ 1944円 一迅社 『2D★STAR Vol. 3』 2D☆STAR編集部(編) 1500円 主婦と生活社 『エンタテイナーの条件 カバーA』 堂本光一 2592円 日経B.P.社 『エンタテイナーの条件 カバーB』 堂本光一 2592円 日経B.P.社 『ミュージカル映画事典』 重木昭信 18360円 平凡社 『交差する歌舞伎と新劇 (近代日本演劇の記憶と文化)』 神山彰(編) 4860円 森話社 『関西小劇場30年の熱闘 演劇は何のためにあるのか』 九鬼葉子 3240円 晩成書房 『セゾン文化財団の挑戦 誕生から堤清二の死まで』 片山正夫 2376円 書籍工房早山 『STAGE navivol. 06 (2016) (NIKKOMOOK T
--	--	---

Vnaviプラス」 1000円
 産経新聞出版
 『ステージスクエアvol.19 滝沢
 秀明×三宅健/滝沢歌舞伎2016』
 /堂本光『Endless SHOW
 K』(HINODE MOOK) 9
 00円 日之出出版
 『太陽』 前川知大 1728円 K
 ADO KAWA
 『芸術の授業 BEHIND CRE
 ATIVITY』 中村寛(編) 248
 4円 弘文堂
 『東海道四谷怪談 非情で残忍で、切
 なく悲しい物語 (ストーリーで楽し
 む日本の古典』 金原瑞人 1620
 円 岩崎書店
 『想像力の時制(文化研究)』 レイモ
 ンド・ウィリアムズ 7020円
 みすず書房
 『近大はマグロだけじゃない! AI
 ternative KINDAI』
 西堂行人(編) 1728円 論創社
 『本の町ライプツヒヒとゲーテ
 イツ市民文学の揺籃期を探る』 長谷
 川弘子 3024円 晃洋書房
 『映画の胎動 一九一〇年代の比較映
 画史』 小川佐和子 7344円 人
 文書院
 『変貌する時代のなかの歌舞伎 幕
 末・明治期歌舞伎史』 日置貴之 7
 020円 笠間書院
 『明治、このフシギな時代! (新興社
 選書)』 矢内賢二(編) 1620円

新興社
 『日本映画の大衆的想像力(幕末)と
 『股旅』の相関史』 羽鳥隆英 388
 8円 雄山閣
 『危機と劇場』 内田洋一 2160
 円 晩成書房
 『Sparkle vol. 25(201
 6) 特集玉城裕規×植田圭輔×松田
 凌/宮崎秋人/村井良大/矢崎広/安
 西慎太郎×鈴木拡樹/良知真次×平
 野良(メディアボーイMOOK)』
 1700円 メディアボーイ
 『天才と名人 中村勘三郎と坂東三津
 五郎 (文春新書)』 長谷部浩 89
 6円 文藝春秋
 『図でわかる! レミイに教えた美
 い日本 (SAKURA MOOK
 いるおなひみつを暴いてみようシリ
 ズ)』 お兄ちゃん和妹 961円
 笠倉出版社
 『猿の眼 僕ノ愛スル器たち』 市川猿
 之助 2160円 淡交社
 『内子座 地域を支える町の劇場の1
 00年』 『内子座』編集委員会(編著)
 2484円 学芸出版社
 『絵解きと伝承そして文学 林雅彦教
 授古稀・退職記念論文集』 林雅彦
 (編) 12960円 方丈堂出版
 『東北シエクスピア脚本集 第1巻
 新口ミオとジュリエット/松島湾の夏
 の夜の夢』 シェイクスピア(原著)
 2160円 ココ出版
 『白井鐵造と宝塚歌劇「レビュー」の王

様』の人と作品 田畑きよ子 302
 4円 青弓社
 『時代劇役者音はなし (ちくま文庫)』
 能村庸一 1026円 筑摩書房
 『ラウレターズ』 文藝春秋(編) 14
 58円 文藝春秋
 『3月』
 『国際演劇交流セミナー2014』
 日本演出者協会国際部(編集) 12
 96円 日本演出者協会国際部
 『能面を科学する 世界の仮面と演劇』
 神戸女子大学古典芸能研究センタ
 (編) 4536円 勉誠出版
 『轟音の残響』から 震災・原発と演
 劇 国際演劇評論家協会日本セン
 ター(編集) 3024円 晩成書房
 『アメリカ演劇27 21世紀アメリカ演
 劇特集』 日本アメリカ演劇学会(編)
 1620円 日本アメリカ演劇学会
 『おもしろければOKか? 現代演劇
 者 増補版 (五柳叢書)』 三浦基
 2376円 五柳書院
 『グッドバイ』 ケラリーノ・サンドロ
 ヴィッチ 2160円 白水社
 『アルト―後期集成2』 アントナ
 シ・アルト― 5400円 河出書
 房新社
 『最新中学校創作脚本集2016
 (最新中学校創作脚本集)』 最新中学
 校創作脚本集2016編集委員会
 (編) 1296円 晩成書房
 『STAGE PASH! 2. 5次元

エンタテインメントマガジンvol.
 07 舞台/刀剣乱舞大特集! /黒子の
 バスケ/ダイヤのA/FAIRY T
 AIL/曇天に笑う/ノラガミ/美男
 高校地球防衛部LOVE! 活劇!
 (生活シリーズ) PASH! 編集部
 (編) 1620円 主婦と生活社
 『近代歌舞伎年表 名古屋篇第10巻 大
 正六年~大正七年』 日本芸術文化振
 興会国立劇場調査養成部調査記録課近
 代歌舞伎年表編集室(編) 20520
 円 八木書店古書出版部
 『戦争・詩的想像力・倫理 アイルラ
 ンド内戦、核戦争、北アイルランド紛
 争、イラク戦争 (青山学院大学総合
 研究所叢書)』 伊達直之 3780
 円 水声社
 『STAGEnavivol. 07(2
 016) (NIKKO MOOK T
 Vnaviプラス)』 1000円
 産経新聞出版
 『中国のシエクスピア』 瀬戸宏 4
 536円 松本工房
 『中国現代戯曲集第10集 孟冰作品集』
 話劇人社中国現代戯曲集編集委員会
 (編集) 3780円 晩成書房
 『西洋芸術の歴史と理論 芸術の深く
 豊かな意味と力(放送大学教材)』
 青山昌文 3348円 放送大学教
 育振興会
 『歌舞劇ヤクシャガナ 南インドの
 劇空間、綺羅の呪力。』 森尻純夫 2
 592円 而立書房

- 『時代物浮世草子論 江島其磧とその周縁』 宮本祐規子 4320円 笠間書院
- 『大研究歌舞伎と文楽の図鑑』 国土社編集部(編) 4104円 国土社
- 『宝塚ファーストフォトブックVOLUME 1 芹香斗亜 (タカラヅカMOMO)』 1800円 宝塚クリエティブアーツ
- 『波瀾爆笑! 我が人生? (タカラヅカMOMO)』 ますつく(イラス・潤色) 1620円 宝塚クリエティブアーツ
- 『賢者ナーター 五幕の劇詩 (AKIRACHIKAWACOLLECTION)』 ゴットホルト・エフライム・レッシング 2160円 松本工房
- 『家庭内失踪』 岩松了 2160円 ポット出版
- 『中国古典名劇選』 後藤裕也(編訳) 4536円 東方書店
- 『地方創生を演出するまちおこしドラマイベント術 演じて考えるいきいき地域おこしのすめ』 二瓶長記 1296円 夢の友出版
- 『Trickster Age Grade Spring』 高杉真由/村田充/竹内涼真/蒼井翔太/北村諒/舞台『私のホストちゃんTHE FINAL』 激突! 名古屋栄編』 (ロマンアルバム) 1890円 徳間書店
- 『W!VOL. 9 舞台『弱虫ペダル』』
- 『BOYS AND MEN Wsベシヤル (廣済堂ベストムック)』 1998円 廣済堂出版
- 『東北シエイクスピア脚本集 第2巻 新リア王/奥州幕末の破無礼』 シェイクスピア(原著) 2160円 コ出版
- 『東北シエイクスピア脚本集 第3巻 恐山の播磨蘇/縄文のから騒ぎ』 シェイクスピア(原著) 2160円 コ出版
- 『東北シエイクスピア脚本集 第4巻 温泉旅館のお気に召すまま/仙台藩の十二夜』 シェイクスピア(原著) 2160円 コ出版
- 『不滅のミュージカル名曲集 2016 (ミュージカル・サウンド・シリーズ)』 ドレミ楽譜出版社編集部(編著) 2376円 ドレミ楽譜出版社
- 『どうぞのいす コーラス・ミュージカル ピアノ伴奏による上演楽譜』 小森昭宏(作曲・ピアノ/編曲) 2160円 ドレミ楽譜出版社
- 『newbie stage 04 ミュージカル刀剣乱舞/宮崎秋人/小野賢章x安里勇哉/Love Desire/The Snatch!』 ほか (エンターテインムック) 1620円 KADOKAWA
- 『SHAFT Suzuki Hiroki Acting From Thythy 鈴木拓樹PHOTOBOOK』 森崎純子 2808円 ワニブックス
- ス
- 『4月』
- 『演劇コミュニケーション』 蓮行(編著) 2484円 日本文芸出版
- 『パブリック圏としてのイギリス演劇 シエイクスピアの時代の民衆とドラマ』 中村友紀 3240円 春風社
- 『演劇年鑑2016』 日本演劇協会(監修) 3240円 日本演劇協会
- 『戯曲を読む術 戯曲・演劇史論』 林廣親 3996円 笠間書院
- 『シエイクスピアの正体 (新潮文庫)』 河合祥一郎 637円 新潮社
- 『Sparkle VOL. 26 (2016)』 特集鈴木拓樹x荒牧慶彦x廣瀬大介x東啓介/多和田秀弥/加藤和樹/廣瀬智紀/平間壮一/宮崎秋人x松田凌x北村諒 (メディアポイMOMO) 1700円 メディアポイ
- 『ステージスクエア vol. 20 坂本昌行/MURDER for Two/Endless SHOCK/滝沢歌舞伎2016 (HINODE MOOK)』 900円 日之出出版
- 『インドネシア上演芸術の世界 伝統芸術からポピュラーカルチャーまで (大阪大学新世紀レクチャー)』 福岡まどか 2160円 大阪大学出版会
- 『表象10(2016) 対談新たなイメージ研究へ 岡田温司x田中純』
- 特集1 爆発の表象 共同討議石岡良治x北村紗衣x畠山宗明x星野太十橋本一徑 特集2 パフォーマンス論の現在 表象文化論学会(責任編集) 1944円 表象文化論学会
- 『現代俳優教育論 教わらない俳優たち [コミュニケーション・ブックス]』 北村麻菜 1650円 日本地域社会研究所
- 『舞台を観る、読む、語る』 佐久間康夫 3240円 ほんのしろ
- 『オペラ戦後文化論1 肉体の暗き運命1945-1970 (ポイエシス叢書)』 小林康夫 2376円 未來社
- 『スタニスラフスキーへの道 システムの読み方と用語99の謎』 レオニード・アニシモフ 2160円 未知谷
- 『職場体験完全ガイド47 舞台演出家・ラジオパーソナリティ・マジシャン・ダンサー』 3024円 ポプラ社
- 『下り坂をそろそろと下る (講談社現代新書)』 平田オリザ 821円 講談社
- 『宝塚Stage Album 2015年 (タカラヅカMOMO)』 1620円 宝塚クリエティブアーツ
- 『宝塚おとめ2016年度版 (タカラヅカMOMO)』 1620円 宝塚クリエティブアーツ
- 『逸翁自叙伝 阪急創業者・小林二三』

- の回想（講談社学術文庫） 小林一三 1080円 講談社
- 「エリザベトをたどる（ASAHI ORIGINAL）」 朝日新聞出版（編） 1944円 朝日新聞出版
- 「ぼくの好きな先生（谷藤太戯曲集）」 谷藤太 2160円 試験社
- 「戯曲を読む術 戯曲・演劇史論」 林廣親 3996円 笠間書院
- 「もし、シェイクスピアがスター・ウォーズを書いたらジェダイ、帰選せり」 イアン・ドースチャイ 1620円 講談社
- 「イントレランスの祭」 鴻上尚史 2700円 論創社
- 「シェイクスピア全集28 尺には尺を（ちくま文庫）」 シェイクスピア 86円 筑摩書房
- 「深読みシェイクスピア（新潮文庫）」 松岡和子 594円 新潮社
- 「森草世のコラム・クロニクル1979-2009」 森草也 7344円 トランスビュー
- 「大正の築地っ子 新装版（シリーズ大正っ子）」 岸井良衛 2268円 青蛙房
- 「ミュージカルを歌おう 女声2部合唱ピアノ伴奏（ナバイオリン）」 遠藤謙二郎（編曲） 1728円 オンキョウパブリッシュ
- 「spoon. 2D Actors vol. 04（KADOKAWA MOOK）」 1500円 プレビジョン
- 「Sparkie VOL. 26（2016）」 特集鈴木拓樹×荒牧慶彦×廣瀬大介×東啓介/多和田秀弥/加藤和樹/廣瀬智紀/平岡壮一/宮崎秋人×松田凌×北村諒（メディアボーイMOOK） 1700円 メディアボーイ
- 「KEEP AN EYE ON THIS ACTOR Trickster Archives」 北村諒/鈴木拓樹/宮崎秋人/廣瀬智紀/植田圭輔/河原田巧也/村田充（ロマンアルバム） 1944円 徳間書店
- 「感情から書く脚本術 心を奪って釘づけにする物語の書き方」 カール・イグレシアス 2592円 フィルムアート社
- 「見る前に跳んだ（私の履歴書）」 倉本聰 1728円 日本経済新聞
- 「人生を切りひらいた女性たち なりた自分になるう！3 文学・美術・芸能・文化編」 伊藤節（監修） 3564円 教育画劇
- 《5月》
- 「児童・青少年演劇ジャーナル『げき16』 児童・青少年演劇ジャーナル（げき）編集委員会（編） 1296円 児童・青少年演劇ジャーナル（げき）編集委員会
- 「在と不在のパラドックス 日欧の現代演劇論」 平田栄一朗 3240円 三元社
- 「宮城聰の演劇世界 孤独と向き合う力」 塚本知佳 2160円 青弓社
- 「シアターアーツ60 2016春（シアターアーツ）」 国際演劇評論家協会日本センター（編） 1404円 国際演劇評論家協会日本センター
- 「舞台日程 凛として」 伊藤巴子 024円 一葉社
- 「フィクションとは何か ごっこ遊びと芸術」 ケンダル・ウォルトン 912円 名古屋大学出版会
- 「STAGEnavivol. 08（2016）（NKKMOOK T Vnaviプラス）」 1000円 産経新聞出版
- 「あなたは自主規制の名のもとに検閲を内面化しますか」 ARTIST'S GUID（編） 1944円 t orch press
- 「インプロをすべての教室へ学びを革新する即興ゲーム・ガイド」 キャリー・ロブマン 2268円 新曜社
- 「ブレイガイドジャーナルへの道1968-1973 大阪労音1フオークリポーターブレイガイドジャーナル」 村元武 1728円 東方出版
- 「シェイクスピア観劇手帖」 檜振一郎 1296円 英宝社
- 「歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌56 特集「曾我物の成立と展開」 歌舞伎学会（編集） 2516円 歌舞伎学会
- 「ダンススクエア vol. 13 The y武道/Love it tune」 滝沢歌舞伎2016「ジャニーズ銀座2016」（HINODE MOOK） 950円 日之出出版
- 「歌舞伎大向見 大向研究家兼大向実技者による案内書」 中條嘉昭 728円 ブレイン
- 「折口信夫芸能史講義 池田彌三郎ノット戦後篇下」 折口信夫 7020円 慶應義塾大学出版会
- 「宝塚歌劇 柚希礼音論 レオンと9人のトップスターたち」 松島奈巳 1728円 東京堂出版
- 「宝塚ファーストフォトブック vol. 2 珠城りょう（タカラヅカM OOK）」 1800円 宝塚クリエティブアーツ
- 「タカラヅカ・プレシャス・スターメイキングブックタカラヅカ・スカイ・ステージ3（タカラヅカMOOK）」 1620円 宝塚クリエティブアーツ
- 「筒井康隆全戯曲1 12人の浮かれる男」 筒井康隆 3456円 復刊ドットコム
- 「川村毅戯曲集20114-2016」 川村毅 2376円 論創社
- 「地獄谷温泉無明ノ宿」 タニノクロウ 2160円 白水社
- 「Trickster Age 新しいアーティストが生み出す新しいエンタテインメントVOL. 29 高杉真宙」

電星涼／森久保祥太郎／ドラマ「重版出来！」x坂口健太郎／咲坂伊緒／M.S. S Project／舞台「暁のヨナ」(ロマンアルバム)」 994円 徳間書店	「溝口健二・全作品解説12『愛憎峠』・折鶴お千」 佐相勉 3024円 近代文藝社	「キャストサイズVol.15(2016 May)」 黒羽麻璃央／村井良大／廣瀬智紀／植田圭輔／和田琢磨／佐藤流司(三オムツク)」 1700円 三オブックス	「手づくり人形劇ハンドブック子どもといっしょに楽しむ劇表現の世界」 幸田眞希(著者代表) 1296円 萌文書林	「Let's go for it!」 今井雅之 1080円 岩波書店	「月に憑かれた猫」たつむり 塩見哲へのレクイエム」 市原悦子(編著) 2160円 春秋社	「楽譜 ヒーアニストが弾きたい!映画&ミュージカル名曲集(ワンランク上のピアノ・ソロ)」 2160円 デプロMP	「Spoon・2Divoi. 14(KADOKAWA MOOK)」 1280円 プレビジョン	「高倉健インタヴューズ(小学館文庫プレジデントセレクト)」 高倉健(述) 702円 小学館	「6月」	「ロシアの演劇教育」 マイヤ・コバヒゼ 2160円 成文社	「現代演劇」のレッスン 拡がる場、越える表現 (Next Creator Book) 鈴木理映子(編) 1836円 フィルムアート社	「中学校演劇脚本 ふるさと 斉藤俊雄作品集3(シリーズ・七つ森の子どもたち)」 斉藤俊雄 2376円 晩成書房	「ステージスクエアVol.21 森田剛「レニールの城」/丸山隆平「マクベス」(HINODE MOOK)」 900円 日之出出版	「ミュージカル史」 小山内伸 1944円 中央公論新社	「山田美妙集第8巻 韻文/戯曲」 山田美妙 9504円 臨川書店	「宝塚イズム33 巻頭特集「エリザベト」が止まらない!」 薮下哲司(編著) 1728円 青弓社	「客席から見染めたひと」 関谷子 376円 講談社	「義経千本桜 歌舞伎めぐりえ」 岡田嘉夫(画) 1404円 ポプラ社	「バイリンガルで楽しむ歌舞伎図鑑」 君野倫子 2052円 小学館	「日本の伝統&絶景100(絶景100シリーズ)」 朝日新聞出版(編集) 1512円 朝日新聞出版	「限定 大鳥順一郎押限コレクション」 西村寛子(編著) 3240円 Ne York Art	「84 八代目中村芝翫」 中村芝翫 2500円 光文社	「食満南北著「大阪藝談」(神戸女子大学古典芸能研究センター叢書)」 食満南北 3456円 和泉書院	「宝塚を作った男小杉一三の一生 失敗を成功に変える発想術と人生哲学(別冊宝島)」 1296円 宝島社	「ミュージカル「エリザベット」はこうして生まれた オール・インタビューズ」 ミヒヤエル・クンツェ 2990円 日之出出版	「シェイクスピアの作品研究 戯曲と詩、音楽」 熊谷次紘(編著) 3456円 英宝社	「シェイクスピア大図鑑」 スタンリー・ウェルズ(他著) 4536円 三省堂	「荒野より 改版 新装版(中公文庫)」 三島由紀夫 1015円 中央公論新社	「谷崎潤一郎全集第10巻 アエ・マリア 肉塊 無明と愛染」 谷崎潤一郎 7344円 中央公論新社	「海よ、お前は自由だ 加藤建二遺稿集」 加藤建二 1728円 風媒社	「W!VOL.10 鈴木振樹完全SP ECIALL舞台「刀剣乱舞」レボ&「最遊記歌劇伝」再開!!全30P(廣済堂ベストムック)」 1998円 廣済堂出版	「Trickster AGE GUYS	001(ロマンアルバム)」 2160円 徳間書店	「Spoon・2Divoi. 15(KADOKAWA MOOK)」 spoon・2Di(編) 1250円 プレビジョン	「役者ひとすじ続 『無法松の一生』三十七年ぶり再演のすべて」 工藤堅太郎 1728円 風詠社	「大塚明夫の声優塾(星海社新書)」 大塚明夫 907円 星海社	「風流深川唄(新派朗読劇脚本集)」 成瀬芳一(脚本) 1944円 青蛙房	「stamp! act01(エンターブレインムック Star Creator's PLUS)」 1620円 KADOKAWA	「まじゅいる 石渡真修ファースト写真集」 小田原リエ(撮影) 2592円 ワニブックス	「スクリフトドクターの脚本教室中級篇」 三宅隆太 2160円 新書館	「あかんやつら 東映京都撮影所血風録(文春文庫)」 春日太一 1102円 文藝春秋	「時代映画」の誕生 講談・小説・劇から時代劇へ」 岩本憲児 4860円 吉川弘文館	「7月」	「オンデマンドブック」 演劇本質論の整理(青空文庫POD 大活字
--	--	---	---	------------------------------------	--	--	--	---	------	-------------------------------	--	---	---	-----------------------------	----------------------------------	---	---------------------------	------------------------------------	----------------------------------	--	---	-----------------------------	---	--	--	---	---------------------------------------	--	--	------------------------------------	--	---------------------	--------------------------	---	--	---------------------------------	--------------------------------------	--	---	------------------------------------	---	---	------	----------------------------------

[illegible]

リエイティブアーツ 「ニュージェネレーション4 (タカラヅカMOOK)」 1900円 宝塚クリエティブアーツ 「オンデマンドブック」 戯曲二十五篇を読まれた話 (青空文庫PODシニア版) 岸田国士 432円 青空文庫POD[Next Publishing] 「オンデマンドブック」 戯曲二十五篇を読まれた話 (青空文庫PODポケット版) 岸田国士 432円 青空文庫POD[Next Publishing] 「オンデマンドブック」 戯曲二十五篇を読まれた話 (青空文庫POD大活字版) 岸田国士 432円 青空文庫POD[Next Publishing] 「深川の赤い橋 横澤祐一戯曲集」 横澤祐一 3456円 幻戯書房 「Reach 佐藤流司写真集」 Hayato Araki (撮影) 3240円 ワニブックス 「Spoon. 2 Divol. 16 (KADOKAWA MOOK)」 1250円 プレビジョン 「キャストサイズ2016夏の特別号 和田琢磨/廣瀬智紀/佐々木喜英/鈴木弘樹/椎名鯛造/青木玄徳/松田凌 (三オムック)」 1700円 三オムックス 「菊池寛現代通俗小説事典 文壇の大	御所が描いた大正・昭和の物語世界を徹底的に再現」 片山宏行 (監修) 10584円 八木書店古書出版部 「fabulous stage vol. 01 表紙巻頭浦井健治x宮野真守 (シンコー・ミュージック・ムック)」 1620円 シンコー・ミュージック・エンタテイメント 「楽譜 超・簡単ピアノ初心者 映画&ミュージカルベスト60 (これなら弾ける)」 1728円 デプロムP 「楽譜 映画&ミュージカル・サウンド保存版 (CD+楽譜集 ワンランク上のピアノ・ソロ)」 2160円 デプロムP 「『エリザベート』とクンツェ&リーヴァイの世界2016 (HINOD MOOK)」 1500円 日之出版 「シラナイヨ」 山崎育三郎 1944円 ワニブックス 「オンデマンドブック」 子供役者の死 (青空文庫POD 大活字版) 岡本綺堂 432円 青空文庫POD[Next Publishing] 「オンデマンドブック」 子供役者の死 (青空文庫POD ポケット版) 岡本綺堂 432円 青空文庫POD[Next Publishing] 「オンデマンドブック」 子供役者の死 (青空文庫POD シニア版) 岡本綺堂 432円 青空文庫PO	D[Next Publishing] 「佐藤二朗なう (AMGブックス)」 佐藤二朗 1058円 アミューズメントメディア総合学院AMG出版 「全員参加の楽しい児童劇脚本集 子どもも保護者も大満足!」 日本児童劇作の会 (編著) 2981円 明治図書出版 「みうらじゅんと宮藤官九郎の世界全体会議」 みうらじゅん 1296円 集英社 《8月》 「SEVEN・セブン (現代アメリカ演劇叢書)」 ポーラ・シズマー (作) 2160円 而立書房 「武満徹 ある作曲家の肖像」 小野光子 5940円 音楽之友社 「津篤史コレクション」 深津篤史 3240円 松本工房 「歌舞伎一年生 チケットの買い方から観劇心得まで (ちくまフリーマール書)」 中川右介 842円 筑摩書房 「ステージスクエア vol. 22 A. B. C I Z x『ABC座2016株式会社応援屋!! OH&YEAH!!』 (HINODE MOOK)」 900円 日之出出版 「鶴屋南北 かぶきが生んだ無教養の表現主義 (講談社学術文庫)」 郡司正勝 907円 講談社 「茶の湯ブンガク講座 近松・芭蕉か	ら漱石・谷崎まで (淡交新書)」 石塚修 1296円 淡交社 「北 輝のための終りなき戯曲萬古愁魂の国へ」 伊藤正福 (著) 1296円 文芸社 「チエーホフさん、ごめんなさい!」 児島宏子 2160円 未知谷 「ロレンザツチヨ (光文社古典新訳文庫)」 ミュッセ 1253円 光文社 「文楽の男 初世吉田玉男の世界 (淡交新書)」 吉田玉男 1404円 淡交社 「文楽の女 吉田養助の世界 (淡交新書)」 吉田養助 1404円 淡交社 「気鋭のミュージカル俳優たち 上原理生 海宝直人 小西遼生 成河 中川晃教 平方元基 古川雄大」 徳間書店トリックスター編集部 (編) 2376円 徳間書店 「アシアート」 浦井健治 2160円 キネマ旬報社 「ピアノで奏でたいミュージカル名曲選中級〜上級対応 改訂版 (保存版ピアノ・ソロ)」 2376円 シンコー・ミュージック・エンタテイメント 「旅芸人のいた風景 遍歴・流浪・渡世 (河出文庫)」 沖浦和光 799円 河出書房新社 「不死蝶岸田森 (ワイズ出版映画文庫)」 小幡貴一 (編) 1620円 ワイズ出版
--	--	---	---

「待つていても、はじまらない。潔く前に進め」 阿部広太郎 1728円 弘文堂	「お茶をどうぞ 対談 向田邦子と16人」 向田邦子 1728円 河出書房新社	『9月』	『J演劇の場所 トランスナショナルな移動性へ』 内野儀 7344円 東京大学出版会	『現代スペイン演劇選集3』 田尻陽一(監修) 5184円 カモミール社	『現代アイルランド演劇入門』 『現実と喜びのドラマ』 前波清一 2700円 彩流社	『STAGE PASH! 2. 5次元エントナメントマガジンVol. 08 舞台「おそ松さん on STAGE」大特集! / 舞台「刀剣乱舞」/ 黒執事 / 弱虫ペダル / ダイアのA / K / チア男子!! / 青の祓魔師 (生活シリーズ) PASH! 編集部(編) 1700円 主婦と生活社	「サフテキストで書く脚本術 映画の行間には何が潜んでいるのか」 リンダ・シーガー 2376円 フォイルムアート社	『2. 5ステージランブリ 舞台作品&キャストをフィーチャーしたスタイリッシュ・グラビアマガジン!! (主婦の友ヒットシリーズ)』 主婦の	友インフォス情報社(編) 1566円 主婦の友インフォス	『舞台「刀剣乱舞」虚伝燃ゆる本能寺公式ビジュアルストーリーブック』 舞台「刀剣乱舞」製作委員会(監修・協力) 3024円 パルコエンタテインメント事業部	『高平哲郎スラップスティック選集 6・下巻 ぼくのインタヴュー術 応用篇』 高平哲郎 2400円 ヨシモトブックス	『ヨーロッパ企画の本 我々、こういうものです。』 ミシマ社(編) 1728円 ミシマ社	『STAGEnavi vol. 10(2016) (NIKKOMOOK Tnaviプラス)』 1000円 産経新聞出版	『帝国と文化 シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』 江藤秀一(編) 3780円 春風社	『舞台「刀剣乱舞」虚伝燃ゆる本能寺公式パラブック』 舞台「刀剣乱舞」製作委員会(監修・協力) 1512円 パルコエンタテインメント事業部	『ドン・アルバロあるいは運命の力(ロス・クラシコス)』 リバース公爵 2700円 現代企画室	『地下室 草号』 地下室編集部(編集) 702円 アンダースロー	『宝塚OG style キレイの秘密 元タカラジェンヌ80人のプライベート&美の秘訣を公開 (e-MOOK)』	1296円 宝島社	「晴れでも。雨でも!! Asumi R iofotoエッセイ (タカラヅカM OOK)」 明日海りお(著・題字) 2300円 宝塚クリエイティブアーツ	「エリザベート スペシャル・エディ ション20th Anniversary (タカラヅカM OOK)」 2800円 宝塚クリエイティブアーツ	「北翔海莉メモリアルブック (タカラヅカM OOK)」 3000円 宝塚クリエイティブアーツ	「歌舞伎 研究と批評 歌舞伎学会誌 57 特集「国立劇場の半世紀」 歌舞伎学会(編集) 2516円 歌舞伎学会	「昭和の歌舞伎名優列伝 (淡交新書)」 石橋健一郎 1296円 淡交社	「日本戯曲大事典」 大笹吉雄(編) 25920円 白水社	「女鳥 譚詩劇 岡山晴彦戯曲作品集」 岡山晴彦 3780円 ふらんす堂	「天守物語」 泉鏡花 3780円 エディシオン・トレヴィル	「W!VOL. 11 植田圭輔完全SP ECIAL 鈴木拙樹・宮崎秋人・東啓介・舞台「弱虫ペダル」・ポイメンも! (廣済堂ベストムック)」 1998円 廣済堂出版	「夢のお仕事さがし大図鑑 名作マンガで「すき」を見つける5 芸能とスポーツの仕事」 夢のお仕事さがし	大図鑑編集委員会(編) 3240円 日本図書センター	「曾根崎心中 (高齢者向け紙芝居 本の古典)」 近松門左衛門(原作) 2592円 雲母書房	「恋・舞・芝居 俳句とエッセイ」 大堀終花 2160円 本阿弥書店	「ミントラの決定版60選 映画、ドラマ、ミュージカルの名曲中々上級対応 (ピアノ・ソロ)」 2700円 シン・コミュニケーション・エンタテインメント	「stamp! act 02 (エンターテインムック Star creators! PLUS)」 1620円 KADOKAWA	「嵐ちゃん ボクの昭和青春譜」 大村崑 1512円 文藝春秋	『10月』	「演劇は仕事になるのか? 演劇の経済的側面とその未来 改訂新版」 米屋尚子 2700円 アルファベータブックス	「身体から発見する演劇 ジャック・ルコック国際演劇学校1981-1983」 盛加代子 1944円 翔雲社	「起て、飢えたる者よ(インターナショナル)を訳詞した怪優★佐々木孝丸」 砂古口早苗 2376円 現代書館	「ステイジスクエアvol. 23 JOHNNY'S ALL STARS ISLAND (HINODE MOOK)」 900円 日之出出版
--	--	------	---	-------------------------------------	---	--	--	---	------------------------------	--	---	---	---	--	--	--	----------------------------------	---	-----------	---	--	--	---	-------------------------------------	------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------	---	--	----------------------------	---	-----------------------------------	--	---	--------------------------------	-------	---	--	--	--

「アートの教育学 革新型社会を拓く学びの技」 O E C D 教育研究革新センター（編著） 399.6円 明石書店 「蜷川幸雄 世界で闘い続けた演出家（KAWADE夢ムック）」 河出書房新社編集部（編） 140.4円 河出書房新社 「宝塚歌劇に誘う7つの扉」 中本千晶 194.4円 東京堂出版 「藤栗毛文芸集成 影印復刻 第35巻 落断し駈路馬士唄」 中村正明（編集・解題） 216.0円 ゆまに書房 「ゼミナール中国文化 カラー版 芸術編」 劉謙功 321.8円 グローバル科学文化出版 「僕らの歌舞伎 先取り！新・花形世代15人に聞く（淡交新書）」 葛西聖司 151.2円 淡交社 「まんがでわかる歌舞伎の名言名喚阿」 いまいかおる 108.0円 ロングセラーズ 「成田屋の食卓 團十郎が食べてきたもの」 堀越希実子 172.8円 世界文化社 「父帰る・藤十郎の恋 菊池寛戯曲集（岩波文庫）」 菊池寛 79.9円 岩波書店 「宝塚を劇的に楽しめる100+αのお得な知識（三オムック）」 108.0円 三オムックス 「宝塚ファーストフォトブックV O	1. 3 柚香光（タカラヅカMOOK K） 180.0円 宝塚クリエィティブアーツ 「IT'S SHOW TIME! 北翔海莉さよなら写真集（タカラヅカMOOK）」 220.0円 宝塚クリエィティブアーツ 「筒井康隆全戯曲3 スイート・ホームズ探偵」 筒井康隆 345.6円 復刊ドットコム 「ファウスト」 ゲーテ（原作） 194.4円 西村書店 「史上最高に面白いファウスト」 中野和朗 140.4円 文藝春秋 「オルフェウ・ダ・コンセイサオン 三幕のリオデジャネイロ悲劇（創造するラテンアメリカ）」 ヴィニシウス・ヂ・モライス 172.8円 松籟社 「謎と力 エリザベス朝悲劇の成立と変容」 三益隆一 86.4円 英宝社 「南京虫 ガガ版 奇想喜劇」 V. マヤコフスキイ（原作） 216.0円 群像社 「病気を描くシェイクスピア エリザベス朝における医療と生活」 堀田饒 410.4円 ホーム社 「日本文学全集10 能・狂言」 池澤夏樹（個人編集） 378.0円 河出書房新社 「役者人生、泣き笑い」 西田敏行 72.8円 河出書房新社	「甦るシェイクスピア 没後四〇周年記念論集」 日本シェイクスピア協会（編） 410.4円 研究社 「11月」 「メイエルホリドとブレヒトの演劇」 キャサリン・プリンス・イートン 410.4円 玉川大学出版部 「極上文学クロニクル 本格文学朗読演劇」 徳間書店（編） 486.0円 徳間書店 「西村雅彦の俳優入門 1ヵ月で効果が出るセリフのメソッド」 西村雅彦 170.0円 飛鳥新社 「混沌と抗戦 三島由紀夫と日本、そして世界」 井上隆史（編） 540.0円 水声社 「女の足指と電話機（中公文庫）」 虫明亜呂無 108.0円 中央公論新社 「STAGEnavi vol. 11（2016）（NIKKOMOOK T Vnaviプラス）」 100.0円 産経新聞出版 「破戒 ユリ・ゲラーさん、あなたの顔はいかげん忘れてしまいました（CUE COMICS）」 松尾スズキ（原作） 118.8円 イースト・プレス 「2. 5次元Walker 大特集!! ミュージカル『刀剣乱舞』幕末天狼傳」 佐藤流司×鳥越裕貴×小越勇輝（ウォーカームック） 172.8円	KADOKAWA 「別冊Sparkle 特集青柳塁斗植原卓也 桜田通 戸谷公人 平間杜一 松島庄汰 水田航生 渡部秀/小関裕太 松岡廣大（メディアアボイMOOK）」 120.0円 メディアアボイ 「サミュエル・ベケットと批評の遠近法」 井上善幸（編著） 648.0円 未知谷 「Sparkle vol. 28（2016） 特集黒羽麻璃央×北園涼×崎山つばさ/遊馬晃祐/鈴木拡樹/安西慎太郎×松田凌/ミュージカル『刀剣乱舞』幕末天狼傳」 （メディアアボイMOOK） 170.0円 メディアアボイ 「肢のない鳥 松永尚三作品集」 松永尚三 162.0円 文芸社 「銀婚式」 三田寛子 151.2円 中央公論新社 「タカラヅカ 夢の時間紀行」 細川貂々 108.0円 亜紀書房 「Deux Princesses Reika Manaki & Rion Misaki PHOTOBOOK（タカラヅカMOOK）」 220.0円 宝塚クリエィティブアーツ 「Alter ego 早霧せいな写真集（タカラヅカMOOK）」 360.0円 宝塚クリエィティブアーツ 「Movielist 移動主義者という哲学・ライフスタイル ACTIO
--	--	---	---

「N3(2016-2017AUTUMN/WINTER)」 ブラウンズボックス(編集) 1058円 ブラウンズボックス	「山崎正和全戯曲3巻セット」 山崎正和 19440円 河出書房新社	「劇作家秋元松代 荒地にひとり火を燃やす」 山本健一 3672円 岩波書店	「人類最期の日々 普及版 上」 カール・クラウス 5076円 法政大学出版局	「人類最期の日々 普及版 下」 カール・クラウス 4968円 法政大学出版局	「京舞つれづれ」 井上八千代 3240円 岩波書店	「fabulous stage vol.02 表紙巻頭井上芳雄『ナイスガイニューヨーク』大特集!!(シンコー・ミュージック・ムック)」 1620円 シンコーミュージック・エントテイメント	「キャストサイズvol.16(2016Nov) 黒羽麻璃央/和田琢磨/平野良/玉城裕規/植田圭輔/本田礼生(三オムムック)」 1700円 三オムムックス	「直面ヒタメン」 三島由紀夫若き日の恋(文春文庫) 岩下尚史 886円 文藝春秋	「ひと日記 このひとに会いたい」 中西和久 1728円 海鳥社
--	-----------------------------------	---------------------------------------	--	--	---------------------------	---	--	--	---------------------------------

「らぶれたあ オレと中島らもの6945日」 鮫肌文殊 1836円 講談社	「3年でプロになれる脚本術」 尾崎将也 1404円 河出書房新社	「大坂の陣 近代文学名作選」 日高昭二(編) 2700円 岩波書店	「片道の人生」 ジェームス三木 2052円 新日本出版社	「能の本」 村上ナツツ(文) 1620円 西日本出版社	《12月》	「中国白話文学研究 演劇と小説の関わりから」 小松謙 9180円 汲古書院	「二代目 聞き書き中村吉右衛門(朝日文庫)」 吉右衛門(述) 907円 朝日新聞出版	「ステージスクエアvol.24 坂本昌行×長野博×井ノ原快彦『戸惑いの惑星』/堂本光一『Endless SHOCK』(HINODE MOOK)」 950円 日之出出版	「二人の名優 二代目貫川延若と三代目中村梅玉」 山田庄一 1944円 演劇出版社	「あの日たちへ 旭川・劇団『河』と『河原館』の20年」 那須敦志 1620円 中西出版	「ミラクルハッピーお仕事ずかんDX」 ドリームワーク調査会(編著) 1002円 西東社
--------------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-------	---------------------------------------	--	---	--	---	---

「音楽・芸能レファレンスブック」 日外アソシエーツ株式会社(編集) 990円 日外アソシエーツ	「風雪!旅役者水滸伝」 橋本正樹 2484円 現代書館	「歌舞伎の音楽・音」 配川美加 4860円 音楽之友社	「歌舞伎キャラクター!絵図厳選53演目の見方・楽しみ方(コツがわかる本)」 辻村章宏(イラスト・解説) 1642円 メイツ出版	「歌舞伎絵巻ぬりえbook」 鈴木淳子 1512円 ディスカヴァー・トゥエンティワン	「国立劇場・歌舞伎の型」 仮名手本忠臣蔵 国立劇場芸能調査室(編) 1944円 雄山閣	「在りし、在らまほしかりし三島由紀夫」 高橋睦郎 2808円 平凡社	「八代目市川團十郎 気高く咲いた江戸の花」 木村涼 3024円 吉川弘文館	「宝塚イズム34 特集さよなら北翔海莉&妃海風」 薮下哲司(編著) 1728円 青弓社	「宝塚ファーストフォトブックvol.1.4 礼真琴(タカラヅカMOOK)」 1800円 宝塚クリエィティブ・アーツ	「ザ・シェークスピア 全戯曲(全原文+全訳)全一冊 完全新版」 シェークスピア 5400円 第三書館	「優秀新人戯曲集2017」 日本劇作家協会(編集) 1728円 ブロ
---	-----------------------------	-----------------------------	---	--	---	------------------------------------	---------------------------------------	---	---	--	------------------------------------

「庭に一本なつめの金ちゃん」 出久根達郎 2484円 三月書房	「オンデマンドブック」 国語元年」 井上ひさし 1836円 新潮社	「オンデマンドブック」 決められた以外のせりふ」 芥川比呂志 5832円 新潮社	「オンデマンドブック」 当り屋ケンちゃん」 野田秀樹 2160円 新潮社	「オンデマンドブック」 愛慾・その妹」 武者小路実篤 2592円 新潮社	「オンデマンドブック」 世阿彌」 山崎正和 1296円 新潮社	「かぶきわらし」 庄司三智子 1728円 出版ワークス	「憲法くん」 松元ヒロ(作) 1512円 講談社	「ミュージカル鬼童子」 溝江玲子(脚本) 1620円 遊絲社	「役者は下手なほうがいい(NHK出版新書)」 竹中直人 799円 NHK出版	「クロカンの流儀 宮藤官九郎論 名セリフにシビれて」 井上美香 1728円 言槻舎	「オンデマンドブック」 走れメルス」 少女の唇からはダイナマイト!」 野田秀樹 1620円 新潮社
---------------------------------	-----------------------------------	--	--------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------------	--	---	---

平成二十八年演劇関係物故者一覽

▼**ビエール・ブレース氏** 作曲家、指揮者。1月5日、居住するドイツ西部バーデンバーデンで死去、90歳。フランス生まれ。パリ音楽院でメシアンに学び作曲を始めた。1950年代に「主なき槌」で名声を確立した。厳格な音楽理論と緻密な作曲技法に基づく斬新な作風で、現代音楽界を牽引した。70年代、パリに創設したIRCAM(音響・音楽の探究と調整の研究所)の所長に就任。米クリーブランド管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニックなどで要職を歴任した。ベルリン・フィルやウィーン・フィルなど、一流オーケストラへの客演を続けた。67年、バイロイト祝祭劇場初の日本公演のため初来日した。89年世界文化賞、09年京都賞。

▼**岩淵龍太郎氏** 元NHK交響楽団コンサートマスター、京都市立芸術大名誉教授、バイオリニスト。1月5日、呼吸不全のため死去、87歳。東京都出身。初代京都コンサートホール館長、芸術選奨文部大臣賞、毎日芸術賞など受賞多数、勲三等旭日中綬章。

▼**三代目桂春団治氏(本名・河合一)** 落語家。1月9日、心不全のため死去、85歳。大阪市生まれ。父親は二代目春団治。小春、福団治を名乗った後、1959年に大名跡、春団治の三代目を襲名した。衰退していた上方落語を再生し、六代目笑福亭松鶴、三代目桂米朝、五代目桂文枝とともに「四天王」と呼ばれる人気を確立した。「野崎詣り」「いかけや」「代書」などは至芸と言われた。多くの弟子を育て上方落語協会会長も務めた。75年芸術祭優秀賞、78年上方お笑い大賞、98年には紫綬褒章を受章した。

▼**大西信行氏** 劇作家、脚本家、演芸研究者。1月10日、すい臓がんのため死去、87歳。東京都出身。早稲田大学文学部国文学科入学生。大学除籍後、NHK芸能局(1954〜65)に勤務。以後、劇作家、演出家として独立。寄席文化研究家の正岡容の門下生。「水戸黄門」「大岡越前」各シリーズなど数多くの時代劇脚本を手がけた。舞台では、「怪談牡丹灯籠(文学座)・(松竹)」「女殺し油の地獄(手織座)」ありてなければ「民藝」など。著書「正岡容 このふしぎな人」「牡丹灯籠 大西信行第一戯曲集」「落語無頼語録」など多数。日本脚本家連盟理事長、日本演劇協会理事などを務めた。日本演劇協会会員

▼**中沢桂氏** 声楽家、東京音楽大学名誉教授。1月10日、気管支不全のため死去、82歳。満州中国東北部ハルビンで生まれる。ソプラノ歌手で、二期会を中心にオペラで活躍。オペラ「夕鶴」の「つう」役などで知られた。

▼**アラン・リックマン氏** 英国人俳優。1月14日、がんのため死去、69歳。映画「ハリー・ポッター」シリーズの「スネイプ先生」役で人気を博した。「ラスプーチン」(96年)ではエミー賞などを受賞、舞台でも活躍した。

▼**中村梅之助氏(本名・三井鐵男)** 歌舞伎俳優、劇団前進座代表。1月18日、肺炎のため死去、85歳。東京都出身。前進座創立メンバーで名優の三代目中村阮石の長男に生まれ、38年に初舞台。翌年、四代目中村梅之助を名乗った。45年、前進座入座。当たり役は「勸進帳」の弁慶や「魚屋宗五郎」の宗五郎など。テレビドラマにも多数出演。「遠山の金さん」シリーズなどの時代劇では、親しみやすい演技で人気を集めた。08年、前進座を率いた長年の演劇活動で朝日舞台芸術賞特別賞を受賞した。長男は俳優の中村梅壱。

▼**勝喜代氏(本名・竹端満枝)** 京都五花街の芸妓で現役最高齢の踊り手「立方」。1月21日、心不全のため死去、88歳。京都市出身。1945年に京都の花街・上七軒の芸妓となり、「北野をどり」には27年の初回から出演していた。

▼**名越昭司氏** 文楽人形囃師・床山。1月28日、心不全のため死去、85歳。東京都出身。半世紀以上にわたり文楽を裏方から支えた。2002年、国の文化財保存技術保持者に認定された。日本芸術文化振興会技術参与も務めた。

▼**ジャック・リベット氏** フランスの映画監督。1月29日、死去、87歳。フランスの映画運動「ヌーベルバーグ」の担い手として、ゴダールらと共に活躍した。代表作に「美しき静い女」など。

▼**八田昌治氏** 新派俳優。1月31日、大腸がんのため死去、84歳。神奈川県横須賀市出身。1953年、伊井友三郎門下となり、明治座の「晴小袖」で初舞台。師匠の没後、71年には安井昌三門下となり72年に幹部昇進。新派の貴重な脇役として、多くの舞台で活躍した。

▼**宝生閑氏** 能楽ワキ方宝生流十二世宗家。2月1日、食道がんのため死去、81歳。東京都出身。祖父宝生新と父弥一に師事し、41年に「葵上」で初舞

台を踏み、43年に「岩船」で初ワキをつとめた。観世寿夫が率いた「冥の会」の活動に参加、ギリシャ悲劇や不条理劇にも挑んだ。国立能楽堂の後継者養成事業の講師もつとめ、後進の育成にも尽力した。94年に人間国宝に認定。96年紫綬褒章、02年日本芸術院会員、14年文化功労者に選ばれた。

▼石井仁兵衛氏(本名・増井喜彦) 能楽大鼓方石井流十二世宗家。2月1日、肝細胞がんのため死去、80歳。京都市出身。

▼篠原大作氏 俳優、声優。2月1日、死去、82歳。北海道出身。ドラマ「3年B組金八先生」などに出演したほか、報道番組「ニュースステーション」のナレーションを務めた。

▼柳井満氏 ドラマプロデューサー。2月1日、胸部動脈瘤破裂のため死去、80歳。東京都出身。1958年、ラジオ東京(現TBS)入社。脚本家の小山内美江子と二人三脚で「3年B組金八先生」シリーズを手掛けた。長瀬剛が主演した「とんぼ」などもプロデュースした。

▼三川泉氏 能楽シテ方宝生流、人間国宝。2月13日、心不全のため死去、94歳。東京都出身。1929年、7歳で初舞台。39年に「車僧」で初シテを務めた。01年の「蜷捨」で高い評価を受けた。03年に人間国宝に認定された。繊細精妙で品格のある芸風に定評があった。

▼はかま満緒氏(本名・袴充夫) 放送作家。2月16日、心不全のため死去、78歳。東京都出身。慶応大学中退。民放局勤務を経て1959年フリーの放送作家になる。人気テレビ番組「シャボン玉ホリデー」の構成を手がけたほか、ラジオ番組「日曜喫茶室」で長く司会役を務めていた。また、若者が笑いを学ぶ「はかま笑い塾」で萩本欽一や脚本家の市川森一ら多くの有名人を輩出した。01年に放送文化基金賞を受賞。

▼アンジェイ・ズラウスキー氏 ポーランドの映画監督。2月17日、がんのため死去、75歳。アンジェイ・ワイダ監督の助監督を務め、父と共同制作した「夜の第三部分」(71年)で監督デビュー。代表作に「ボゼッション」(81年)や「狂気の愛」(85年)などがある。

▼堀口始氏(本名・堀口光雄) 演出家。2月16日、肺炎腫のため死去、84歳。大分県出身。1965年から秋田雨雀・土方与志記念青年劇場に所属。「銃口」教師・北森竜太の青春「かげの砦」などを演出した。韓国やロシアでも活躍した。

▼観世豊純氏(本名・宮増純三) 能楽小鼓方観世流十八世宗家。2月18日、膵臓がんのため死去、81歳。東京都出身。

▼喜多六平太氏 能楽シテ方喜多流十六世宗家。2月21日、脳梗塞のため死去、91歳。東京都出身。十五世宗家喜多実の長男。1928年、仕舞「猩々」で初舞台。「禪師曽我」で初シテをつとめた。86年に十六世宗家となり、87年に喜多六平太を襲名した。91年に紫綬褒章。

▼秋田Bスケ氏(本名・北端和夫) 漫才コンビ「秋田Aスケ・Bスケ」のBスケ。2月22日、急性循環不全のため死去、89歳。神戸市出身。2015年8月に93歳で死去したAスケと戦後間もなく、コンビを結成。漫才作家の秋田実の下で学んだ。一時期アイドル的なブームを起した。弟子に元大阪府知事の故横山ノックがいる。

▼水野好子氏 邦楽プロデューサー。2月25日、脳出血後遺症のため死去、91歳。福島県郡山市出身。50年代後半、箏曲家から邦楽プロデューサーに転向。「初春三曲名流選」「初夏三曲名流選」の構成・演出を手がけたほか、「国際音楽の日」フェスティバルの演奏会に長年携わった。邦楽の海外普及にも努めた。

▼ジョージ・ケネディ氏 米俳優。2月28日、死去、91歳。1925年ニューヨーク市生まれ。2歳で舞台デビュー、7歳でラジオの子ども番組の司会を務めた。10代から約15年間、第2次大戦などに従軍。除隊後の59年、テレビドラマや映画に出演、大きな体を生かした悪役で活躍した。67年の「暴力脱獄」でアカデミー賞助演男優賞を受賞。日本映画の「人間の証明」(77年)や「復活の日」(80年)にも出演した。

▼角谷栄次氏 俳優。2月28日、大腸がんのため死去、68歳。大阪府出身。大阪市立大学法学部卒業後、73年に劇団民藝演技部へ入団。代表作に「グレイクリスマス」「星の牧場」「火山灰地」など。テレビではテレビ朝日「はぐれ刑事純情派」相棒元旦スペシャル、TBS「水戸黄門」などに出演した。最後の舞台は13年の「ごろうどろん」旅公演だった。

▼アインクルール氏 指揮者。3月5日、死去、86歳。ベルリン生まれのオーストリア国籍。ウィーン国立音大でチェロを学び、チェリストとしてウィーン交響楽団に入団。1953年、妻らと古楽器楽団「ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス」を創設した。バッハ、ヘンデルなどのバロック音楽を作曲当時の奏法や復元楽器で演奏する先駆けとなり、楽曲に新鮮な息吹を吹き込んだ。2005年には京都賞を受賞した。

▼下哲也氏 劇団俳優座製作部長。3月13日、心不全のため死去、64歳。

▼横町慶子氏 女優。3月17日、死去、48歳。東京都出身。1989〜20

13年6月までロマンチカに所属。看板女優として活躍した。2010年頃、脑梗塞で倒れ活動を一時休止したが身体の麻痺が残った状態で活動を再開した。映画「ハードラックヒーロー」(SABU監督)やテレビドラマ、CMなどでも活躍した。

▼四代目江戸家猫八氏(本名・岡田八郎) 声帯模写。3月21日、進行胃がんのため死去、66歳。東京都出身。祖父、父ともに声帯模写の一家で、1968年に父の三代目猫八に弟子入り、初代江戸家小貓を名乗った。2001年に三代目が死去、その後09年に四代目を襲名した。ウグイスなど動物の声帯模写の第一人者。11年3月には長男が2代目小貓を襲名。

▼相川レイ子氏(本名・相川令子) 音楽座ミュージカル代表。3月25日、がん性腹膜炎のため死去、82歳。秋田県出身。1979年、サマディグループを設立。88年の「ジャボン玉とんだ宇宙そら」までとんだから音楽座ミュージカル脚本、演出家として活躍した。文化庁文化祭芸術祭賞、読売演劇大賞など多数の演劇賞を受賞した。

▼中村歌江氏(本名・中山幸男) 歌舞伎俳優。3月26日、肺炎のため死去、83歳。東京都出身。1951年、六代目中村歌右衛門に入門。10月の大加賀舞伎座公演で中村歌次を名乗り、初舞台。57年7月、歌舞伎座で二代目加賀屋歌江を襲名。96年4月、歌舞伎座公演で初代・中村歌江と改名し、幹部昇進。時代物の局、世話物の女房や廊の番新のほか、老け役にも取り組み、舞台を脇から支える貴重な女方だった。最後の舞台は2015年1月、歌舞伎座「二本刀士俣入」の庄屋女房。永年師の六代目歌右衛門の後見をつとめ陰で支えてきた。

▼バティ・デューク氏 米女優。3月29日、腸破裂による敗血症のため死去、69歳。ニューヨーク生まれ、子役で映画界入りした。1963年、16歳で映画「奇跡の人」でアカデミー賞助演女優賞を受賞。69年には、映画「ナタリーの朝」でゴールデン・グローブ賞主演女優賞を受賞。60年代のテレビシリーズ「バティ・デューク・ショー」に出演。過去8度にわたりエミー賞候補となり、「いとしのチャリリー」などで3度の受賞を果たした。85・88年米俳優組合委員長を務めた。そううつ病に苦しむ自伝を出版し、精神疾患の理解に向けた運動にも取り組んだ。

▼大平透氏 声優。4月12日、死去、86歳。東京都大田区出身。ラジオアナウンサーとして活動始める。1956年、米国のテレビ映画「スパーマン」でスーパーマンの声を担当。魅力的な低音で一躍人気者となった。「スパ

イ大作戦」の指令テープの声や、映画「スター・ウォーズ」のダーク・ペイダーの吹きかえも担当した。アニメ「笑ウせえるすまん」の喪黒福造の声などでも活躍した。

▼アーノルド・ウェスカー氏 英劇作家。4月12日、死去、83歳。長く病気を患っていた。ユダヤ系でロンドン生まれ。貧しいユダヤ人労働者一家を描いた自伝的な三部作、「大麦入りのチキンスープ」「根っこ」「僕はエルサレムのことを話しているのだ」で脚光を浴びた。「いかれる若者たち」と呼ばれた作家の一人で40以上の劇作品を発表し世界各地で上演された。日本でも、「根っこ」や、現代劇「調理場」をミュージカル化した「ザ・キッチン」などが上演された。

▼佳村かこ氏(本名・高橋卓子) 俳優。4月20日、急性心不全のため死去、58歳。名古屋出身。名古屋を拠点に、劇作家の北村想が主宰した劇団の看板女優として活躍した。「寿歌」「杏仁豆腐コロ」などに出演した。

▼ガイ・ハミルトン氏 英映画監督。4月20日、死去、93歳。パリ生まれ。キャロル・リード監督の助監督を経て監督となる。映画「007」シリーズの4作品を監督した。ほかの代表作は「空軍大戦略」「クリスタル殺人事件」など。

▼梅葆玖(メイ・バオジウ)氏 京劇俳優。4月25日、死去、82歳。京劇界きつての名女形・梅蘭芳(メイ・ランファン)の末子(第9子)として1934年に生まれ、10歳から京劇を始め、梅派芸術の継承者として活躍した。

▼山崎有一郎氏 能楽評論家、前横浜能楽堂館長。4月26日、死去、102歳。和歌山県出身。能楽評論家で建築家の山崎崇之の長男で、幼い頃から能楽に親しむ。早稲田大学文学部を卒業後、朝日新聞記者となり、能評論を手がける。専門誌「能楽タイムズ」編集長などを経て、1996年に横浜能楽堂の初代館長に就任、13年まで務めた。13・15年名誉館長。98年度の横浜文化賞受賞、04年文化庁長官表彰、07年、松尾芸能賞功労賞を受賞。著書に「昭和能楽黄金期―山崎有一郎が語る名人たち」(共著)など。

▼前田健氏 お笑いタレント、俳優。4月26日、虚血性心不全のため死去、44歳。東京都出身。歌手松浦亜弥の物まねで知られたほか、俳優として映画やドラマにも出演していた。24日、東京都新宿区の路上で倒れ、救急搬送されていた。

▼佐々木忠次氏 日本舞台芸術振興会代表、東京バレエ団創設者。4月30日、心不全のため死去、83歳。東京都出身。1964年に東京バレエ団を設立し、30か国で海外公演をするなど精力的に活動。パリオペラ座バレエ団や

英国ロイヤル・バレエ団、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座などを招聘。76年から3年に1度「世界バレエフェスティバル」を開催した。

▼新屋英子氏(本名・鶴野英子) 女優。5月2日、肺炎による心不全のため死去。87歳。大阪市出身。1952年に制作座参加、57年に関西芸術座、79年魔笛、94年には野火の会を創立した。在日朝鮮人一世の女性の半生を描いた「芝居(身世打鈴(シンセタリヨン)」を国内外で2000回以上公演した。在日朝鮮人被爆者の苦勞を描いた「チゴリの被爆者」など、演じた一人芝居は計3千回を超えた。「戦争はあかん」「差別はあかん」のメッセージを発した。

▼富田勲氏 作曲家。5月5日、慢性心不全のため死去、84歳。東京都出身。慶応大在学中から作曲を開始。NHK大河ドラマ「花の生涯」、「新日本紀行」『きょうの料理』のテーマ曲などを作曲。1971年に渡米。モーク・シンセサイザーを日本に紹介し、本格的な電子音楽の文化を広めた。74年の「月の光」が日本人として初めて米グラミー賞4部門で候補になるなど世界的に注目された。その後も「展覧会の絵」「火の鳥」「惑星」など多くのヒット作を生んだ。2012年には宮沢賢治の世界に想を得た「イーハトヴ交響曲」でボロカロイドの初音ミクとオーケストラを共演させ、話題を集めた。03年旭日小綬章。03年に映画「たそがれ清兵衛」で日本アカデミー賞最優秀音楽賞。11年度朝日賞、15年度の国際交流基金金賞受賞。

▼櫻井康裕氏(本名・櫻井益男) 脚本家。5月11日、心不全のため死去、87歳。茨城県出身。テレビドラマ「水戸黄門」「銭形平次」「大岡越前」シリーズなどの脚本を手掛けた。

▼蛭川幸雄氏 演出家。5月12日、肺炎による多臓器不全のため死去、80歳。埼玉県川口市出身。開成高校卒業後、1955年に劇団青俳に俳優として入団し、68年に劇団現代人劇場を創立。69年に「真情あふる軽薄さ」で演出家デビュー。72年に演劇集団「櫻社」を結成。74年に同劇団を解散後、「ロミオとジュリエット」で商業演劇に進出。現代劇からシェークスピアやギリシア悲劇など海外の古典・近代劇に至るまで多岐にわたる作品を演出し、日本の美意識を盛り込んだ演出作は海外からも注目され、「世界のニナガワ」と呼ばれた。83年「女王メデア」のギリシャ・ローマ公演を皮切りに87年には英国のロイヤル・ナショナル劇場で演出。99年にはロイヤル・シェークスピア・カンパニーの「リア王」を演出した。2005年には「NINAGAWA十二夜」で歌舞伎(菊之助、菊五郎、時蔵らが出演)を初演出し、ロンドン

で初演。ほぼ毎年、海外公演を重ね、海外との共同制作も度々手掛けた。99年にシアター・コロン(東京)、06年には彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督に就任。シェークスピア全戯曲37作品の上演に挑んだ。高齢者劇団「さいたまゴールド・シアター」や、若者による「さいたまネクスト・シアター」を設立し、俳優の育成に尽力した。厳しい指導で知られたが、演劇の完成度の高さと深さで多くの俳優から慕われた。12、13年には、民族対立でゆれるイスラエルの地でギリシア悲劇「トロイアの女たち」をユダヤ系とアラブ系のイスラエル人俳優と日本の俳優が共演し「他者との共存」の可能性を探った。代表作は「NINAGAWA・マクベス」「近松中物語」「身毒丸」「ムサシ」「唐版滝の白糸」「テンペスト」「海辺のカフカ」「ハムレット」「タンゴ・冬の終わりに」など数知れず。菊田一夫演劇賞(79年)、英国エジンバラ大学名誉博士号(92年)、読売演劇大賞最優秀演出家賞(97、01、06、11年)、毎日芸術賞(00年)、紀伊國屋演劇賞(00年)、紫綬褒章(01年)、名誉大英勳章第3位(02年)、文化功労者(04年)、文化勳章(10年)を受章。 日本演劇協会会員

▼二本真希子氏 アニメーター。5月13日、死去、58歳。大阪府出身。スタジオジブリを中心に活躍。アニメ映画「天空の城ラピュタ」や「となりのトトロ」などの原画を担当した。著書に「世界の真ん中の木」など。

▼稲垣昭三氏 俳優。5月13日、がんのため死去、88歳。神奈川県出身。文学座、雲を経て昂に所属。「どん底」「怒りの葡萄」などに出演。

▼星川京児氏 音楽プロデューサー。5月16日、肝臓がんのため死去、63歳。香川県出身。アジアやアフリカなどの民俗音楽を中心に活動し、映画「ラストエンペラー」の音楽制作にも関わった。代表作は「ワールドミュージックライブラリー」著書に「民族音楽おもしろ雑学辞典」など。

▼根木昭氏 昭和音楽大教授、東京藝大名誉教授、文化政策論。5月16日、腎うがんのため死去、73歳。岡山県出身。文化庁勤務を経て、コンサートホールや演奏家の芸術活動を支援する「アートマネジメント」などを研究。著書に「文化政策の法的基盤」など。

▼水谷優子氏 声優。5月17日、乳がんのため死去、51歳。愛知県出身。「ちびまる子ちゃん」「機動戦士Zガンダム」「スーパーロボット大戦」など数々の声を担当していた。

▼柳家喜多八氏(本名・林寛史) 5月17日、がんのため死去、66歳。東京都出身。学習院大学落語研究会から1977年に柳家小三治に入門し、93年に喜多八に改名して真打ちに昇進した。ニヒルな風貌、洪い声、けだるい語り

だしから、次第に熱を帯びた芸風で観客を引き込んだ。柳家喬太郎、三遊亭歌武蔵と組んだユニット「落語教育委員会」も人気を博した。

▼宮間利之氏 ジャズバンド「宮間利之とニューハード」リーダー。5月24日、老衰のため死去、94歳。千葉市出身。海軍音楽隊を経て、1950年に自ら楽団を結成。58年に現在のバンド名に改め、NHK紅白歌合戦での伴奏など幅広く活動した。74年には米国のモンタレー・ジャズ・フェスティバルに出演した。85年には南里文雄賞を受賞した。

▼朝倉響子氏 彫刻家。5月30日、腸閉塞のため死去、90歳。東京都出身。姉は舞台美術家、画家の故朝倉摂。

▼波多一索氏 日本音楽研究家。6月3日、悪性リンパ腫のため死去、82歳。東京都出身。義太夫協会会長や日本伝統文化振興財団理事長などを務めた。

▼小森昭宏氏 作曲家。6月5日、腎不全のため死去、85歳。東京都出身。童謡「げんこつやまのたぬきさん」音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」、テレビ「プーファン」、NHKドラマ「いちばん星」など多数の音楽を手がけた。東京フィルハーモニー交響楽団の理事も務めた。「サトウハチロー賞」「日本児童演劇協会個人賞」を受賞。

▼ビーター・シェーファー氏 劇作家、脚本家。6月6日、アイルランドで死去、90歳。数多くの優れた戯曲を遺したが、そのなかでも傑出して知名度の高い作品は「アマデウス」。1979年にロンドンで初演、翌年にはブロードウェイで上演され、81年にはトニー賞の最優秀作品賞を受賞した。84年には映画化され、翌年のアカデミー賞授賞式では、作品賞、脚色賞を含む8部門に輝いた。「アマデウス」は世界中で上演され、日本では松本幸四郎が82年の初演からサリエリ役を務めている。

▼宇野功芳氏 本名・宇野功 音楽評論家。6月10日、老衰のため死去、86歳。東京都出身。国立音大音楽科で合唱指揮者を務めると同時に文筆活動も始めた。カラヤンを批判、朝比奈隆の才能をいち早く認めた。既存の権威におもねらず、歯に衣着せぬ評論で親しまれた。指揮者としては日本歌曲の合唱に軸足を置き、オーケストラではベートーベンの「第九」交響曲などを指揮し、斬新な解釈を示した。著書に「指揮者・朝比奈隆」「宇野功芳対話集 演奏の本質」など。

▼青木伸樹氏 芸能事務所「芸映」会長。6月12日、心不全のため死去、89歳。西城秀樹、浅田美代子、河合奈保子らを育てた。

▼中川梨絵氏 本名・長谷川栄 俳優。6月14日、肺がんのため死去、67歳。

東京都出身。日活ロマンポルノ初期のスターとして「恋人たちは濡れた」などに出演した。

▼白川由美氏 本名・二谷安基子 俳優。6月14日、心不全のため死去、79歳。東京都出身。1956年に東宝に入社し、映画「ならず者」でデビュー。「サラリーマン出世太閤記」などの喜劇映画やSF特撮映画「地球防衛軍」などに出演した。夫で俳優の故・二谷英明とJRRのフルムーンパスのイメージキャラクターを務め、話題になった。近年はNHK連続テレビ小説「おひさま」や「家政婦のミタ」などのドラマで活躍した。

▼曽根晴美氏 俳優・映画プロデューサー。6月16日、胆管細胞がんのため死去、78歳。大阪市出身。プロ野球を怪我で断念。1957年第4期東映ニューフェイスに選ばれる。「仁義なき戦い」シリーズや「極道の妻たち」など多くの映画やテレビドラマに主に脇役として出演した。

▼松本雄吉氏 劇作家・演出家。6月18日、食道がんのため死去、69歳。熊本県出身。大阪教育大学で美術を専攻し、1970年に大阪を拠点とする劇団「日本維新派」(後に維新派に改称)を結成。大阪弁をいかした独特のせりふ回しや足踏みを駆使する独自の演劇スタイル「ダンガン☆オペラ」を確立し、岡山県の離島・大島や琵琶湖、大阪・南港など国内外で野外公演を続け、高い評価を得た。オーストラリア、イギリス、メキシコ、ブラジルなど海外でも公演。代表作に「少年街」「水街」「カンカラ」「呼吸機械」「キートン」など。劇団外でも、寺山修司の戯曲「レミング」を演出するなど幅広く活躍した。読売演劇大賞・優秀演出家受賞(05年)、芸術選奨文部科学大臣賞(08年)、朝日舞台芸術賞アーティスト賞(09年)、紫綬褒章(11年)、大阪文化賞(15年度)。

▼アントン・イェルチン氏 米映画俳優。6月19日、事故のため死去、27歳。フィギアスケート選手の間親の下、ロシアに生まれ、幼少期に米国へ移住。2009年公開の映画「スタートレック」の新シリーズや、「ターミネーター4」で好演。日本映画「だれかが私にキスをした」にも出演した。

▼瀬川昌治氏 映画監督。6月20日、老衰のため死去、90歳。東京都出身。渥美清主演の「列車シリーズ」やフランキー堺主演の「旅行シリーズ」といった喜劇映画を数多く手掛ける。「スチュワードess物語」などテレビドラマの監督としても活躍した。

▼柵木真氏 マセキ芸能社会会長。6月22日、虚血性心不全のため死去、89歳。東京都出身。内海桂子、出川哲朗らが所属する芸能事務所を長年率いて、ウッ

チャンナンチャンやナイツを育てた。著書に「マセキ会長回顧録 親子三代芸能者」。

▼西山辰夫氏 俳優・演出家、元大阪放送劇団代表。6月23日、肝不全のため死去、87歳。大阪市出身。テレビドラマ「部長刑事」にレギュラー出演し、「水戸黄門」必殺シリーズに出演した。

▼菅原チネ子氏(本名・若狭チネ子) 女優。劇団朋友所屬。6月26日、肺がんため死去、77歳。岩手県出身。日大芸術学部卒業。舞台を中心に活躍。NHK連続テレビ小説「どんと晴れ」、NHK大河ドラマ「おんな太閤記」TB S系列テレビドラマ「渡る世間は鬼ばかり」などに出演したほか、吹き替えでも活躍した。

▼マイケル・チミノ氏 米映画監督。7月2日、死去、77歳。ニューヨーク生まれ。1974年にクリント・イーストウッド主演のアクション映画「サンダーボルト」で監督デビュー。ベトナム戦争で心身に傷を負った帰還兵を描いたロバート・デ・ニロ主演の「ディア・ハント」が、78年度のアカデミー賞で作品賞や監督賞など5冠に輝いた。

▼アパス・キアロスタミ氏 イランの映画監督。7月4日、がん治療のために滞在していたパリで死去、76歳。1940年、テヘラン生まれ。70年に映画監督としてデビューした。「友だちのうちはどこ?」(87年)、「そして人生はつづく」(92年)、「オリブの林をぬけて」(94年)などが世界的に高く評価された。「桜桃の味」(97年)でカンヌ国際映画祭の最高賞パルムドールを受賞。12年には日仏合作映画「ライク・サムワン・イン・ラブ」を公開した。小津安二郎監督に捧げた「5 Five」を制作した。日本とイランの文化交流への貢献が評価され、13年に旭日小綬章を受章した。

▼永六輔氏(本名・永孝雄) 7月7日、肺炎のため死去、83歳。東京・浅草の寺の息子として生まれた。中学生ころからNHKラジオ「日曜娯楽版」に投稿始める。早稲田大学在学中に同番組を手掛けた三木鶏郎に見いだされ、放送作家、司会者としてデビューした。NHK「夢であいましょう」(1961〜66)などの人気番組の脚本を担当。作曲家の中村八大に誘われ、作詞家業を開始。中村・永のコンビで黒い花びら(第1回日本レコード大賞)「上を向いて歩こう」(こんには赤ちゃん)第5回日本レコード大賞「遠くへ行きたい」など数々の国民的ヒット曲を送り出した。いずみたくと組んだ「いい湯だな」見上げてごらん夜の星を「も大きな反響を呼んだ。60年代半ばからは軸足をラジオの世界に移した。TBSラジオ「永六輔の誰か」とどこか

では放送回数が1万2629回に達し、同一人物が出演する同局の番組としては最長寿となった。エッセイストとしても数々の作品を発表。94年に出版した「大往生」は200万部を超えるベストセラーになった。又「芸人、その世界」など著書多数。60年安保反対闘争に参加し、尺貫法の復活を唱え、市民運動家としても知られた。晩年はパーキンソン病や前立腺がんと闘いながら、ラジオ番組を続けていた。00年には菊池寛賞、14年には毎日芸術賞特別賞を受賞した。

▼大橋巨泉氏(本名・大橋克巳) タレント、放送作家、エッセイスト、評論家、元政治家。7月12日、急性呼吸不全のため死去、82歳。東京都出身。高校時代に俳号「巨泉」を名乗った。早稲田大政経学部新聞学科中退後、ジャズ評論家、放送作家を経て1966年に深夜番組「11PM」の司会者に。「野球は巨人、司会は大橋」のキャッチフレーズで一躍人気を得た。テレビの常識を打ち破りギャングブル、お色気、戦争、平和など、「軟」「硬」取り混ぜて、番組の幅を広げた。「お笑い頭の体操」「巨泉×前武ガバガバ90分」をはじめ、「クイズダービー」「世界まるごとHOWマッチ」「巨泉のこんなモノいいない?」など多くの番組の構成に関わり司会者として活躍した。「はっぱふみふみ」「なんちゅうか、本中華」「倍率、ドン!」「ポイン」「ばかウケ」など数多くの流行語や語録を残した。85年には「11PM」の司会を降板、90年には56歳になったのを機に「セミリタイア」宣言した。2001年、参院選に民主党から、比例代表に立候補し当選したが、党運営に対する不満から半年で辞職した。晩年はオーストラリアやカナダに居を構え季節ごとに生活拠点を移してゴルフや釣り、ジャズ鑑賞を楽しんだ。敗戦の体験を原点に自由や個人、平和、民主主義を貫いた。著書に「巨泉 人生の選択」など。1994年から延べ20年にわたって書き続けた週刊現代での連載コラム。最終回とした7月9日号では「最後の遺言」として「選挙民をナメている安倍晋三に一泡吹かせて下さい」と参院選での野党への投票を呼びかけた。

▼ゲイリー・マーシャル氏 米映画監督、俳優。7月19日、死去、81歳。1934年、ニューヨーク生まれ。テレビの連続コメディイなどの脚本を手がけ、映画監督に。代表作は「ブリティ・ウーマン」(90年)「ブリティ・プリンセス」(01年)など。俳優として「007 ゴールドフィンガー」などに出演した。

▼前田行夫氏 能楽シテ方観世流。7月19日、老衰のため死去、98歳。東京都出身。

▼狩野瑠璃氏(本名・狩野丹秀) 能楽シテ方喜多流。7月24日、死去、79歳。熊本県出身。熊本県能楽協議会会長。

▼中村紘子氏(本名・福田紘子) ピアニスト。7月26日、大腸がんのため死去、72歳。山梨県出身。幼いころから天才少女ピアニストと注目され、1965年にシヨパン国際ピアノコンクールで入賞し、最年少者賞も受賞。チャイコフスキー国際コンクールやシヨパン国際ピアノコンクールなど数々の権威あるコンクールの審査員も務めた。浜松国際ピアノコンクールを、審査委員長として世界レベルに押し上げた。著書「チャイコフスキー・コンクール」で大宅壮一ノンフィクション賞を受けるなど、文筆家としても活躍した。2008年紫綬褒章、09年日本芸術院賞・恩賜賞。

▼八田満穂氏 演出家。8月3日、死去、85歳。愛知県出身。劇団新人会会「炎の人ゴッホ小伝」「早春の賦 小林多喜二」などを演出。同劇団の代表を務めた。

▼平田実音氏 元子役。8月5日、肝不全のため死去、33歳。東京都出身。NHK教育テレビ「ひとりできまるもん!」(1991年)で初代・舞ちゃん役を務めた。ゲストとして「NHK紅白歌合戦」にも出演した。

▼梅津栄氏(本名・梅津栄二しげる) 俳優。8月6日、肝硬変のため死去、88歳。富山県出身。舞台芸術学院卒業後、劇団青俳に入り、俳優木村功の付き人を務めた。その後、テレビドラマや映画、舞台で味のある脇役として活躍した。主な出演作にドラマ「水戸黄門」「Gメン'75」、映画「復讐するは我にあり」、舞台「ペリグリーズ」など。

▼水原明人氏(本名・石尾三治) 脚本家。8月10日、間質性肺炎などのため死去、87歳。東京都出身。NHKのドラマ「ドブネズミ色の街」「モンテカルロ・テレビ祭審査員特別賞」などの脚本を手掛け、日本脚本家連盟理事を務めた。著書に「江戸語・東京語・標準語」など。

▼小松幹生氏 劇作家。8月12日、胃がんのため死去、75歳。高知県出身。1968年早大演劇科卒業。主な作品に「雨のワンマンカー」「スラブディフェンス」など。日本劇作家協会運営委員。同協会新人戯曲賞などの選考委員を務めた。日本演劇協会会員。

▼小田芳信氏 劇団仲間の制作部長。8月13日、死去、62歳。

▼ケニー・ペイカー氏 英俳優。8月13日、死去、81歳。英バーミンガム出身。身長112cmの小人症の役者。「スター・ウォーズ・シリーズ」のR2-D2役を演じた。

▼山下賢章氏 映画監督。8月16日、急性心不全のため死去、81歳。鹿児島県出身。1969年、早大第一文学部哲学科卒業後、東宝に入社。岡本喜八監督の下で長く助監督を務めた。79年に監督デビューし、「19ナインティーン」「ゴジラVSスペースゴジラ」などを手がけた。

▼アーサー・ヒラー氏 カナダの映画監督。8月17日死去、92歳。カナダ・エドモントン生まれ。1970年に公開された「ある愛の詩」はアカデミー賞7部門にノミネートされ、世界中で大ヒットした。93〜97年に映画芸術科学アカデミー会長を務めた。01年にアカデミー賞特別賞「ジョン・ハーショルト博愛賞」を受賞した。

▼吉田文雀氏(本名・塚本和男) 人形浄瑠璃・文楽人形遣い。8月20日、心停止のため死去、88歳。東京都出身。1945年に二世吉田玉市の預かりとなり、吉田和夫の名で初舞台。50年に名人の吉田文五郎に師事、文雀を名乗った。「文楽の生き字引」と称された。深い造詣に基づく解釈で女形のほか、老人、武士など幅広い役柄を演じた。公演で人形の首(かしら)の割り振りを決める首割(かしらわり)を長年務めた。当たり役に「菅原田教授手習鑑」の「仮名手本忠臣蔵」の戸無瀬、「妹背山婦女庭訓」の定高、「菅屋道満大内鑑」の葛の葉、「摂州合邦辻」の玉手御前、「良弁杉出来」(二月堂)の渚の方などがある。88年芸術選奨文部大臣賞、91年に紫綬褒章、94年に人間国宝に認定された。今年3月に高齢を理由に引退を発表した。

▼十勝花子氏(本名・加藤恵子) 女優。8月21日、大腸がんのため死去、70歳。北海道出身。1966年に歌手デビュー。テレビドラマ「大地の子」などに出演。映画やバラエティ番組でも活躍した。

▼顧正秋(ご・せいしゅう)氏(本名・丁祚華(てい・そか)) 京劇女優。8月21日、敗血症ショックのため死去、86歳。京劇を戦後の台湾に伝えた名女優。台湾の主な芸術活動を総なめにした。

▼ジン・ワイルダー氏(本名・ジェローム・シルバーマン) 米俳優・映画監督。8月28日、アルツハイマー病の合併症のため死去、83歳。奇才メル・ブルックス監督の映画「プロデューサーズ」「ブレイキングサドル」「ヤング・フランケンシュタイン」などで主役を務めた。軽妙な演技で人気を博した。

▼松山善三氏 映画監督 脚本家。8月27日、老衰のため死去、91歳。神戸市出身。岩手医学専門学校(現岩手医大)中退後、1948年に松竹入社。木下恵介監督の「二十四の瞳」などに助監督として参加。シナリオづくりなどを学んだ後、脚本家としてデビュー。61年に「名もなく貧しく美しく」で監督業

に進出。他にも「われ一粒の麦なれど」「ふたりのイーダ」「典子は、今」など、社会的弱者をヒューマニズムの視点から描いた作品を数多く発表した。女優高峰秀子と55年に結婚。おしどり夫婦として知られた。87年に紫綬褒章、95年に勲四等旭日小綬章を受章した。

▼堀上謙氏 能楽評論家、「能楽ジャーナル」元編集長。9月10日、膀胱がんのため死去、85歳。東京都出身。能の普及と啓蒙をライフワークとした。著書に「能楽ハンドブック」「能の集積回路」など。

▼飯島篤氏 舞台写真家。9月11日、老衰のため死去、81歳。旧満州(中国東北)生まれ。森下洋子やビナ・パウシュら国内外の舞踊家を撮影してきた。

▼エドワード・オルビー氏 米劇作家。9月16日、死去、88歳。幼いころから詩や小説を執筆していた。戯曲「動物園物語」や、「パージニア・ウルフなんかこわくない」で注目を集め、「デリケート・バランス」などで3回、ピューリッツァー賞を受賞した。

▼松本ひろし氏(本名・松本弘) 脚本家。9月19日、急性骨髄性白血病のため死去、87歳。東京都出身。フジテレビの「ぼうふら紳士(1960年)」で脚本家デビュー。クレージーキャッツの映画「ニッポン無責任時代」、ザ・ドリフターズやコント55号の主演作など、喜劇映画の脚本を数多く手がけた。80年代にはドラマ「池中玄太80キロ」をヒットさせた。向田邦子らとともに「七人の孫」「だいこんの花」なども執筆。テアトル・エコーにも脚本を提供した。

▼カーチス・ハンソン氏 米映画監督、脚本家。9月20日、死去、71歳。アルツハイマーを患っていた。「L・A・コンフィデンシャル(1997年)」でアカデミー賞脚色賞を受賞した。

▼風見章子氏(本名・中村フサ) 女優。9月28日、老衰のため死去、95歳。群馬県出身。1930年代、浅草を拠点に喜劇を上演した「エノケン一座」を経て、映画界入り。39年に内田吐夢監督の映画「土」で主演デビュー。「宮本武蔵」「飢餓海峡」「眠る男」などに出演。00年「忘れられぬ人々」で仏ナント三大陸映画祭主演女優賞。テレビでも「ケンちゃん」「シリーズのおぼあちゃん」役など多数のドラマで活躍した。

▼ネビル・マリナー氏 英国の指揮者。10月2日、死去、92歳。1958年に英国のアカデミー室内管弦楽団を創設した。米映画「アマデウス(84年)」の音楽を担当した。

▼井上竜夫氏(本名・井上龍男) 吉本新喜劇俳優。10月5日、高度肺気腫のため死去、74歳。兵庫県尼崎市出身。1859年、松竹新喜劇の曾我廼家五

郎八に入門。63年に、吉本興業に移り吉本新喜劇の役者として活躍した。若い頃から老け役が多く、新喜劇では登場する際の「おじやまんにゃわ」のギャグで人気を博し「竜じい」の愛称で親しまれた。

▼アンジェイ・ワイター氏 ポーランドの映画監督。10月9日、死去、90歳。ポーランド北東部生まれ。ウッチ映画大学卒業。レジスタンスの体験を基にした長編「世代(54年)」で監督デビュー。「地下水道(56年)」「灰とダイヤモンド(58年)」では、「抵抗3部作」として国際的な評価を得た。自主管理労働「連帯」を取り上げた「鉄の男(81年)」でカンヌ国際映画祭のバムドール(最高賞)を受賞。89年、歌舞伎役者の坂東玉三郎を主演にドストエフスキーの「白痴」を下敷きにした舞台「ナスタースヤ」を演出。95年に勲三等旭日中綬章を受けた。00年、米アカデミー賞特別名誉賞、06年、ベルリン国際映画祭の名誉金熊賞を受賞。

▼田中一成氏 声優。10月10日、脳幹出血のため死去、49歳。大阪府出身。大阪芸術大学放送学科卒業。テレビアニメ「ハイキュー!!(鳥糞撃心)」、「地獄先生ぬ〜べ〜(木村克也)」などの声をはじめ、洋画の吹き替えやナレーターとして活躍した。

▼ダリオ・フォ氏 イタリアの劇作家、俳優。10月13日、死去、90歳。伊北部サントジャノ生まれ。軽演劇の俳優から出発し、脚本を執筆。反体制を貫き、現代社会を痛烈に批判する鋭い批評性で学生や労働者から支持を獲得。代表作は「ミステロー・ブッフオ」「アナキストの事故死」など。97年にノーベル文学賞を受賞した。日本での上演歴も多い。

▼中村蝶蝶氏(本名・飯島俊雄) 歌舞伎俳優。10月14日、老衰のため死去、87歳。東京都出身。三代目中村時蔵に子役で入門。1937年に初舞台を踏み、四代目・五代目時蔵らの師匠番であった。当たり役に「直侍」のそば屋女房おおよ、「名月八幡祭」のおつたなど。松竹社長賞、日本俳優協会功労賞、文化庁長官表彰などを受けた。

▼春日千春氏 大映テレビ顧問。10月16日、肺炎のため死去、82歳。長野県出身。プロデューサーとして山口百恵主演の「赤いシリーズ」や「スクール☆ウォーズ」など、多くのテレビドラマを手掛けた。

▼肝付兼太氏(本名・肝付兼正) 声優。10月20日、肺炎のため死去、80歳。鹿児島県出身。「ドラえもん」でスネ夫役を務めたほか、「怪物くん」のドラキュラ役や「それいけ!アンパンマン」ホラーマン役などで人気を博した。

▼伯田青竹氏(本名・白田正義) 劇作家・演出家。10月20日、肺炎のため死

去、91歳。東宝演劇部に勤務し北條秀司の弟子としても活躍。日本演劇協会の事務方としても貢献した。

▼平幹二郎氏 俳優。10月23日、自宅の浴槽で亡くなっているのが見つかった。82歳。広島市出身。死亡日は22日と判明。1956年に俳優座入団。仲代達矢と並ぶホープと目された。63年のテレビドラマ「三匹の侍」ではニルな浪人役を演じ人気を博した。68年に俳優座を退団。同年劇団四季の「ハムレット」に主演。76年「卒塔婆小町」で蜷川幸雄と組み、「王女メディア」近松心中物語「NINAGAWAマクベス」など17作品を共に、海外でも高い評価を得た。NHK大河ドラマ「樫の木は残った」(70年)、「国盗り物語」(73年)で主演。84年に芸術選奨文部大臣賞、88年に都民文化栄誉賞、98年に紫綬褒章、05年に旭日小綬章を受章した。

▼中村鶴蔵氏(本名・桐ヶ谷貢一郎) 前進座座友、歌舞伎俳優。10月23日、慢性硬膜下血腫のため死去、91歳。東京都出身。前進座創立メンバーの四代目村中鶴蔵の長男で、1955年に五代目村中鶴蔵を襲名。前進座の歌舞伎公演の主要俳優として活躍した。

▼春野百合子氏(本名・佐伯昌) 浪曲師。10月25日、老衰のため死去、89歳。大阪市出身。浪曲師の二代目吉田奈良丸、初代春野百合子の間に生まれた。東京の昭和女子薬学専門学校(現・昭和薬科大)を中退して1948年、大阪・中座で初舞台を踏み二代目を襲名。男女の情愛をうたった文芸浪曲を開拓した。代表的な浪曲に「樽屋おせん」「おさん茂兵衛」「女殺油地獄」藤十郎の恋など。浪曲親友協会会長を91年から98年まで務めた。芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、勲四等宝冠章などを受けた。

▼小林正彦氏 石原プロモーション元専務。10月30日、虚血性心不全のため死去、80歳。三重県出身。石原プロの「番頭」として映画、ドラマ、イベントなどを仕切った。映画「黒部の太陽」、テレビドラマ「西部警察」などの制作も手掛けた。

▼吉永春子氏 元TBSディレクター、番組制作会社「現代センター」代表。11月4日、脳出血のため死去、85歳。広島県三原市出身。1955年にTBSに入社。旧日本軍による人体実験の真相に迫ったドキュメンタリー「魔の731部隊」などを手がけた。91年に定年退職後、現代センターの代表となり、社会派ドキュメンタリーを制作した。著書に「昭和の事件に触れた」「七三」「謎の毒薬」推究帝銀事件「さすらいの未復員」など。

▼荒戸源次郎氏(本名・吉村敏夫) 映画プロデューサー。11月7日、虚血性心疾患のため死去、70歳。長崎県出身。状況劇場などを経て1980年、鈴木清順監督の「ツイゴインルワイゼン」をプロデュース。東京タワーの下にエアドーム型のミニ映画館「シネマ・プラセット」を建てて上映。既存の配給・興行会社に頼らない方式が「産直映画」と話題になって観客を集め、キネマ旬報ベスト・ワンなど、この年の映画賞を総なめにした。89年には阪本順治監督の「どついたるねん」を産直方式で公開。阪本監督の新人賞など数多くの賞を受けた。95年「ファザーフアッカー」で自ら監督デビュー。2003年には、寺島しのぶ主演の監督第2作「赤目四十八滝心中未遂」で、毎日映画コンクールの日本映画大賞を受賞。05年、東京国立博物館内に「二角座」を建て、大森立嗣監督の「ゲルマニウムの夜」をロングラン公開した。

▼ラウル・クタール氏 フランスの撮影監督。11月8日死去、92歳。パリ生まれ。戦場カメラマンなどを経て、J・ゴダール監督の「勝手にしやがれ」「気狂いビエロ」や、F・トリュフ監督の突然炎のごとくなどの撮影を担当。50年代に始まった仏映画の新潮流、ヌーベルバーグの担い手の一人として名高く、大島渚監督の「マックス、モン・アムール」の撮影も手がけた。

▼ワイルド氏(本名・鎌田小恵子) シンガー・ソングライター、女優。11月11日、肺がんのため死去、64歳。福岡市出身。1972年に歌手デビュー。ハスキーな声で人気を集め、「私は泣いています」などがヒットした。大島渚監督の映画「夏の妹」で女優デビュー。11月11日のため死去、83歳。ニューヨーク生まれ。1960年、黒沢明監督の「七人の侍」をリメイクした西部劇映画「荒野の七人」に出演。64年から日本でも放送され大人気となったテレビシリーズの「001ナポレオン・ソロ」で主役を演じた。80年の日本映画「復活の日」などにも出演した。

▼英太郎氏(本名・大久保秋久) 新派俳優。11月11日、虚血性心不全のため死去、81歳。新潟県出身。1952年、新派の名女方の初代英太郎に弟子入り。73年に二代目を襲名した。「婦系図」や山田洋次監督が脚本・演出した「麦秋」、「東京物語」など新派の舞台に多く出演した。13年には「FULEHOUSE」で米オフ・オフ・ブロードウェイ出演。大阪松竹座「九月新派特別公演」での「深川年増」のおよしが最後の舞台となった。84年、松尾芸能賞演劇特別賞、同年、菊田一夫演劇賞、86年、「遊女夕霧」の夕霧役などで芸術祭賞を受賞した。新派の女方芸を現代に継承している最後の若ともいえる存在であった。

▼中村明氏 全日本児童舞踊協会理事長。11月16日死去、86歳。東京都出身。05年から16年まで、東京新聞主催の全国舞踊コンクール審査員を務めた。

▼飯塚二郎氏 映画監督。11月17日、多臓器不全のため死去、84歳。静岡市出身。58年に日活に入社して助監督を務めた後、映画「蒸気機関車の詩」太陽は泣かないなどを監督した。

▼高橋清祐氏 劇団民藝演出家。11月19日、虚血性心筋梗塞のため死去、84歳。東京都出身。1961年に同劇団員となり、故宇野重吉の演出助手を務めた。代表作は、小幡欣治作「浅草物語」など。

▼フロレンス・ヘンダーソン氏 米女優。11月24日心不全のため死去、82歳。インディアナ州出身。18歳でブロードウェイデビュー。1970年代に全米で人気となったABCテレビのホームコメディ「ゆかいなブレイディ家」で、3男3女の子育てに奮闘する母親を明るく演じ、「米国の理想のママ」と評された。

▼宗像和氏 本名・清水義明 作曲家。11月25日、心不全のため死去、88歳。横浜市出身。中国で公演された「白毛女」など松山バレエ団に数多く楽曲を提供した。満州（現中国東北部）からの引き揚げを題材にした声楽曲「カンタータ 凍土からの声」を作曲した。

▼藤城裕士氏 声優。11月26日、突発性間質性肺炎のため死去、76歳。千葉県出身。アニメ「機動戦士Vガンダム」などに出演。洋画の吹き替えも担当した。

▼若柳東穂氏 本名・上野作子 日本舞踊家、正派若柳会会長。11月29日、急性呼吸不全のため死去、79歳。富山市出身。12年、東京新聞制定の舞踊芸術賞受賞。

▼小川宏氏 アナウンサー。11月29日、多臓器不全のため死去、90歳。東京都出身。早稲田大学卒業後、NHKに入局。クイズ番組「ジェスチャー」の司会を10年間担当し、人気を集めた。NHK退局後、65年にフジテレビの朝のワイドショー「小川宏ショー」の司会を17年間にわたって務め、テレビの朝の顔として親しまれた。92年ごろ、うつ病にかかったが克服し、体験談を出版し、講演活動を行った。

▼チャンス青木氏（本名・青木博志）漫談家。11月29日、心不全のため死去、72歳。熊本市出身。1972年に宮城けんじに弟子入りし、77年に斎藤チャンスと「Wチャンス」を結成。83年、コンビを解消し、2008年にチャンス青木に改名。若手の指導役として漫才協会の理事を務めた。

▼黒沢美香氏（本名・黒沢美香子）ダンサー。12月1日、死去、59歳。横浜市出身。実験的で個性の強いダンスで知られ、コンテンポラリーダンスのバイオニアとして日本ダンス界を牽引した。代表作は「零度のダンス」、「薔薇の人」（偶然の果実）シリーズなど。全国舞踊コンクール1位入賞など受賞多数。

▼越賀義隆氏 能楽シテ方観世流。12月4日、多臓器不全のため死去、94歳。大阪市出身。

▼武藤まき子氏 芸能リポーター。12月5日、虚血性心不全のため死去、71歳。山梨県出身。中国放送のアナウンサーを経て、82年からフジテレビ「おはようナイスデイ」や「とくダネー」などに出演した。「おまきさん」の愛称で親しまれた。

▼ワレリー・ベリャコフ・ウィッチ氏 モスクワ・ユーゴザバト劇場芸術監督。12月6日、心筋梗塞のため死去、66歳。ユーゴザバト劇場は、1990年の「ハムレット」での初来日後、数回の来日公演を成功させた。

▼鶴澤友路氏 本名・宮崎君子 淡路人形浄瑠璃の義太夫三味線奏者。12月13日、心不全のため死去、103歳。兵庫県福良町（現・南あわじ市）出身。幼少時から義太夫を志し、36年に六世鶴澤友次郎に師事。41年に鶴澤友路を襲名した。女流義太夫三味線の第一人者として活躍する一方淡路人形座の指導にも尽力した。60代からは海外公演にも取り組んだ。100歳を超えても自宅で弟子の指導にあたった。95年、文化庁長官表彰、98年、人間国宝に認定、2007、旭日小綬章受章。

▼カレル・フサ氏 指揮者、作曲家。12月14日、死去、95歳。チェコスロバキア生まれ。共産党政権に抵抗し、米国に移住。1968年のチェコの変革運動「プラハの春」を受けて書いた吹奏楽のための「プラハのための音楽1968」で世界に知られた。69年にビュリツァー賞受賞。

▼伊東理昭氏 俳優。12月15日、脳腫瘍のため死去、63歳。神奈川県出身。1978年に劇団員に入り、85年に劇団員に「アンネの日記」「炎の人」「海霧」などの舞台に出演した。

▼島木譲二氏（本名・濱伸二）吉本新喜劇俳優。12月16日、脳出血のため死去、72歳。兵庫県出身。元プロボクサーで「大阪名物バチバチパンチ」や「ポコポコヘッド」などのギャグで人気を博した。

▼伊藤巴子氏（本名・船本巴子）女優。12月17日、心不全のため死去、85歳。東京都出身。主に「劇団仲間」で活躍。児童演劇の普及などに取り組んだ。舞

台「森は生きている」などに出演した。中国を始め、海外との演劇交流にも尽力した。

▼ザ・ザ・ガボール氏 ハリウッド女優。12月18日、心疾患のため死去、99歳。ハンガリー・ブタペスト生まれ。映画「赤い風車」やオーソン・ウェルズ監督の「黒い罌」などに出演した。私生活の華やかさやホテル王コンラッド・ヒルトンらと9度の結婚歴で話題となった。

▼ミシェル・モルガン氏 仏女優。12月20日、死去、96歳。パリ郊外ヌイイシュルセーヌ生まれ。ジャン・ギャバンと共演した映画「霧の波止場」(1938年)で有名になる。約70本の映画に出演。「田園交響楽」(46年)で第1回カンヌ国際映画祭主演女優賞を受賞。20世紀フランスの代表的な映画女優だった。

▼キャリー・フィッツシャー氏 米女優。12月27日、死去、60歳。西部ビバリーヒルズ生まれ。1977年開始の人気映画「スター・ウォーズ」シリーズ第1〜3作で、レイア姫を演じて人気女優となった。

▼デビー・レイノルズ氏 米女優。12月28日、死去、84歳。テキサス州出身。1948年に女優デビュー。27日に死去した女優キャリー・フィッツシャーの母。52年のミュージカル映画「雨に唄えば」に出演して注目を集めた。

▼ビートル・ハルバー氏 仏ミュージシャン、俳優。12月28日、心臓発作のため死去、82歳。パリ生まれ。大ヒットした仏映画「男と女」(66年、クロード・ルルーシュ監督)に出演し、「ダバダバダ」というフレーズが印象的な主題歌の作詞も手掛けた。日本人の潮田敦子と再婚。東京にも拠点となるライブハウスを設け、音楽活動を行った。

▼根津甚八氏 俳優。12月29日、肺炎のため死去、69歳。山梨県出身。唐十郎主宰の劇団「状況劇場」を経て、1978年の大河ドラマ「黄金の日日」で石川五右衛門役を演じ脚光を浴びた。83年、映画「さらば愛しき大地」と「この子の七つのお祝いに」の演技で日本アカデミー賞主演男優賞の優秀賞、88年にはこの愛の物語などの演技で同助演男優賞の優秀賞に選出された。近年は心身の調子を崩し一線を退いていた。

▼清元栄三氏(本名・小柳泰一) 清元節三味線方。12月31日、膵臓がんのため死去、80歳。東京都出身。1951年、清元栄寿郎(当時・清元栄次郎)に入門。93年、文化庁芸術祭賞、18年、旭日小綬章。2003年に人間国宝に認定され、清元協会副会長として後進の育成にも努めた。